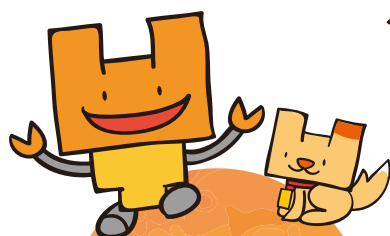


# 地域カルテ

～地区ごとにみる地域特性～



地域発!  
福祉パワーで  
まちづくり



社会福祉法人 松山市社会福祉協議会  
松山市地区社会福祉協議会連絡会



## <『地域カルテ』の見方>

掲載情報は随時、追加・更新し、各地区の地域福祉推進に活用していきます！

### ①地区の概要

- ・面積、人口、世帯数、高齢化率は松山市地区別推計人口、また、年齢階層別人口は松山市地区別年齢別住民基本台帳登録の平成30年4月1日現在のデータを記載しています。
- ・地区の特徴は松山市公民館連絡協議会ホームページを参考にしています。

### ②地域住民からみた地域の状況

- ・研修会のワークショップや会議の意見として、地区社協関係者や民生委員・児童委員をはじめとする地域住民の方々から出された内容をまとめて記載しています。

### ③地区社協の概要と取り組み

- ・平成30年度現在の各地区社協の活動状況及び地区社協が目指すものを記載しています。

### ④地区内関係団体データ

■地区民協	平成30年4月1日現在の定数
■まち協の設立	平成30年11月1日現在の設置状況
■町内会等	平成30年度町内会等状況調査（基準日：平成30年6月1日）
■高齢クラブ	松山市高齢クラブ連合会登録数（平成30年4月1日現在）
■子ども会	平成30年度松山市子ども会連合会加入数
■自主防災組織	自主防災組織 地区別結成状況（平成30年4月1日現在）

### ⑤地域福祉推進のポイント

- ・聖カタリナ大学 教授 恒吉和徳氏をはじめとする学識経験者の皆様から地域福祉推進に向けたコメントをいただいております。

《ご協力いただいた聖カタリナ大学の先生方》

教授 田中顕悟氏、准教授 村岡則子氏、准教授 釜野鉄平氏、助教 近藤益代氏



ごみょう

# 五明地区

面積：17.04 km<sup>2</sup>

人口：493人（高齢化率 47.5%）

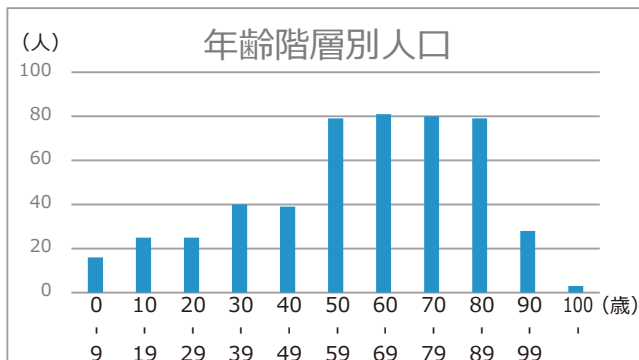
世帯数：259 世帯

## 【地区の特色】

五明地区は、市内中心より北東に位置し、標高 300m の中山間地域で自然に恵まれた地域である。花崗岩<sup>かこうがん</sup>土壌と昼夜の温度差がある立地条件を生かし、古くからぶどう栽培に取り組んでいる。また、伊予万歳などの芸能文化の振興を盛んに行っている。地区内には源氏ホテルが自然発生する「五明川」が流れており、地域が一体となって「ふるさとの自然と文化の継承」に努めている。



五明小学校児童による伊予万歳



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>顔見知りが多く、どこの誰だか把握できる ・ 家庭内の事情がある程度わかる</li> <li>個人でゴミ捨てや買い物の助け合いをしている</li> <li>移動スーパーが来る</li> <li>車での通勤、通学時間は混雑も少なく 20 分～30 分で市内中心部へ行ける</li> <li>自然が豊かで季節を肌で感じることができる</li> <li>食べ物（タケノコ、ブドウなど）がおいしい</li> <li>自主防災と連携し災害時の避難の仕組みを作っている</li> <li>地域おこし協力隊がホームページ等で地域の広報活動をしている</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢世帯や独居世帯が増えた</li> <li>子どもが少ない</li> <li>若い人が街へ出てしまう</li> <li>交通の便が悪く、通院、買い物が不便</li> <li>利用者数減によるバスの便数の減少</li> <li>イノシシ、シカ、サルによる作物被害</li> </ul>
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢化と少子化（児童減少で小学校の存続が心配）</li> <li>交通の便が悪い ・ 免許証を返納すると外出が困難</li> <li>金融機関が遠い ・ 店が少ない ・ 坂道が多い</li> <li>空き家、空き地も多くそうじが行き届いてない、活用出来ていない、危険</li> <li>災害時の危険箇所が多い</li> <li>高齢者の地域の役が多い ・ 後継者不足</li> <li>在宅で生活し続けることが難しい</li> </ul>



## 五明地区社会福祉協議会

人が好き 自然が好き 五明が大好き

<b>構成団体</b>	地区民協・区長会・まちづくり協議会	
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>	
シクラメン配布	毎年12月に五明苑の入所者と在宅の75歳以上独居高齢者、90歳以上の高齡者世帯を訪問し、シクラメンをプレゼントしています。	
五明小マラソン大会	毎年2月に開催されるマラソン大会に様々な団体が参加協力し、見守り活動を行っています。	
夏休み大清掃	小学生が気持ちよく二学期を迎えることができるよう、通学路および小学校周辺を地域の方で清掃しています。	

### お米作り体験学習

福祉学習事業の一環として、公民館、PTA、民生委員・児童委員と連携し、田植えから稲刈り、もちつき、しめ縄作りまでの各種農作業を通して児童の教育と地域の幼稚園児から高齢者までの交流を支援しています。



### <地区社協が目指すもの>

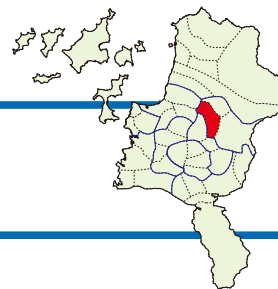
五明地区社協は、公民館をはじめとする地区内の団体と連携し、自主防災訓練、敬老会、さくらまつり、ほたるまつり、盆踊り大会、地区運動会、しめ縄づくり、もちつき、ふる里まつりなどの地域行事と並行した社協活動の実施を基本方針としています。

今後の目標としては、五明地区まちづくり協議会との連携をさらに深め、日常生活の困りごとを地域住民同士で支えあっていけるよう地域福祉活動の強化を目指していくものとします。

<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	6名 2名	■町内会・自治会・区長会等	6団体
	■まち協の設立	平成23年度	■高齢クラブ ■子ども会 ■自主防災組織	0クラブ 0団体 5組織

五明地区の活動の魅力は、「地域愛を核とした互助」と「地区の文化や伝統の継承をとおりした世代を超えたつながり」です。山間部ということで人口が少なく、交通の不便さはありますが、高齢になっても五明に住み続けていたいという思いを住民同士が理解しあう中で助け合いが実現しています。また、地区内の関係団体が協力し合うことで、季節ごとの伝統行事等の多くが伝承され、お互いが顔の分かる関係ができています。地域おこし協力隊やまちづくり協議会などの広報活動によって、タイムリーに住民のエネルギーを発信していることも魅力的です。人生を楽しみながら安心して住み続けられる地域へと着実に歩みを進めている地区だといえるでしょう。





# 伊台地区

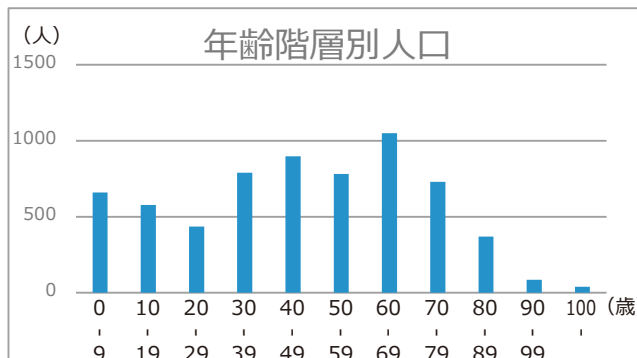
面積：12.45 km<sup>2</sup>  
 人口：6,353 人（高齢化率 27.6%）  
 世帯数：2,654 世帯

## 【地区の特色】

伊台地区は、松山市の北東に位置する標高約 150m の盆地である。今でもたくさんの自然が残っており、野菜や果樹等の生産が盛んである。また「薄墨桜（うすずみざくら）」のある西法寺、本村天神社等数多くの史跡がある。市内からも近いため、松山市のベッドタウン的性格を持っており、地区外からの転入も多い。



薄墨桜



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古い歴史を持った地域と新興地域とが融合した活動ができている</li> <li>・Uターン家族が多く、新興住宅地の子どもは増えている</li> <li>・地区の役員にアンケートをとったところ、92%の人が環境に恵まれており、住みやすいと感じている               <ul style="list-style-type: none"> <li>・自主防災組織があり、防災への意識が強い</li> </ul> </li> <li>・ゴミ出しに困っている人を地域の人が助けるなど、地域の間関係がよい</li> <li>・アップダウンが多くウォーキングに適した地形               <ul style="list-style-type: none"> <li>・犯罪が少ない</li> </ul> </li> <li>・新しく道ができて便利になった</li> <li>・自治会ごとに子ども会が活発に活動している</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通機関の運行が少ない</li> <li>・店舗、医療機関が少ない</li> <li>・土砂災害の危険箇所が多い</li> <li>・獣害問題</li> <li>・上下水道が自己管理</li> </ul>
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の割合が高い地域（70才以上が18%）である</li> <li>・独居高齢者の孤立</li> <li>・公共交通機関が少ない（本数、運行時間）</li> <li>・店舗が少なく、買い物に不便を感じている</li> <li>・各種団体役員の後継者不足</li> </ul>

## 伊台地区社会福祉協議会

<b>構成団体</b>	地区民協・公民館・分館・小学校・中学校・社会福祉法人・地域代表者会 消防団・中央農協・自治会・駐在所・高齢クラブ・PTA・まちづくり協議会
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>
サロン活動の支援	いきいきサロン7ヶ所と地域交流サロン1ヶ所の活動が充実し、サロン同士の繋がりが深まるように支援を継続して行っています。
ふれあい交流会	毎年、小学校低学年の児童と高齢者がスポーツやそうめん流し、ピザ作りの交流会を通じて親睦を深めています。
各種団体との連携	避難所開設時の支援や地域行事への参加協力など、地区内の各種団体と連携し活動の強化を図っています。

### 買い物弱者等支援事業（毎月第2日曜日）

交通の不便解消の為、福祉工房いだい清風園（障がい者支援施設）と協働で毎月第2日曜日に高齢者・障がい者等を対象に、買い物支援を行っています。清風園のバスを活用し、市内のスーパーで買い物をしたり昼食をとるなど、参加者同士の交流にも繋がっています。



### <地区社協が目指すもの>

「楽しく、笑顔のある町、安らぎと思いやりのある町」を目指して、まちづくり協議会、公民館などその他関係機関と協力しながら、薄墨桜祭り、校区大運動会、秋祭りなどを通じて、旧住民と新興団地住民の交流を深めています。

さらに、サロン活動を通じて高齢者の介護予防に努めたり、地区の高齢者・障がい者の支援を目的に、買い物弱者等支援事業を福祉施設と協働で実施するなど、各種福祉サービスを通じて地域の福祉促進に努め、住み良いまちづくりを目指しています。

<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	11名 2名	■町内会・自治会・区長会等	13団体
	■まち協の設立	平成29年度	■高齢クラブ ■子ども会 ■自主防災組織	2クラブ 0団体 12組織

伊台地区の活動の魅力は、「新旧の住民の交流」と「社会資源との協働」です。一般的には、旧住民と新興団地住民の関係性は課題として挙げられることが少なくないですが、伊台地区は乗り越えています。また、社会福祉法人等の福祉施設の地域貢献として、高齢者等の買い物支援といった日常生活支援が既の実現しており、7月豪雨災害を教訓として、今後、地域で取り組もうとしている避難行動及び避難所開設の訓練や仕組みづくりにも福祉施設等の協働が進められています。地区社協の構成団体が互いの強みを持ち寄った活動を継続することで、さらに住民が「安らぎと思いやりのある町」と実感する地区になることが期待できます。





ゆ や ま  
**湯山地区**

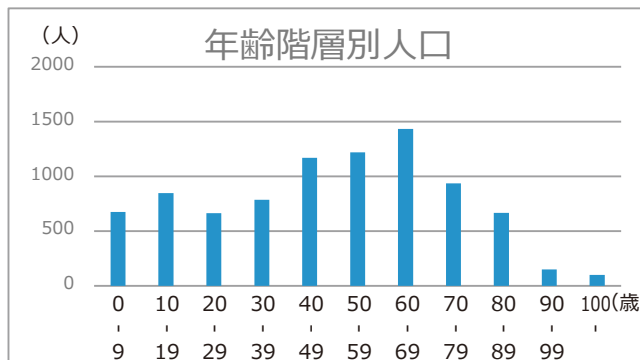
面積：61.16km<sup>2</sup>  
人口：8,846人（高齢化率 30.3%）  
世帯数：4,025世帯

**【地区の特色】**

湯山地区は、松山市街東部・石手川の流域に位置し、以前はのどかな農山村であったが急速な宅地造成が進んでいる。また、石手川ダム上流の国道317号線沿いに位置する日浦地区は、近年は過疎化、高齢化が進んでいるが、石積みの棚田や彼岸花の自生する自然景観の美しい地域であり、地域全体が一丸となって、ほたるの里づくりなど水源保全地区ならではの活動を続けている。



たけのご掘り



**【地域住民からみた地域の状況】**

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の行事等の参加者が多い</li> <li>・地域がまとまりやすい</li> <li>・顔を見るだけで誰かわかる関係ができています</li> <li>・自然がいっぱい ・たけのこがおいしい</li> <li>・市内中心部まで近い ・生活がしやすい</li> <li>・家賃が安い</li> <li>・出会い（伝統的な近隣の助け合いのしくみ）がある</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老々介護人口が増えている ・子どもが減っている</li> <li>・個人情報の問題があり、家庭に入りにくい</li> <li>・交通が不便である ・バスの便が少ない ・バス停までが遠い</li> <li>・空き家、空き地が増えている</li> <li>・坂道が多く、高齢者にはしんどい</li> <li>・人を集めるのが大変 ・獣害被害</li> <li>・出会いの活動が年約10回と少なくなった</li> </ul>
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独居高齢者が増え、高齢化率が進んでいる</li> <li>・60歳以下の人が少ない（日浦地区）</li> <li>・公共交通機関が少ない（バスの便が少ない） ・運転免許がないと生活できない</li> <li>・地域によっては、生活関連施設や医療、福祉関連施設がない</li> <li>・防災に関する不安（避難所に行くまでの不安、避難所の耐震性が不安）</li> <li>・児童館や高齢者の集いの場がない</li> <li>・地域を守ろうとする意識が低い</li> </ul>



## 湯山地区社会福祉協議会

<b>構成団体</b>	地区民協・公民館・支所・地区連絡協議会・日浦区長連合会
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>
高齢者見守り活動	独居高齢者に手作り弁当の配布や寝たきり及び認知症の方のお宅を訪問しお見舞金を渡すなど、地区民協と協力し見守り活動を行っています。
世代間交流	小百合保育園の園児と地域の高齢者が歌や工作、一緒に昼食をとるなどし、交流を深めています。
健康講座	健康維持に関する話を聞くとともに、活動を通して地域の絆が深まり、住みやすい地域づくりの推進になるよう開催しています。

### 夏休み将棋教室（8月）

地域の将棋名人が湯山児童クラブの子どもたちに毎年夏休みを利用して将棋を教えています。ここで将棋を学ぶ子や年々腕を上げる子も多く、対局を楽しみにしています。将棋教室を通じて世代間の交流が深まっています。



#### <地区社協が目指すもの>

湯山地区は、松山市の水瓶となる石手川ダムがある地区で、石手川の流域に集落が点在するのどかな農山村地域です。道後に隣接する地域では宅地造成等が進み、人口増加の傾向にありますが、石手川ダム上流の日浦地区では特に少子高齢化や過疎化が進んでいます。

湯山地区では、地域住民の交流が図れるふれあい・いきいきサロン等を通じて、誰もが安全で安心して暮らせる地域・環境づくりを目指しています。また、災害時の救援活動として行政や諸関係機関・団体等と連携し、要支援者等の把握にも努めています。

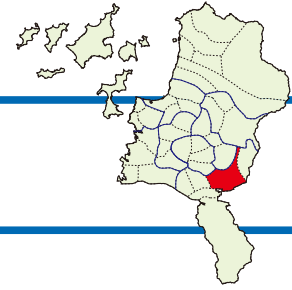
<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	15名 2名	■町内会・自治会・区長会等	38団体
			■高齢クラブ	5クラブ
			■子ども会	8団体
	■まち協の設立	平成28年度	■自主防災組織	40組織

道後に隣接するエリアから石手川ダム上流エリアまでと、40地区の中で一番面積の広い湯山地区。高齢化や過疎化など、地区内の課題対応とともに、水源保全地区ということで、広く松山のためにも活動を担っている地区です。ここでは、地域の伝統的な近所の助け合いの仕組みとして「出合い」が残っている一方で、30年ほど前に生まれた新興住宅地においても、顔を見ればどこの誰かがわかり、認知症の人を見守るコミュニティが育っています。災害への不安は尽きないものです。自主防災組織数もまた40地区で最多という強みをいかし、現在検討を進めている防災および災害時の救援活動の対策を具体化させることで、住民の不安軽減が期待できます。



# く め 久米地区

面積：9.83 km<sup>2</sup>  
人口：30,497人（高齢化率 23.2%）  
世帯数：13,960世帯

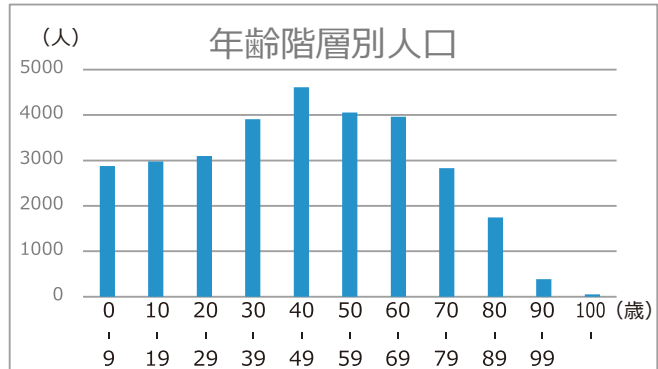


## 【地区の特色】

久米地区は、松山市の東部方面に位置し、国道 11 号線の整備により交通の便がよくなったことから、人口が急増しており、松山市のベッドタウンとしての性格が一層濃くなってきている。また、地下にボーリングを打ちこみ温泉の開発に成功して東道後温泉郷としても知られている。



五郎兵谷古墳群の埴輪



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域によっては人と人のつながりが密なところもある</li> <li>・ 婦人団体連絡協議会の活動が活発 ・ 行事などへの参加者が多い</li> <li>・ 里山公園があり世代を超えて活動している ・ 中学生が行事に積極的に参加</li> <li>・ 城南高校の生徒が地域の活動に関わり交流がある ・ 子どもが多い</li> <li>・ 公民館、自主防災、高齢クラブ、サロンの活動が活発 ・ 伊予鉄電車が通っている</li> <li>・ 生活関連施設、病院、施設が多い ・ ふれあい食堂が活発 ・ 通学合宿 ・ 治安がよい</li> <li>・ 地区内 4 校の小学 4 年生を対象とした里山キャンプがある（220 名参加）</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢化が進んでいる ・ 各団体の情報の共有ができていない</li> <li>・ 商店街の衰退 ・ 防災の意識が低い</li> <li>・ 住居地によっては交通手段がなく駅までが遠い</li> <li>・ 町内会への加入減少 ・ オートロックマンションの増加で声かけが困難</li> <li>・ 公園はあるがボール遊びができない ・ 子どもが外で遊んでいない</li> <li>・ 地域活動に参加する人が限られている</li> <li>・ 社会資源について知ってもらう機会がない</li> </ul>
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障がい者の把握が難しく、支援が行き届かない</li> <li>・ 認知症の見守りが難しい</li> <li>・ 個人情報保護のため情報が把握できない</li> <li>・ 各団体との連携⇒防災面での情報共有不足</li> <li>・ 住居地によって生活の不便がある（交通、買い物等）</li> <li>・ マンションの増加による要援護者の安否確認</li> <li>・ 社会資源の啓発がうまくできていない</li> </ul>

## 久米地区社会福祉協議会

<拠点> 松山市鷹子町 740 鷹子老人福祉センター内 2F TEL: 089-975-2882

<b>構成団体</b>	地区民協・町内会・自治会・母子福祉会・婦人団体連絡協議会・PTA 中学校・小学校・消防分団・交通安全協会
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>
福祉だよりの発行	年2回作成し、地域福祉に関する情報を発信するため町内会と連携し、広報委員を通じて全戸配布しています。
独居高齢者・高齢クラブ 会員との交流会	登録している独居高齢者と高齢クラブ連合会会員を対象に、演芸発表やカラオケなどを楽しみながらの交流会等を毎年5月と10月に開催しています。
災害時等MAP作製	要支援者名簿を基に災害時等に活用できるよう、個人情報適切な取り扱いの上、住宅地図への転記作業を行っています。

### 独居高齢者暑中・寒中見舞い（8月・1月頃）

登録している独居高齢者に対する毎月の見守りの他、お盆と年明け時期に民生委員・児童委員が自宅訪問しています。デイサービス利用などお留守の時は在宅時間を電話等で確認し改めて伺い、直接顔を見てお話す事でコミュニケーションが取り、暑さ寒さの時期の安否確認になります。“ありがとう”と言われるとお互いに嬉しい気持ちになり、活動の継続に繋がっています。



### <地区社協が目指すもの>

鷹子老人福祉センター内に事務所を置き、久米地区全体の福祉に関する相談窓口になっています。2017年度には町ごとに福祉施設の一覧表を掲載した福祉マップを作成して、全戸配布により福祉のしくみを紹介しました。2018年度には災害時に一人では避難の困難な高齢者や障がい者の方々がスムーズに避難できるように、要支援者への連絡方法や避難場所及び避難手段についての確認作業を進めています。また、子どもたちの登下校時の見守りも積極的に行い、小中学校との情報共有に努め、老若男女誰もが安心・安全に暮らしていける地域づくりの実現を目指しています。

<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	39名 2名	■町内会・自治会・区長会等	12団体
			■高齢クラブ	10クラブ
			■子ども会	11団体
	■まち協の設立	平成26年度	■自主防災組織	11組織

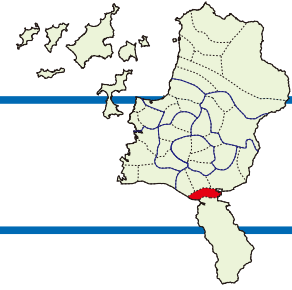
地区社協が中心となって独居高齢者や子ども達の登下校見守りなどを実施することで、全世代が住みやすい街づくりに住民とともに取り組んでいます。災害の比較的少ない地区ですが、過去に小野川の氾濫や地震などを経験していることから、防災に対する意識が高く、MAP作りや防災用品を備えるなど防災への取り組みを熱心に行っています。高齢化が進むほかマンションの増加による住民間交流の難しさはありますが、地区社協で取り組んでいる交流会や暑中寒中見舞いなどの地域内の人間関係を維持する重要な活動は継続されており、今後は多様な住民を巻き込んだ活動となっていくことが期待できる地区だといえるでしょう。



うけな

# 浮穴地区

面積：5.9 km<sup>2</sup>  
人口：9,532人（高齢化率 27.1%）  
世帯数：4,225世帯

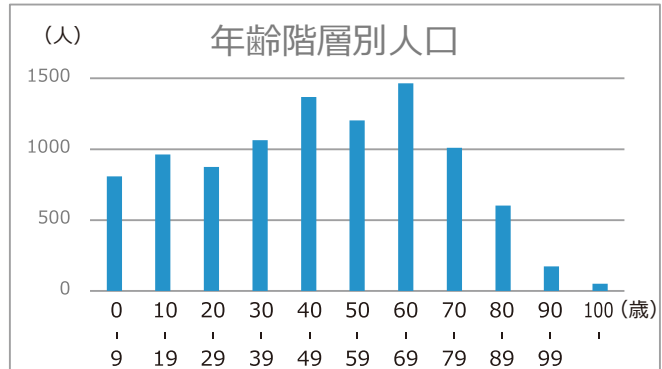


## 【地区の特色】

浮穴地区は、松山市の南部にあり東西約 6.7km、南北は広いところで 1.3km と細長く、重信川と内川にはさまれた地形である。地区には伏流水と呼ばれる地下水の流水があり、全国名水百選に選ばれた杖ノ淵泉は親水公園として水辺に親しめるように整備され、年間を通して大勢の人々が訪れている。



杖ノ淵公園



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事が多く、子どもが積極的に参加しており近所の繋がりがあ</li> <li>・春祭りや秋祭りを、(井門・森松・南高井) 各地区で行っている</li> <li>・重信川の河川敷でスポーツや花壇、ウォーキング、サイクリングなどが楽しめる</li> <li>・サロン活動に参加する高齢者が元気</li> <li>・水が豊富で松山市の上水道の水源の一つがある</li> <li>・交通の要衝で高速道路、松山インターがある</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化が進んでいる 若年層の流出が多い</li> <li>・地区によっては公共交通機関での移手段が少ない</li> <li>・行事は多いが参加者が少ない (若い世代、男性)</li> <li>・子ども減少のため、行事が出来なくなっている</li> <li>・地域によっては高齢者が歩いて行ける距離にスーパーがない</li> <li>・水害の可能性 (内水氾濫を含む) が高いが、水害時に避難できる高台が無い</li> </ul>
地域が抱える福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化 (地区の世話人等の高齢化、後継者問題)</li> <li>・公共施設の老朽化、高齢者が公民館の2階に上がれない (エレベーター希望)</li> <li>・老々介護、老人性うつ病の増加、高齢者の独居世帯の増加⇒孤独死の不安</li> <li>・公共交通機関が少ない、ループバスを充実させて欲しい</li> <li>・核家族化している、子どもが外で遊ばなくなっている</li> <li>・空き家問題⇒治安が悪くなる</li> <li>・洪水時の要支援者等への対策は急務</li> </ul>



## 浮穴地区社会福祉協議会

構成団体	総代・町内会・公民館・共同募金会・地区民協・自治会・交通安全協会 自主防災組織連合会	
主な取り組み	活動内容	
福祉だよりの発行	年1回2月発行・大口共同募金の折込広告発行	
サロン交流会の開催	毎年3月公民館の文化祭で作品の展示・演芸の発表・お茶の接待	
講座の開催	年1回 一般地区住民対象（地域の仲間作りや福祉に関する勉強会）	

### 地区社協役員全員集合！

地区社協役員が定期的に集まり、疑問に思うことや地域に関する話題などから課題を抽出し情報を共有している。その中から「地域のみんなが参加できる支え合い」を模索しています。



### <地区社協が目指すもの>

各家庭での自立を願い、先ず家族の支え合いが優先、次に地域で支え合い、高齢化の実情に合わせ、みんなで見守り合い、人の気配を感じながら安心できる住処を維持させるために、会話を楽しむ機会をつくり、地域での交流を多くしていくことを目指します。

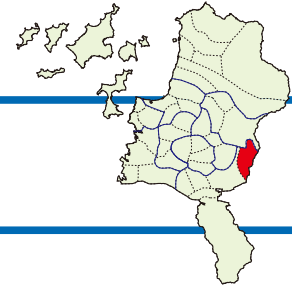
地区の状況	■地区民協 民生委員 主任児童委員	13名 2名	■町内会・自治会・区長会等	5団体
			■高齢クラブ	5クラブ
			■子ども会	4団体
	■まち協の設立	—	■自主防災組織	5組織

本地区では高齢化が進み買い物困難者の増加も課題となっていますが、地域貢献活動に携わる住民の意識が高くサロン活動を積極的に参加・運営しているほか、地区社協役員の定期会ではより住みやすい地域づくりのための活発な意見交換が行われています。また、自主的に重信川河川敷の清掃・花壇整備を行う人がいるなど、住民一人ひとりが主体的に取り組むことで地域を支えています。この貴重な人的資源を大切にしながら、地区の特徴でもある多くの行事に子どもや若い世代が参加しやすくなるように家族、近隣、地域の三層構造で支え合う体制づくりが期待されています。



# おの 小野地区

面積：26.5km<sup>2</sup>  
人口：17,498人（高齢化率 29.9%）  
世帯数：7,801世帯



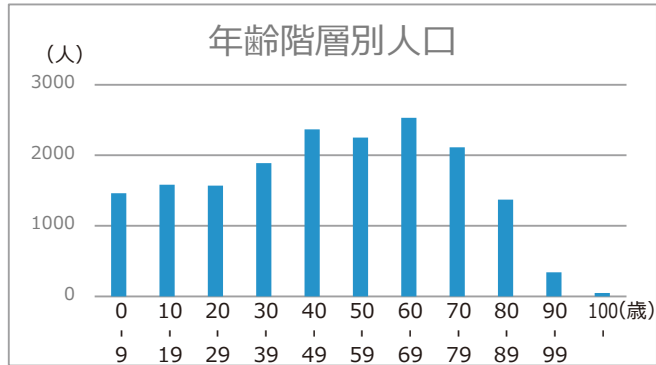
## 【地区の特色】

松山市の最東部に位置し、小野町、北梅本町、南梅本町、平井町、水泥町の5町から構成され、伊予鉄道横河原線沿線という好条件と病院や商業施設が備わった地域でありながら都会らしくもなく、そして程よい田園風景の残る地域で、近年急激に人口が増加している。

1公民館、1小学校、1中学校の地域性から住民同士の連帯感が強く、義理と人情がまだまだ残っている地域である。



小野地区の全景



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあいサロン小野（月～金の毎日型） ・公民館や小野支所などが社協に協力的</li> <li>・サロン農園があり、近所の人が協力的 ・サロンに各団体が集まり人材確保が容易</li> <li>・自然豊か ・包括支援センターによる出張相談</li> <li>・小学校からそのままのメンバー（生徒）で中学校に上がる</li> <li>・地域全体で子どもの見守り、健全育成 ・子どもの挨拶が立派</li> <li>・犯罪が少ない ・災害が少ない ・地域の団結力 ・スポーツに熱心</li> <li>・地域役員の連携が密</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サロン活動で若い人が少ない（協力会員も高齢化している）</li> <li>・小野サロンの立地が地区の中心ではない ・小野サロンの施設の劣化</li> <li>・道路、通学路が狭い ・高齢化率約 30% ・高齢者の交通不便</li> <li>・企業が少ない ・飲食店が少ない ・農業に従事する人が少ない</li> <li>・バスの廃線（小野谷） ・災害の不安（山地部）</li> <li>・スポーツ施設が少ない</li> <li>・行事のお世話人さんなど後継者不足</li> </ul>
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化率が年々高くなっている</li> <li>・独居高齢者（特に男性高齢者）増加傾向</li> <li>・若い人、男性の福祉に対する関心が薄い</li> <li>・認知症の人が増えている ・自力で移動できない人の増加</li> <li>・若い女性は勤めに出ているため活動に参加できない ・入院できる病院が少ない</li> <li>・健康のため高齢者によるボランティア活動への参加促進</li> <li>・避難準備情報が出ても行動しない人が多い ・コミュニティバスの配備希望</li> </ul>

## 小野地区社会福祉協議会

心響きあう♥与力の里

<拠点> 松山市水産町 972-1

TEL / FAX : 089-976-1200

<b>構成団体</b>	地区民協・公民館・分館・PTA・中学校・小学校・学識経験者 身体障がい者協会・平井商店会・社会福祉法人
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>
福祉だよりの発行	年に2回 12,000部を作成・全戸配布し、地域活動のPRや福祉に関する情報を発信しています。
福祉のつどい	毎年4月に福祉施設と合同でミニ運動会を開催します。会場の小学校の体育館には約300人の地域住民(サロン参加者・幼稚園児)が集います。
福祉講座の開催	年1回、高齢者の身体や認知症など、生活に関する身近なテーマでの開催を目標として実施しています。

### ふれあいサロン小野 (月～金の週5回)

平井商店街の一角に地区社協の拠点でもある毎日型のふれあいサロン小野があります。常時、協力会員がおり、プロから講習を受けたコーヒーの提供や月曜日限定の手作りカレーの販売などもあり、地域住民が気軽に集える場となっています。介護予防体操や手芸、囲碁や将棋も楽しめます。



### <地区社協が目指すもの>

小野地区では地域の住民が気軽に集える憩いの場を作ることが目的とし、平成16年に平井商店街の空き店舗を活用して地区社協の事務所とサロンを開設、平日(月～金)週5日運営を行っています。

「心響きあう♥与力の里」を基本理念に、地域の各種団体や施設等と連携しながら、地域住民が安心して住みよい、住んで良かったと感じる地域を目指し、今後の高齢社会に向け若い世代の活動拡大を目指します。

<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	24名 2名	■町内会・自治会・区長会等	21団体
	■まち協の設立	—	■高齢クラブ ■子ども会 ■自主防災組織	5クラブ 15団体 17組織

毎日型のふれあいサロンは全国的にも模範的なサロンとなっています。サロンにおいて定期的な食事提供や参加者の趣味活動など多様な活動が継続しているのは、地区社協や協力会員の連携や意欲の高さによるものです。毎月1回行われる管理運営委員会では地区社協内の各部会の報告や情報共有、意見交換などが行われるなど、常に活動がブラッシュアップされています。他機関の役員を兼ねる参加者も多いことから、この会が他団体との連携に繋がるという特徴もあります。サロンをはじめ地域貢献活動は担い手の世代交代が全国的な課題となっています。本地区のこれからの取り組みによって世代交代の新しいモデルが生まれ、全国へ発信される日が来るかもしれません。





いし い ひがし

# 石井東地区

面積：4.27 km<sup>2</sup>

人口：30,026 人（高齢化率 24.1%）

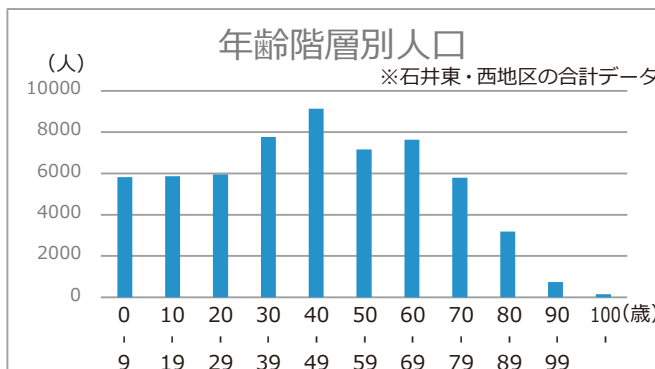
世帯数：13,436 世帯

## 【地区の特色】

石井東地区は、市街地に近く天山・東山などの緑や温泉などの自然環境にも恵まれ、星岡古戦場・縦瀨城跡など多くの史跡、文化財が残っており、肥沃広大な耕地をもとに穀倉地帯として発展してきた。また、毎年旧暦の正月七・八・九日の三日間に渡って行われる椿祭りでは、伊予豆比古命神社に多数の参拝客らが訪れる。近年では急速に市街化が進み、人口3万人を数え、市内で最も発展を遂げている。



毎年賑わう椿まつり



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口が多い（3万人）</li> <li>・協力会員約 400 名、民生委員・児童委員の連携が取れ活動が活発</li> <li>・社会資源として、すべての面で恵まれている（介護事業所、南警察署、南消防署等）</li> <li>・石井ボランティアや住民の活動が活発である ・高齢クラブが各町にある</li> <li>・生活関連産業もたくさんある</li> <li>・交通の便がよい ・松山インターチェンジがある ・稼働年齢層が多い</li> <li>・サロン 18 ヶ所、毎日型の集いの場 1 ヶ所、子育て支援センター 2 ヶ所で活動が盛ん</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時に避難する場所が少ない（3万人が小学校 2 校、中学校 1 校のみ）</li> <li>・川幅が狭い為、大雨時、氾濫の恐れがある</li> <li>・人口に対して公園、スポーツ施設が少ない</li> <li>・人口に対して支所、公民館がせまい ・支所、公民館への交通手段が不便</li> <li>・将来的にヘルパーさんが関わる時間が短いと困る高齢者が増えるのではないかと</li> <li>・交通渋滞が起きやすい ・道が細く溝が多い箇所がある</li> <li>・集会所の老朽化問題</li> </ul>
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口が 30,000 人を超えて、高齢者が多い</li> <li>・労働人口が多いので、支える側の絶対数が少ない</li> <li>・人口に対して公民館、支所、その駐車場が少ない</li> <li>・人口に対して避難場所が少ない</li> <li>・交通の不便（バスの路線見直し、ループバスの整備）</li> <li>・川幅が狭い為大雨時、氾濫の恐れがある</li> <li>・高速道路陸橋下の空き地の活用</li> </ul>



# 石井東地区社会福祉協議会

安心を笑顔で支える「人つなぎ夢つむぎ」

<拠点> 松山市居相 1 丁目 8-26 石井支所 2F

TEL / FAX : 089-904-4874

<b>構成団体</b>	地区民協・公民館・町内会・総代会・有識者・高齢クラブ連合会		
<b>主な取り組み</b>		<b>活動内容</b>	
福祉だよりの発行		「夢つむぎ」として年3回 12,000 部を作成し、全戸配布。地域福祉に関する情報を発信しています。	
地域の集いの場	IMA カフェ	・月に1回日曜日に開催、地域で採れた野菜やコーヒーなどの提供	
	マンボ	・誰もが気軽に集える場として月～金曜毎日開放している	
	星ぐるま	・ひとり暮らしの高齢者へのお弁当作成及び配布による見守り	
避難行動要支援者名簿作成		災害時等の避難誘導の際に活用出来るよう、世帯別状況を色分けし、毎年更新して名簿からMAPを作成します。	

## 福祉交流会（10月）

地域の独居高齢者と障がいのある「おふくの会」の方約 200 名との交流会を開いています。手作りのちらし寿司を用意して、民生委員・児童委員、みまもり員による工夫を凝らした演芸を披露しています。また、参加者全員に配布される絵手紙を毎年楽しみに集めていらっしゃる方もいます。



### <地区社協が目指すもの>

安心を笑顔で支える「人つなぎ、夢つむぎ」のコンセプトのもと、地域住民が主体となって互いに支え合う小地域福祉活動の推進に努めます。地区内には 65 才以上の高齢者の内、約 4 割 3,000 人（障がいのある人を含む）の災害時要支援者がおり、今後増え続ける要支援者を支える、支え合える「住民力」「地域力」の育成をめざします。超高齢社会の中で共生社会実現のためには向こう三軒両隣の顔の見える関係づくりが必要であり、一人ひとりが支えてこそ意義がある事を啓発すると共に地域に密着した福祉活動を推進していきます。

<b>地区の状況</b>	■地区民協	43 名 3 名	■町内会・自治会・区長会等	11 団体
	民生委員		■高齢クラブ	17 クラブ
	主任児童委員		■子ども会	11 団体
	■まち協の設立	平成 23 年度	■自主防災組織	19 組織

人口の多さは地区社協協力会員の多さに必ずしも比例するものではありませんが、同地区では多くの会員がいることや、実践面においても福祉交流会などの事業が活発に行なわれていることは大きな特徴だといえるでしょう。地区社協の策定する「地域福祉活動計画」においても、地域住民が主体となった「夢くらぶ（委員会）」を組織し、基本理念（コンセプト）を明確にして PDCA サイクルすべてに関与しています。丁寧な話し合い、実施、振り返りを行うなど地域福祉推進の基礎組織としての役割を果たしています。この計画性や組織力をいかして、市街化にともなう人口増加によって生じる課題に対して、独自の視点で解消していくことが期待されています。





いし い に し

# 石井西地区

面積：4.54 km<sup>2</sup>

人口：29,067人（高齢化率 23.3%）

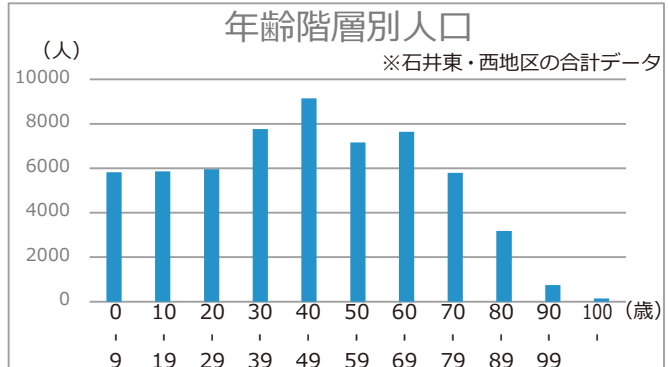
世帯数：13,793 世帯

## 【地区の特色】

石井西地区は、松山市の南部に位置し、北部を西に流れる石手川・小野川、南部を西に流れる重信川・内川に囲まれた肥沃な穀倉地帯として発展してきた。近年、急速に市街化が進行したのは地理的・社会生活上の諸条件にも恵まれているためである。特に、地区の中心部に市道千舟古川線（古川はなみずき通り）や市道北久米和泉線が整備され、市民の散歩道として利用されるほか、松山市保健センター南部分室・南部児童センターが開所され、多くの市民に利用されている。



はなみずき通り



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療、教育、買い物等、生活環境は整っていて便利で人気のエリアである</li> <li>・閑静な住宅街が多い ・高齢者の社会参加が活発である</li> <li>・道路網が整備されており、市内外移動は便利である</li> <li>・子育てしやすい町づくりに取り組んでいる</li> <li>・高齢者に優しい取り組みをしている</li> <li>・近隣高校の生徒が南部児童センターで地域の子どもたちと交流している</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共の交通機関がバスしかない為、車の移動が多く道路の渋滞がはげしい</li> <li>・新しい住宅を建てる土地が少ないので、若い人が入ってこない町がある一方、マンションや新興住宅が増え、若い人が増えている町もある</li> <li>・人と人との関わりが希薄である</li> <li>・観光資源が少ない ・空き家が増えてきている</li> <li>・高齢化が進んでいるが対策が追いついていない</li> </ul>
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣住民の人間関係が希薄になり、世代間の交流も少なくなっている</li> <li>・子どもの減少、遊び場が少なくなっている ・避難所が少ない</li> <li>・町内会などが実施する地域行事への若い世代の参加が少なく、町内への関心も遠のいている</li> <li>・町内の担い手（町内の役員や民生委員など）が育たない</li> <li>・個人情報保護が壁になり、障がい者、ひとり親家庭など手助けがしにくい</li> <li>・町内放送、防災無線が聞こえにくい ・防災対策が進んでいない</li> </ul>

## 石井西地区社会福祉協議会

石井西 やすらぎのまち 愛の町

<拠点> 松山市居相 1 丁目 8-26 石井支所 2F TEL : 089-956-0248 / FAX : 089-958-9962

<b>構成団体</b>	地区民協・公民館・町内会・まちづくり協議会	
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>	
各種講座の開催と周知	認知症サポーター養成講座や脳トレサロンの実施、福祉講座を開催しています。年3回 36,000 部発行の福祉だよりにて周知・啓発・報告をし理解者の拡大に努めています。	
災害に備えた取り組み	避難行動要支援者名簿の作成と更新及び「無事ですフラッグ」を利用した安否確認を防災訓練時に実施しています。	
高齢者の社会参加や交流の促進	ふれあい・いきいきサロン、健康マージャン脳トレ教室、福祉交流会の開催をしています。	

### 認知症キッズサポーター養成講座+(プラス)

各町で行っている認知症サポーター養成講座を新たに 30 年度より小学 4 年生を対象に開催しました。講義や DVD を通して認知症について学んだ後、地域の方が認知症高齢者に扮し、実際に声かけ訓練を行います。声をかけるタイミングなどを考えながら子どもたちの総合的な学習となります。



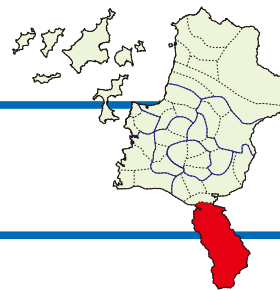
### <地区社協が目指すもの>

石井西地区では近年、南環状線・はなみずき通りなど道路網が整備され、市街化が進み町の雰囲気は急速に変わってきました。このような地区の特性を考慮し、「石井西 やすらぎのまち 愛の町」を基本理念として、人と人のつながりの再構築に取り組みます。また、松山市社協の企画・提案を取り入れつつ、まちづくり協議会や町内会・その他関係機関・団体とも連携・協働して各町の実情に応じた柔軟な福祉活動を計画・企画・実施します。そして、住民誰もが心豊かに安心して暮らし続けることができる地域づくりを目指します。

<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	44 名 3 名	■町内会・自治会・区長会等	11 団体
			■高齢クラブ	17 クラブ
			■子ども会	11 団体
	■まち協の設立	平成 23 年度	■自主防災組織	19 組織

本地区では小学生を対象にした認知症キッズサポーターの養成の際に、地域の方が高齢者役を担ったワークも実施しています。本養成講座は地域内の世代間交流にもつながる貴重な生涯学習の場だといえます。このように、地区社協ではより良い事業運営を図るために、住民座談会の意見や事業参加者からのアンケートをもとに事業の効果や必要性の可視化を導入し、検証し深めて改善をするなど、仕組みを有効に活かしながら事業を展開しています。新興住宅の増加による人間関係の希薄化の課題はありますが、社会参加が活発である高齢者の力も借りながら、地域の変化に合わせた新しい形を見せていただきたくなる地区です。





# くたに 久谷地区

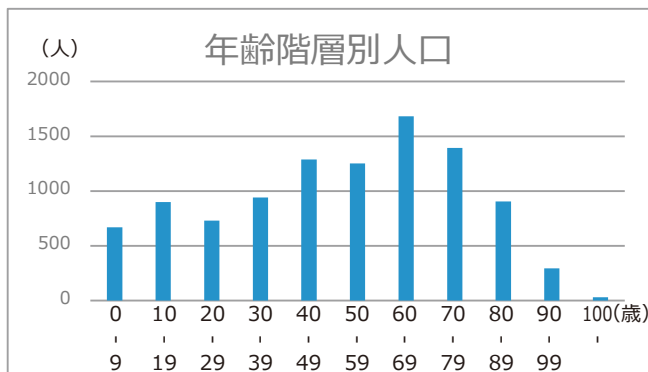
面積：44.65 km<sup>2</sup>  
人口：10,078人（高齢化率 35.7%）  
世帯数：4,795 世帯

## 【地区の特色】

久谷地区は、松山市の南部に位置し、緑豊かな田園地帯である。文化財などの史跡伝説の町でもあり、また、昭和 38 年に決議された文教宣言に基づき、生涯教育の推進をモットーとしている。伝統文化の継承や仲間づくり、青少年の健全育成を図り、また、近隣愛を高めながらふるさとの再発見活動を展開している。



三坂峠から見る久谷



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近所の人協力してくれる</li> <li>・おせったいの文化がある</li> <li>・昔からの集落なので隣近所 3 代に渡って顔見知り</li> <li>・元気な高齢者が多い</li> <li>・町内会のシステムが確立している</li> <li>・自主防災の意識が強い</li> <li>・地区の若い人が活動をしている</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家と家が遠い</li> <li>・交通機関がなく通勤通学に不便</li> <li>・市街化調整区域で新しい住宅が建設できない</li> <li>・空き家が多い ・高齢者を雇う事業所がない</li> <li>・80 歳代以降の年金額が少ない（農業従事のため）</li> <li>・少子高齢化が進んでいる</li> <li>・過疎と高齢化に伴い、行事等の共同作業が困難になりつつある</li> </ul>
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者、独居高齢者が多く、見守り等が必要</li> <li>・空き家が多い</li> <li>・子どもが減っていて伝統文化の継承が難しい</li> <li>・高齢化により、地区の行事での共同作業が困難になりつつある</li> <li>・買い物、通院の交通が不便</li> </ul>



## 久谷地区社会福祉協議会

ふれあい、助け合い、おもてなしの里「くたに」

<b>構成団体</b>	地区民協・総代会・公民館・自治会・高齢クラブ連合会・女性連絡協議会 協力会・PTA・中学校・小学校・交通安全協会・福祉施設・支所
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>
福祉だよりの発行	年2回7,000部を作成し、地域福祉に関する情報を発信するため回覧にて全戸配布しています。
交流会の開催	年齢の違いやハンデのある子どもから高齢者までがお互いを理解し一緒に楽しめる季節ごとのイベントを年に10回開催しています。
福祉講座の開催	年に4回開催しており、介護保険や服薬など高齢者の暮らしに必要な情報をテーマ設定し、専門分野の方を講師にお迎えして開催しています。

### 年賀施設訪問（1月頃）

毎年約50箱のミカン箱を久谷地区にある高齢・障がい者施設へお年賀として贈呈しています。お届けする地区社協の担当者も顔を見て直接お渡しすることで、受け取っていただく方の笑顔を見ることができ、お互いが毎年楽しみにしている行事となっています。



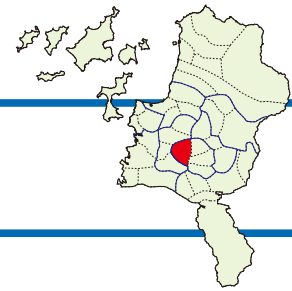
### <地区社協が目指すもの>

少子高齢化が進み、現在、高齢化率は35%を超えています。今後高齢者のみの世帯が増えてくる事が懸念されるこの地域では“ふれあい、助け合い、おもてなしの里「くたに」”を基本理念とし、地域で誰もがいつまでも安心して心豊かに暮らせる街づくりを目指して、今まで以上に地域内交流を盛んにし、伝統文化等の継承と仲間づくり、青少年健全育成と三世代の交流を深め、近隣愛と地域愛のある活動を進めていきます。

<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	18名 2名	■町内会・自治会・区長会等	14団体
	■まち協の設立	平成28年度	■高齢クラブ ■子ども会 ■自主防災組織	14クラブ 20団体 29組織

お遍路さんへのお接待の文化が残る地域であるとともに、お互いの孫の顔までわかる向こう三軒両隣での助け合いや共同作業の風習が強く残っている地区です。また、地区内に福祉施設等が多く、地区社協としても「年賀施設訪問」など定期的な交流を図っています。このお接待をベースとする施設訪問や近隣のつながり、若い人の地区活動への参加などにみられる“つながりの強さ”は他の自治体では簡単にまねのできない地区の大きな財産だといえます。世代間などの交流会が年に10回も開催できることはその裏方である地区社協のつながりの強さを表しているといえます。この地区に子どもを育ててもらった親世代が次の地区社協を担うなど、世代間のプラスの連鎖が期待できます。





ばんちょう  
**番町地区**

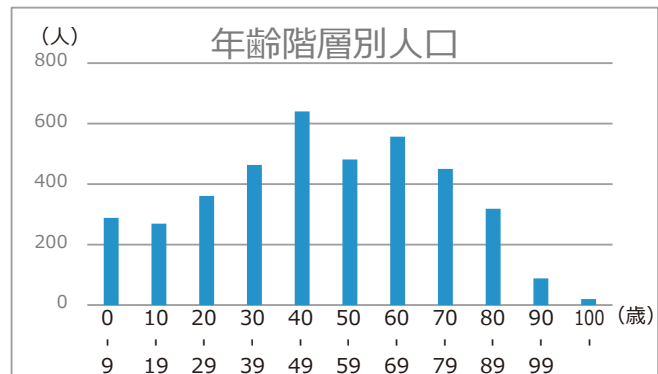
面積：1.38km<sup>2</sup>  
人口：3,887人（高齢化率 29.6%）  
世帯数：2,203世帯

**【地区の特色】**

松山市の中心に位置し、官公庁・金融機関等のオフィスビルが建ち並び、大街道・銀天街・まつちかタウンのショッピングゾーンは連日買い物客でにぎわっている。一方、ドーナツ化現象のため人口は流出傾向にあるが、地域住民の強力な結束を基に、文化・スポーツ活動等が活発に行われている。



松山城と官公庁などのオフィスビル



**【地域住民からみた地域の状況】**

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・街中なので夜も明るい</li> <li>・交通機関の利便性がよい</li> <li>・医療機関が多い</li> <li>・柳井町町内会では近所付き合いが盛ん</li> <li>・ゴミ出しなど町内ルールが守られている</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパーが少ない</li> <li>・近所付き合いが希薄</li> </ul>
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者世帯の増加</li> <li>・スーパーが少なく、高齢者等の買い物が困難</li> <li>・マンションが増え、オートロックマンション等により地域の情報周知が困難</li> <li>・交通量が多く、危険</li> <li>・集いの場が少ない</li> <li>・近所付き合いが希薄</li> </ul>

## 番町地区社会福祉協議会

<拠点> 松山市二番町 4 丁目 3-4 (松山市番町福祉センター内)

<b>構成団体</b>	地区民協
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>
高齢者と園児の交流遠足	高齢者と園児とのいちご狩り遠足を実施しています。
高齢者への記念品の配布	地区の 80 歳以上の高齢者を対象に記念品を配布しています。
小学生と高齢者の交流	小学 1 年生と高齢者が昔の遊びを通して交流を深めています。

### お茶会 (2 月頃)

地域の高齢者、保育園児とその保護者が一同に会しお茶会を実施しています。園児が高齢者や保護者へお茶のお接待をするなど、毎年、園児たちの成長と高齢者の笑顔がひろがっています。



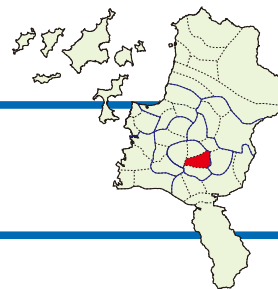
### <地区社協が目指すもの>

松山市の中心地に位置する地区のため、諸々の活動に便利な点を活かして近隣地区とも協力し、子どもから高齢者まで住民一人ひとりが社会福祉に参加し、地域内の助け合いの気持ちを育てていける地区を目指します。

<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	11 名 2 名	■町内会・自治会・区長会等	35 団体
			■高齢クラブ	1 クラブ
			■子ども会	11 団体
	■まち協の設立	—	■自主防災組織	33 組織

官公庁とオフィスビルが建ち並ぶ働く人のまち、または銀天街や大街道等のショッピングのまちといったイメージが強い地区です。小学校や保育園においても市内全域から児童や園児を受け入れていることが特徴としてあげられます。そのスマートな地区のイメージは、ゴミ出しなどの町内ルールが守られている等住民の意識の高さにも共通していると考えられます。地区社協では小学生や園児と地域の高齢者との交流を積極的に行っています。他地区からも子どもが多く集まる保育園で高齢者との接点を設けることは核家族化の進む現在において高齢者だけでなく子どもにとっても学びは多く、地区社協の取り組みによって市街地ならではの生涯学習を実現しているといえます。





やさか

# 八坂地区

面積：0.57km<sup>2</sup>

人口：5,129人（高齢化率 32.1%）

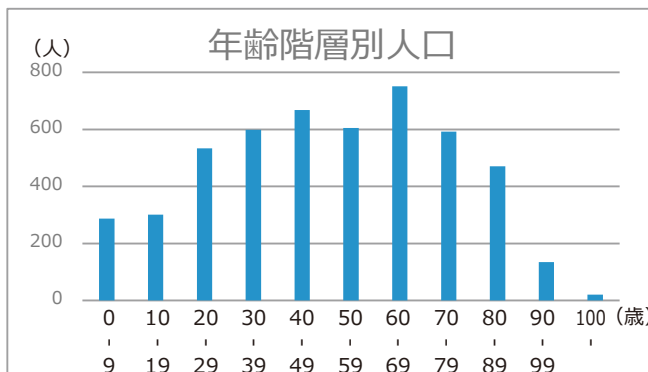
世帯数：3,214世帯

## 【地区の特色】

八坂の名の由来は京都の祇園神社にまで遡ることができる。明治27年12月5日に南八坂町に松山第3尋常小学校が開校し、持田や素鷺の方からも子どもたちが通っていた。この頃から通学区域を八坂校区と呼ぶようになった。現在の八坂校区には30の町がある。行政上の住所表示と異なり、昔からの町名の多くが残っているのがわが町「ふるさと八坂」。人々の交わり地方祭をはじめとする諸行事など生活上の様々な面で、今もそれぞれの街で昔からの強い絆を守りつづけている。



中の川通り



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松山市の中心部（街中）に位置し、飲食店などが多く存在している</li> <li>・コンビニ、駐車場が多い ・デパート（大街道、銀天街）が近い</li> <li>・サロン活動が活発 ・元気な高齢者が多い ・教育施設が多い</li> <li>・市中心部にありマンションが増えている ・街中で蛍が見られる</li> <li>・近所の子どもの顔が分かる ・子どもとの交流が多い ・高齢者の福祉施設が多い</li> <li>・公民館と学校の連携が強い ・公民館行事が多い</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化率が高い</li> <li>・子どもがいる世帯が少ない</li> <li>・交通量が多く危険</li> <li>・個人商店が少なくなり、スーパーが少ないため買い物が不便</li> <li>・市役所の支所がない</li> <li>・個人商店が少なくなった</li> </ul>
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独居高齢者世帯の増加による見守りが必要</li> <li>・昔からの住民と新しい住民の交流が少ない</li> <li>・マンション世帯との交流が少ない</li> <li>・交通量が多く危険</li> <li>・子どもがいる世帯が少ない</li> <li>・組織役員の後継者不足</li> </ul>



## 八坂地区社会福祉協議会

気配りの種まき 福祉の芽が出る明るい八坂

<b>構成団体</b>	地区民協・公民館長・婦人会・高齢クラブ・町内会・小学校・PTA
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>
福祉だよりの発行	年2回、2,000部を作成し、地域福祉に関する情報を発信するため全戸配布しています。
独居高齢者親睦会	外出の機会が少ない独居高齢者を対象に毎年1回、親睦会を開催しています。
配食サービス	毎年、3月3日の春の節句に独居高齢者へちらし寿司を配布し安否確認等を行っています。

### やさかちいきふれあいパーティー（年2回）

八坂小学校にて1・2年生の児童と地域の高齢者が昔の遊びやゲーム・クイズ、劇の発表などを通して、ふれあう機会となっています。また、給食も一緒に食べながら話が弾み、お互いの心に残る楽しく有意義な時間を過ごしています。



### <地区社協が目指すもの>

八坂地区ではホタルボランティアの人たちが蛍を長年育てており、地区の夏祭りや小学校と公民館の合同運動会では、地域の各世代の人が八坂音頭を「みんな輪になり」で踊り継いでいます。

八坂地区社協では高齢者が健康でいきいき活動し、これまで培ってきた緑豊かな自然や人の輪を大切に、少子高齢化の中でも子どもから高齢者まで世代を超えて見守り・支えられるよう元気で心豊かに生活できる八坂を目指していきます。

<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	16名 2名	■町内会・自治会・区長会等	28団体
	■まち協の設立	平成25年度	■高齢クラブ ■子ども会 ■自主防災組織	4クラブ 5団体 25組織

市街化の進む自治体の多くは人間関係の希薄化への対策が課題となる中で、本地区では地区社協が中心となって活発な地区内交流が実施されています。中でも住民が近所の子どもの顔がわかるという環境は、生涯学習や防犯等の面において理想的な子育て環境を実現しているといえるでしょう。このように40地区の中で一番面積の小さな地区であることをいかして、地域と小学校が協働で行事が実施されるほか、小学校内のスペースで高齢者が定期的にサロン活動をするなど、世代間の交流が深まる機会が設けられています。これらの基盤となる交流活動を支える地区社協の役割は地区内でますます欠かせないものとなるでしょう。



しのめ

# 東雲地区

面積：1.21km<sup>2</sup>

人口：8,960人（高齢化率 27.2%）

世帯数：5,122世帯

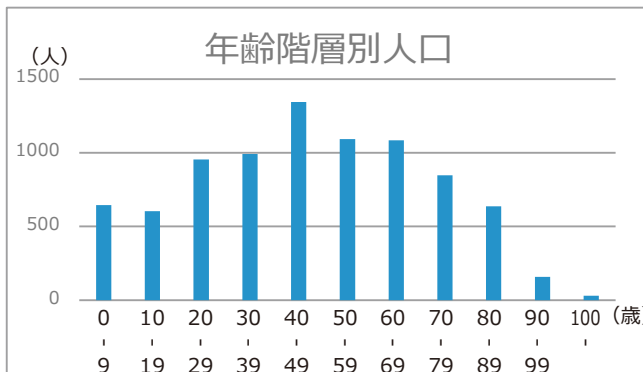


## 【地区の特色】

松山城を仰ぎ市の中心部に位置し、交通の便も良く気象台・中予地方局・警察署・松山赤十字病院をはじめ、高層マンション等ビル群に囲まれ、教育機関も幼稚園・小学校・中学校・高校・大学等その数多く、文教・商業・住宅地域として発展している。また、坊っちゃん列車が走り小説「坂の上の雲」の主人公・秋山兄弟の生誕地でもある。



心は一つ・絆



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の中心部に位置し、バス・路面電車が走るなど交通の便が良い</li> <li>・松山城、秋山兄弟生誕地、明教館など観光、文化、教育施設に恵まれた文教商業地域</li> <li>・日赤松山病院など医療機関が多い</li> <li>・一時減少傾向の人口は増加傾向にある ・地域の子どもたちの見守り活動が盛んである</li> <li>・行政機関（地方局等）が多い ・松山東警察署</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高層分譲マンション増加によるコミュニケーション不足（町内会未加入）</li> <li>・スーパーが少ない ・マンション増加で景観が悪い ・電気屋がない</li> <li>・自動車の増加による危険度が高い</li> <li>・道路が狭い（戦災にあっていないので昔のままの道幅）</li> <li>・新しい住民とのコミュニケーションが図りにくい</li> <li>・学生の多い賃貸マンションのゴミ出しルールが守られていない</li> <li>・市役所の支所がない</li> </ul>
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者世帯の増加</li> <li>・マンション世帯の増加によりコミュニケーションがとりにくい</li> <li>・スーパーが少なく買い物に困る</li> <li>・道路幅が狭く危険</li> <li>・支える側の人材不足</li> <li>・各組織の連携</li> </ul>

## 東雲地区社会福祉協議会

支えあう力で、明るく、元気な地域づくり

〈拠点〉 松山市二番町 4 丁目 3-4 (松山市番町福祉センター)

<b>構成団体</b>	地区民協・町内会連合会・共同募金会・公民館・小学校・交通安全支部員・婦人会 高齢クラブ連合会・更正保護女性部会・子ども会連合会・スポーツ推進員	
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>	
福祉だよりの発行	年 2 回、6,800 部を作成し、地域福祉やわが街自慢など地域に関する情報を発信するために全戸配布しています。	
日帰りツアー	東雲校区住民で 50 歳以上の方を対象に、隔年日帰りで各地の名所へ出かけています。普段、なかなか出かけられない方から好評を得ています。	
高齢者パソコン教室	高齢者を対象にパソコンの使い方教室を開催しています。	

### 認知症予防講座（認知症プログラム）

NPO との連携のもと、地区住民を対象に、苦手なことに楽しくチャレンジしながら五感を使い、身体を動かしながら脳を刺激することで認知症予防となる講座を開催しています。



### 〈地区社協が目指すもの〉

東雲地区は、多くの史跡、文化財に恵まれた市の中心部に位置し、交通の便も良く、地域周辺にはコンビニをはじめ病院や保健福祉施設、警察署等の立地など住環境に恵まれる中、高層分譲マンション建設等により新たな住民の流入に加え、少子高齢化の進展が著しくなっています。

今後は住民同士の繋がりやふれあいを高め、「地域はひとつ」の絆を高めるため、民児協、町内会等各団体の協力・支援等により各種事業を展開し、子どもから高齢者まで明るく、いきいき生活できる地域づくりを目指します。

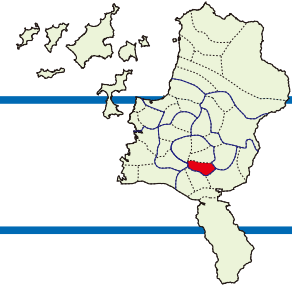
<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	23 名 2 名	■町内会・自治会・区長会等	40 団体
	■まち協の設立	—	■高齢クラブ	8 クラブ
			■子ども会	6 団体
			■自主防災組織	31 組織

観光資源に恵まれ、また、生活環境としても医療・教育等を含め住みやすいことが特徴です。地区社協では、平成 30 年度より NPO 法人と連携した 4 回コースの認知症予防講座を開催しており、地縁型とテーマ型の組織が繋がった活動を実践しています。市の中心部に暮らす子育て家庭では生活面の利便性の恩恵を受けると同時に、子どもの安全面に不安を抱えることも珍しくありませんが、本地区では子どもの見守りが盛んに行われており、住民が町を支えているといえます。新しい住民の流入が進む中で、地区社協の高齢者向けパソコン教室等の企画は、地区に馴染みのない方でも参加しやすく、今後の地区の在り方を考えるうえで先駆的な取り組みであると考えられます。



# そ が 素鷲地区

面積：2.23km<sup>2</sup>  
 人口：19,107人（高齢化率29.3%）  
 世帯数：11,305世帯

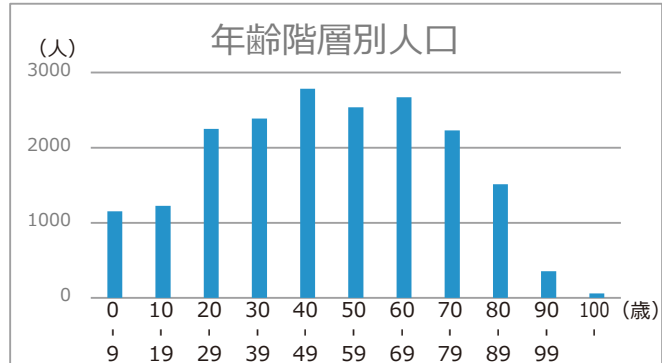


## 【地区の特色】

戦前は純農村地域であったが、近年市街地に隣接する地域として急激に住宅化が進み、通勤にも便利なためマンション等の建設も多く都市化が進んでいる。しかし、現在はそれ以上のドーナツ化現象のため、高齢化率も高くなり人口は横ばい状態となっている。そういう中であって、地域住民間の連帯感が薄れつつあり、近隣間のコミュニケーションがスムーズにっていない地域が増えるなど新たな問題が顕在化し、昔からの地域事情に若干の変化も見えてきている。



ドローン撮影：拓南中の全景



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較的便利で市内外へも行きやすい</li> <li>・市内の大きな病院を含め個人病院へも通いやすい ・高齢者の施設も多い</li> <li>・教育関連機関や生活関連施設が多い ・公共交通の便がよく住みやすい</li> <li>・民生・児童委員や公民館関係の方などみなさん協力的 ・地区社協の拠点がある</li> <li>・若い世代の後継者が育っている ・商店街がある</li> <li>・地区行事へ協力的で楽しい行事がある（どろんこ運動会）</li> <li>・病院の中に集まれる場所がある ・登校時小中学生の見守り隊 旗当番（保護者）</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独居高齢者世帯が多い</li> <li>・空き家が増えている</li> <li>・マンション住民との交流が少ない</li> <li>・仕事など忙しく地域の手伝い等してくれる人の人材不足</li> <li>・役員代表者お世話人さん等の後継者が少ない</li> <li>・道路が狭い（消防車、救急車が入れない）</li> <li>・高齢者世帯が多い ・子どもの数が減っている</li> </ul>
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者世帯の増加</li> <li>・マンションが多く、把握と見守りが難しい</li> <li>・空き家の増加</li> <li>・組織役員の後継者不足</li> <li>・子どもがいる世帯が増えない</li> </ul>



## 素鷲地区社会福祉協議会

石手川 南に広がる そが福祉

<拠点> 松山市小坂3丁目1-20 TEL / FAX : 089-931-2112

<b>構成団体</b>	地区民協・町内会連合会・共同募金会・公民館・サロン代表者・高齢クラブ連合会
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>
福祉だよりの発行	年2回、7,800部を作成し、地域福祉に関する情報を発信するために全戸配布しています。
そがの子まつり	小学生・児童・保護者・教員・地域住民等がもちつきなどの行事を通じて交流を図っています。
認知症への理解	小中学生を対象に、絵本の読み聞かせや認知症理解のための寸劇を通じて認知症についての理解向上を図っています。

### 福祉講座（10月頃）

福祉課題の中でテーマを変えながら地域住民を対象に福祉講座を開催しています。毎年、分かりやすい内容を提供していることから多くの地域住民の参加があり、好評をいただいています。



### <地区社協が目指すもの>

素鷲地区は、2万人近くの人口となり高齢者が多く、特に独居高齢者や生活保護受給者は松山市で一番多くなっています。交通の便が良く買物や病院等へ通いやすく、生活関連施設等が多く住みやすく安心できる地区です。毎年、拓南中学校にて松山市消防城東支署の協力を仰ぎながら生徒と一緒に炊き出し、AED体験、ドローンによる撮影、マップ作りなどの防災活動訓練を行っており、地区全体として防災関係に力を入れています。また、現在設立準備中のまちづくり協議会や他団体と連携しながら少しでもあたたかさを感じられる地域づくりを目指します。

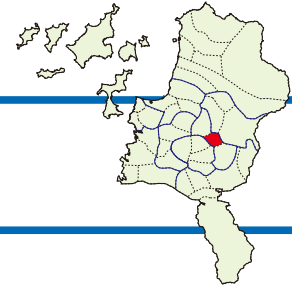
<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	48名 3名	■町内会・自治会・区長会等	45団体
			■高齢クラブ	10クラブ
			■子ども会	13団体
	■まち協の設立	-	■自主防災組織	29組織

独居高齢者が市内で最も多いこともあり、民生・児童委員をはじめとする多様な福祉活動が求められる地区です。そのような状況に対応できているのは各関係団体の協力体制が確立しているからです。小中学生等を対象に地区社協メンバーが役者となって認知症の理解のための寸劇を行うなど、若い世代の後継者作りにも力を入れています。スプロール化という課題をかかえながらも住民の地区行事への協力率が高いことや、地域活動に若い世代も入ってきているなど、地域力の強さが引き継がれていると考えられます。そがの子まつり、福祉講座など地域のつながりや福祉教育を重視した地区社協の活動は、今後さらに進む都市化や高齢者人口増加などに対する重要な予防活動として期待されるでしょう。



# どうご 道後地区

面積：2.1 km<sup>2</sup>  
人口：11,394人（高齢化率 23.5%）  
世帯数：5,180世帯

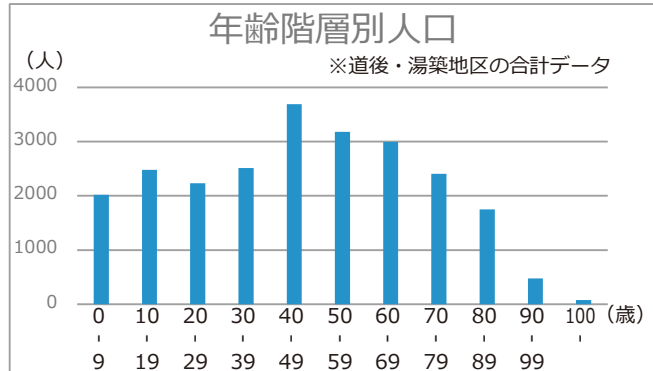


## 【地区の特色】

道後地区は、政治、経済、文化の中心として古くから発展しており、まさに「道後温泉」の名を冠とした歴史と文化の由緒ある地区名である。道後温泉本館の南東の方角に中世後期に伊予国を支配した河野氏の湯築城跡や子規記念博物館がある道後公園、また、東に四国八十八ヶ所 51 番札所「石手寺」など観光客や地区住民が訪れる憩いの場となっている。



道後公園



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道後温泉や道後公園などの観光資源が多い</li> <li>・平坦な土地で、災害も少なく住みやすい ・治安がよい</li> <li>・中心市街地に近く通勤、通学等に便利である ・駅周辺地域は交通の便がよい</li> <li>・病院、スーパー、学校など生活関連施設に恵まれており、移動図書館や移動スーパーも来るなど生活に便利である</li> <li>・転校生が多い地域であるが、子どもたちが溶け込みやすい環境にある</li> <li>・教育熱心な地区であり、通学路の見守り活動等も盛んである</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者世帯の増加 ・空き家が増えてきている</li> <li>・自力で移動できない高齢者には、交通に不便な地域が一部ある（石手白石・新石手）</li> <li>・公民館、集会所の老朽化 ・集会所が少ない（駐車場が少ない）</li> <li>・マンションなど、町内会に入らない世帯が増加している</li> <li>・児童が遊べる公園が少ない</li> <li>・災害時の避難場所が遠い地域がある ・土地の価格が高く、家賃が高い</li> <li>・自主防災組織が一部団体に限られており、オール道後地区となっていない</li> </ul>
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・孤立した高齢者の増加</li> <li>・高齢者は公民館、分館の階段が困難で利用しにくい（エレベーターがない）</li> <li>・一部移動手段の不便な地域がある（石手白石・新石手） ・住民の防災意識が低い</li> <li>・自主防災組織が一部団体に限られており、災害時に連携がとれるか不安がある</li> <li>・地域行事への参加者が少ない ・役員やお世話役、活動に関わる後継者不足</li> <li>・マンションの増加や転勤族が多いため、近所づきあいが希薄化している</li> <li>・人が集まり、活動する場所が少ない ・地域福祉サービス事業の活動がない</li> </ul>

## 道後地区社会福祉協議会

ささ あい ゆ 支え愛 湯ったり暮らせる 道後の福祉

構成団体	地区民協・小学校・中学校・高齢クラブ連合会・公民館・町内会連合会	
主な取り組み	活動内容	
福祉&防災 MAP の作成	地区内の社会資源やバリアフリーの整備状況など福祉分野の情報に加え、防災の視点も取り入れた MAP を作成し、地域住民の方に役立ててもらっています。	
サロン交流会の開催	毎年1回、サロン代表者・世話人交流会を開催し意見交換を行うなど、サロン3ヶ所（いきいき2、地域交流1）の支援を継続して行っています。	
福祉講座の開催	道後・湯築地区社協が合同で、毎年2回、高齢者の生活や健康問題などの福祉に関する講演会を開催しています。	

### 道後小3年生道後温泉入浴体験

道後小学校と協働し、毎年10月頃3年生児童を対象に歴史的建造物である道後温泉本館において地域の歴史を学ぶとともに、公衆浴場での入浴体験を通して、地区住民や観光客とのふれあいや入浴マナーの向上を図ることを目的として、平成24年度から実施しています。



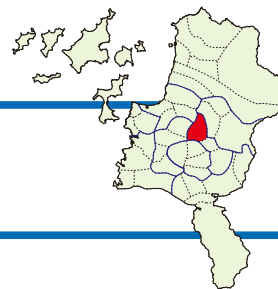
#### <地区社協が目指すもの>

道後地区は、道後温泉をはじめ子規記念博物館、湯築城跡のある道後公園など類をみない文化財や史跡があります。道後地区社協では「支え愛 湯ったり暮らせる 道後の福祉」を基本理念とし、温泉で育まれた温かさと支え合う心を大切にした福祉活動を目指しています。また、子どもや高齢者、障がい者に優しく暮らしやすいこのまちの良さを後世に引き継いでいきます。現在、取り組みが不十分な防災・減災にも対応できるよう、関係機関・団体と連携・協働するまちづくりを目指していきます。

地区の状況	■地区民協 民生委員 主任児童委員	22名 2名	■町内会・自治会・区長会等	27団体
	■まち協の設立	—	■高齢クラブ ■子ども会 ■自主防災組織	2クラブ 0団体 3組織

平坦な土地で比較的災害の少ない地区であるため、住民の防災への意識が低くなりがちであることから、地区社協では医療・福祉だけでなく防災に関する情報を1つにまとめた「福祉&防災 MAP」を作成しています。また、マンションの増加や転勤族も多いことから、町内会の加入率も課題となっていますが、子どもの道後温泉入浴体験等は地域への愛着を育むだけでなく、地域活動との接点の少ない子育て世帯の保護者の耳にも必ず届くため、地域を生活の一部に感じるきっかけとして注目されています。退職後の居場所としてサロン交流会等は拠点となることから、現在の活動は次の世代につなげる礎になっているといえるでしょう。





# ゆづき 湯築地区

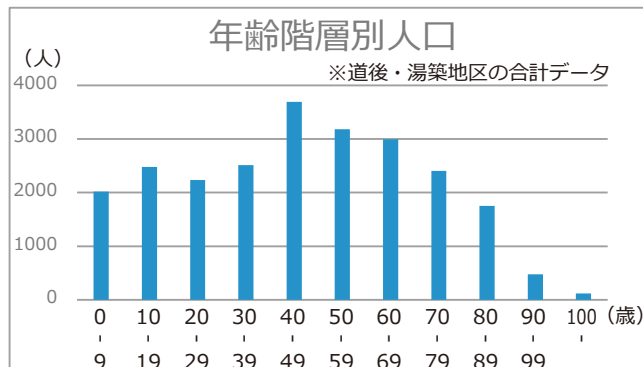
面積：4.19km<sup>2</sup>  
人口：11,737人（高齢化率 28.7%）  
世帯数：6,299世帯

## 【地区の特色】

湯築は、道後温泉の中心地、道後湯之町・白鷺伝説の鷺谷から西の御幸山の麓まで広がる祝谷（湯湧谷が転訛 旧温泉郡道後村）の農村地域であったが、現在は松山の中心市街地や文京地区に近く、閑静な住宅地として発展変容してきている。近年定住された世帯は高齢者比率が非常に高く独居高齢者世帯も多くなっている。また、農地の宅地転用の中小規模賃貸マンション・貸家の比率が高く、年間の転出入が多い。



やっこおど  
奴踊り



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道後温泉をはじめ歴史伝統文化史跡が多くある</li> <li>・中心市街地、文教地区に近く、閑静で自然豊かな住宅地</li> <li>・愛媛大学、松山大学が近く、学生や若者が住みやすい町</li> <li>・教育に熱心な校区とされ、移住の希望が多い</li> <li>・病院、介護施設が多い</li> <li>・しめ縄作り等の行事へ、高齢の協力者が多い</li> <li>・秋祭りの炊き出しにおいて団結力がある（祝谷公園）</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現役世代が少なく高齢者世帯が多い</li> <li>・坂が多く高齢者が歩くのが大変</li> <li>・伊予鉄バスの便が少なく不便</li> <li>・地盤が弱く土石流危険箇所が多い</li> <li>・避難場所が少ない</li> <li>・交流ができる場所が少ない</li> <li>・役員のなり手がなく子ども会が減少している</li> <li>・若者の行事への参加が少ない</li> <li>・大型マンションはカギが個人持ちで共通キーもなく安否確認に不安</li> <li>・AED等の救護設置箇所が少なく偏っている</li> </ul>
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者世帯、高齢者独居世帯、老々介護世帯が多い</li> <li>・買い物難民の心配が危惧される</li> <li>・一部公共の乗り物の不便さがある</li> <li>・若い世代は共働きが多く行事の参加がむずかしい</li> <li>・役員のなり手がなく、交代ができない</li> <li>・災害時の支援体制が整っていない</li> <li>・大型マンションの住人と地域住民の交流ができない</li> </ul>



## 湯築地区社会福祉協議会

<b>構成団体</b>	地区民協・道後温泉旅館組合・道後商店街振興組合・中学校・小学校 公民館・自治会連絡協議会・高齢クラブ長寿会
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>
ふれあい料理教室	食生活の改善や近隣住民とのふれあいの場を目的として5月から9月にかけて毎月開催しています。高齢者を中心に老若男女だれでも気軽に参加できます。
三世代交流	秋祭りの奴踊り、獅子舞や年末年始のもちつき、しめ縄作り、七草がゆなどの行事を通じて、世代間の交流が深まるように活動を支援しています。
福祉講座の開催	湯築・道後地区社協が合同で、毎年2回、高齢者の生活や健康問題などの福祉に関する講演会を開催しています。

### 湯築小学校5年生入浴体験

平成22年度から始まった入浴体験では道後温泉に初めて入浴する子どもや公衆浴場のマナーを教わる子どもも多く、入浴マナーや道後の歴史などを学ぶことにより、道後温泉の魅力を再発見し郷土愛の醸成を図ることを目的としています。



#### <地区社協が目指すもの>

湯築地区社協は、「子どもが安心して育てられる町」「お年寄りに優しい町」「誰もが地域行事を楽しむに参加できる町」この3つの町づくり基本骨子の推進活動を目標にしています。

<活動方針> ①地区の小学校・中学校への福祉学習サービス支援を行う。②ふれあいサロン・料理教室等、地域住民の交流促進とリーダーの育成を行う。③福祉講座開催などにより福祉活動への参加意欲の啓発啓蒙、協力会員の発掘を行う。④福祉だより等の広報により地域福祉活動の意識向上を図る。⑤地域行事など伝統文化を大切に作る人の輪づくり。

<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	28名 2名	■町内会・自治会・区長会等	44団体
	■まち協の設立	—	■高齢クラブ	2クラブ
			■子ども会	6団体
			■自主防災組織	1組織

道後温泉本館のある湯築地区では、地区社協の構成団体に旅館組合や商店街組合等の観光地特有の団体が参加しており、子どもたちの郷土愛を育むための観光資源をいかした取り組みや活動が実施されています。一方で若い世代の地区活動への参加や、マンション世帯との接点の少なさが課題になっています。この状況はそのままにしておくと希薄化が増すばかりですが、地区社協が中心となって取り組んでいるふれあい料理教室や祭りなどの三世代交流、道後温泉入浴体験等は住民間や世代間の接点をつなげているほか、地域への愛着を育む場ともなっています。これらの活動を引き継いでいけるよう、意識的に地域全体で支えることが期待されています。





くわばら  
**桑原地区**

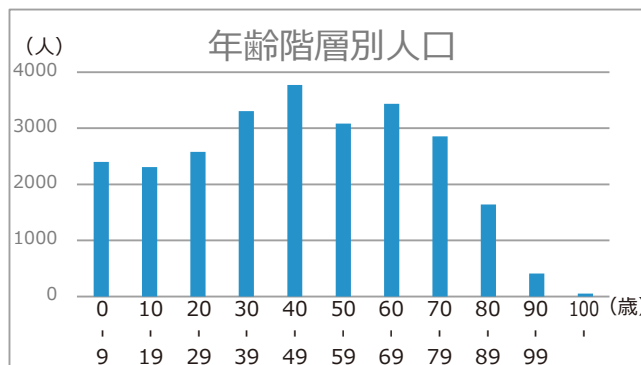
面積：6.1 km<sup>2</sup>  
人口：25,580 人（高齢化率 26.2%）  
世帯数：12,327 世帯

**【地区の特色】**

桑原地区は、松山市の東に位置し、経石山（きょうせきざん）古墳があり古くから開けていた町である。また、松山藩主久松氏の別邸が「東野お茶屋跡」として残っている。現在は団地やマンション等の建設が相次いでいるが、一部農家も残っており山林、田畑、果樹園が占める面積も多い。伝統行事（獅子舞、子ども相撲）の継承活動も続けられており、古い時代の良い部分を残しながら発展している。



淡路ヶ峠から望む桑原地区



**【地域住民からみた地域の状況】**

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者多機能型事業所きらりの森と児童館が併設されており多くの人々が利用している</li> <li>・市内にも近く、自然にも恵まれており住みやすい環境である</li> <li>・2つの大学があり学生や留学生との交流の機会がある</li> <li>・交通の便もよく、生活関連施設にも恵まれており、生活がしやすい</li> <li>・まちづくり協議会の存在が大きい</li> <li>・防犯対策が進んでいる</li> <li>・町内行事に参加者が多く、協力的である</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部地域（東野・正円寺・三町）はお店が無く、買い物に不便である</li> <li>・一部地域はバス停までの距離が遠く不便である</li> <li>・一部の地域や世代では行事への参加が少ない</li> <li>・災害の時、東野や畑寺の一部で山崩れやため池の氾濫が不安材料となる</li> <li>・大雨による川付川の氾濫の不安がある</li> <li>・一部の住民でゴミ出しルールが守られていない</li> </ul>
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集会所のない地区（東野1丁目）があるので、横の繋がりが取りにくく、防災の時困る</li> <li>・買い物場所が近くにない地域が多い（東野、正円寺、三町）</li> <li>・通学路が狭くて危険な場所がある（桑原保育園前、東本の市道桑原18号線）</li> <li>・桑原中学校付近は、通学路が暗く人通りが少ないため、防犯面で不安がある</li> <li>・高齢化で独居世帯や空き家が増えている</li> <li>・小中学校の学校選択制により、同じ町内でも近所付き合いが希薄になる</li> <li>・共働き世帯が多くなり、横の繋がりがつくりにくい</li> </ul>

## 桑原地区社会福祉協議会

桑原の郷 みんなでささえて安心ぞ！なもし

<b>構成団体</b>	地区民協・公民館・水利組合・校区婦人会・町内会・自主防災・消防団・防犯協会 高齢クラブ連合会・土地改良区長会・女性防火クラブ連合会・遺族会・交通安全協会 中学校・小学校・支所・まちづくり協議会・広報協議委員会・更生保護会・体育協会 いきいきサロン
-------------	--

主な取り組み	活動内容
福祉講座の開催	地域で高齢者が健康で安心して生活できるように、毎年3地区ごとに福祉講座を開催しています。
福祉教育の充実	桑原中学校の生徒が高齢者福祉施設を毎年2回訪問し、利用者の方々と交流を深め、人を敬う気持ちを育てています。
独居高齢者給食サービス	70歳以上の独居高齢者の方々に、特別メニューのお弁当を民生委員・児童委員の協力を得て配布し、喜ばれています。

### 高齢者ふれあい運動会（11月頃）

平成24年から開催している65歳以上の高齢者の運動会で、毎年150名以上が参加しています。高齢クラブやいきいきサロン、地域の高齢者の健康増進や交流の場になるよう活動を支援しています。



#### <地区社協が目指すもの>

桑原地区は、世帯数12,327世帯、人口25,580名（平成30年4月現在）と松山市40地区の中で6番目に多くの皆さんが生活されています。私たちは「治安が良く安全で、健康で安心して生活できる」環境が整っていることが福祉の充実した「まち」だと思います。桑原地区社協は、高齢者の生きがいづくり・健康増進等のための「サロン」の増設や特に男性参加者の増員を図り、また青少年の健全育成、地域の防災・減災・防犯対策、さらに隣近所の挨拶から会話や助け合いのできる「まち」の実現に注力する等、地区内の各団体とも協働し一層の地域福祉の向上を目指します。

<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	39名 2名	■町内会・自治会・区長会等	22団体
	■まち協の設立	平成21年度	■高齢クラブ ■子ども会 ■自主防災組織	7クラブ 14団体 22組織

市内中心部に近く、自然も多い桑原地区は、東環状線が通ったことでさらに生活環境が整い、新しいマンションや住宅も増えています。高齢化が進むなかで、地区社協と地区民協が中心となった独居高齢者給食サービスにみられるような福祉的な支援のほか、高齢者ふれあい運動会等のイベントなど、高齢者がやりがいや楽しみをもって暮らせるような取り組みが実施されています。活動が継続できる背景として毎月、いきいきサロン代表者が連絡会を開催し、サロン間の情報交換の場をつくり活動を支援していることがあげられます。さらに中学生を対象とした福祉教育は若者が高齢者や福祉サービスへの理解を深める重要な場となっています。



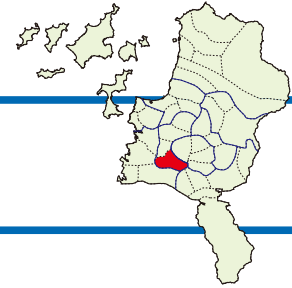
ゆうぐん

# 雄郡地区

面積：3.69 km<sup>2</sup>

人口：33,001人（高齢化率 22.8%）

世帯数：16,803世帯

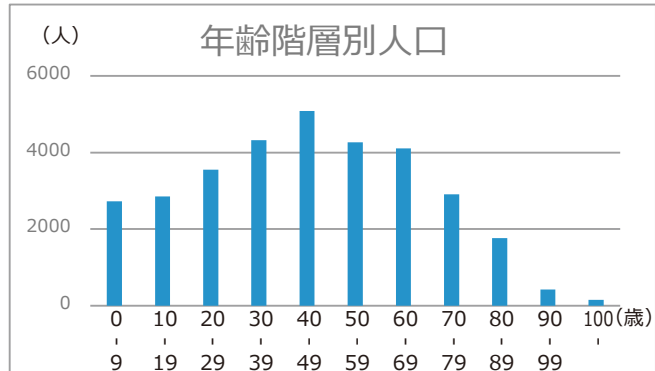


## 【地区の特色】

宅地、マンション化が急速に進み、市内でも人口が多い地区である。シンボルは「子規の歩いた道」で、子規によって俳句が詠まれた句どころ（雄郡神社・末広町の正宗寺など）も多い。郷土の芸能では竹原町・針田町の獅子舞が保存会として演じられており、義士祭・福運祭などがにぎやかに行われている。地区の木は「榿の木」で、花は「サルビア」である。近年は都市化が一段と進んでいるが、今なお伝統や文化を大切にしている気質が残っている地域である。



雄郡地区成人式



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅地区と商業地区がうまく共存しており、生活しやすい</li> <li>・サロン活動が活発である ・地域、学校、PTAなど各団体が協力している</li> <li>・松山中心部に位置しており、生活に便利である</li> <li>・郡中線により中心部との行き来は便利</li> <li>・雄郡公民館と連携して充実した活動ができている ・歩道が整備されつつある</li> <li>・水質がよいため井戸水を使用しているところもある</li> <li>・まちづくり協議会が中心となり三世代交流や芝居、認知症カフェなど行事が盛んである</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区が広すぎて事業活動の分割をよぎなくされ、一カ所で事業を行うと参集しにくい</li> <li>・交番が少ない ・西部は交通が不便なところがある ・地域のつながりが希薄</li> <li>・マンション、駐車場が増え住民のつながりが希薄になりやすい</li> <li>・放置された田畑や空き家が増えている ・場所によっては歩道の整備が不十分</li> <li>・木造の密集家屋が多い</li> <li>・ボール遊びをする場がない</li> <li>・独居高齢者は増えているが高齢クラブに入会する人数は減少している</li> </ul>
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者は増加しているが、高齢クラブが減っており、外出の機会が少なくなることを懸念する</li> <li>・地域が広いいため、一人暮らしをしている人や生活困難者の把握がしにくい</li> <li>・マンション住民が地域との関係を持ちたがらない</li> <li>・買い物困難者の心配</li> <li>・空き家対策 ・建替できない家屋が多く道路が狭い ・猫が多い</li> <li>・世話役になる中心的な人がいない（町内会の役員になる人がいない）</li> </ul>



## 雄郡地区社会福祉協議会

こころをつなぐ“絆”まちづくり

<拠点> TEL : 080-4037-0294

<b>構成団体</b>	地区民協・自治連合会・公民館・分館・高齢クラブ連合会・PTA 子育てサロン・スポーツ推進員
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>
福祉だよりの発行	年3回 12,000部を作成し、回覧板で地域福祉に関する情報を発信しています。小中学校にも配布し、家庭へ持ち帰ってもらうことにより地域の情報を幅広く周知できるよう工夫しています。
交流会の開催	サロン代表者会や活動研修会などで体操や脳トレーニングを学び、地域では絵本の読み聞かせやディスコン大会を開催するなど交流を深めています。
福祉講座の開催	地域で暮らしていくために、年数回、まずは地域を知るところからと考え、専門講師による認知症などの学習を行っています。

### 雄郡地区福祉まつり（6月頃）

地域住民の世代を超えた福祉の交流の場として年に一度開催しています。高齢者のサロンや児童らによる発表会やPTA等によるバザーもあり、例年約800人の参加者が集います。世代や立場を超えての交流により地区の福祉活動への理解を深め、助け合いの絆を育んでいます。



#### <地区社協が目指すもの>

雄郡地区の高齢化率は22%を超え、超高齢社会を迎えました。高齢者にとって住みよい地域は障がいのある方や子どもにとっても住みよい地域となると考え、地域住民がお互いさまの気持ちで支え合える絆づくりを大事にしています。たとえ認知症になっても安心して暮らせる地域となるよう、公民館、まちづくり協議会、高齢クラブ、地区民協、小中学校と協働して福祉活動への参加をつないでいきたいと考えています。

<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	48名 3名	■町内会・自治会・区長会等	26団体
	■まち協の設立	平成21年度	■高齢クラブ	11クラブ
			■子ども会	29団体
			■自主防災組織	40組織

利便性に富んだ都市と、小中学校・高校などが集まる学生のまちの両方が混在する地区です。雄郡地区社協では、毎年、小学校で「福祉まつり」の開催や認知症カフェを展開しておりまちづくり協議会、公民館、地区民協など関係団体が地域住民と連携を図りながら誰もが暮らしやすい街づくりを目指しています。地区内の高齢化は進んでいますが、これらの活動は認知症を理解するための啓発活動に大きな効果を発揮するとともに、地域住民や高齢者自身が福祉活動の担い手となる機会と場を創り出しているといえるでしょう。また獅子舞といった伝統文化の継承活動を通じて住民同士の交流や地域支援ネットワーク形成にも波及する活動であり世代を超えた取り組みが今後も期待できるでしょう。





あらたま  
**新玉地区**

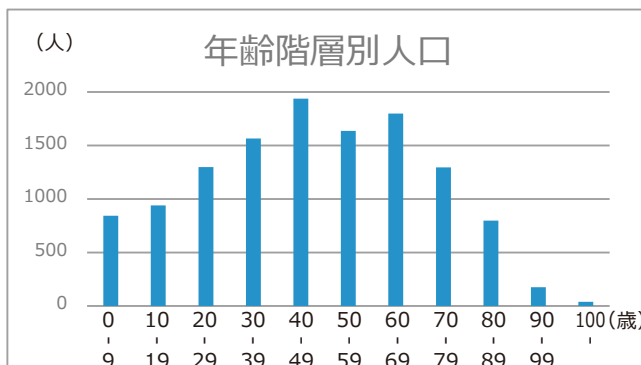
面積：2.26km<sup>2</sup>  
人口：11,313人（高齢化率 26.4%）  
世帯数：6,376世帯

**【地区の特色】**

新玉地区は、松山市の陸の玄関口 J R松山駅を中心に東西南北に広がっている。西側地区は農・商・住宅地であり文化遺産も多い。東側地区は商工地域とともに都市型に発展しており、新旧の違和感がなく両地区の生活環境が相まって文化度も高い。特に組織間での連帯感が強く、調和のとれた地区である。



陸の玄関口・J R松山駅前



**【地域住民からみた地域の状況】**

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館が地区の中心地にあるのでみんなが集まりやすい ・交通の便が良い</li> <li>・住宅地では顔見知りも多く声かけがしやすい ・地域の一体感がある</li> <li>・地区内の各団体の連携が取れている ・防災大会への参加者が多い</li> <li>・防災の意識が高い</li> <li>・住環境が整っている（病院、スーパー、食事処、文化施設など）</li> <li>・地域の広報誌が充実している ・災害が少ない</li> <li>・コミュニティセンターがある</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マンションの住人等地区のコミュニケーションが少ない</li> <li>・サロン等への男性の参加が少ない ・商店が減っている</li> <li>・商業地域なので住宅地が少ない ・道幅が狭く救急車や消防車が入らないところが多い</li> <li>・危険箇所がある（宮前川処理場付近）</li> <li>・災害のとき集合場所が少ないので遠くて行けない（高齢者等）</li> <li>・独居高齢者や高齢者のみ世帯の増加</li> <li>・後継者や担い手不足 ・空き家が増加している</li> </ul>
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心地のためマンションが多く、住民間の交流が少ない</li> <li>・オートロックマンションや外出しない高齢者の安否確認が難しい</li> <li>・緊急連絡先になりたくない家族がいる</li> <li>・関わってほしくない独居高齢者がある</li> <li>・日中、親が留守の家庭の見守り</li> <li>・見守りの対象とならない高齢者夫妻が心配</li> </ul>

## 新玉地区社会福祉協議会

新玉に 笑顔の福祉 広げよう

<b>構成団体</b>	地区民協・公民館・自治連合会・まちづくり協議会・食生活推進協議会 高齢クラブ連合会・青少年健全育成連絡協議会・みらいクラブ・交通安全協会 ボーイスカウト・小学校・中学校
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>
敬老作文 “おじいさんおばあさん お元気ですか”	毎年、年末にボーイスカウトと一緒に独居高齢者を訪問し、地域の小中学生が祖父母に宛てた作文（冊子）と手作りのプレゼントを配布しています。
ふれあい料理教室	年に5回、地域の高齢者と一緒に調理し、食事やゲームなどで交流を図っています。
福祉講座や研修会の開催	高齢者の生活に関するテーマに沿った講演を年2回実施しています。また、協力会員研修会は福祉施設への見学を1日研修として行っています。

### れんげ草まつり

毎年4月に地区の田んぼをお借りして、新小学1年生と高齢者など3世代によるれんげ草まつりが開催されています。沢山のれんげの花に囲まれ、カエルやバッタなど小さな生き物とたわむれ、かんむりや首飾りなどを作り、交流を深めています。



### <地区社協が目指すもの>

JR松山駅周辺では現在、開発が進んでおり、地区の環境や景観も大きく変わりつつあります。これらの事業は平成38（2026）年度完成が予定されていますが、線路を挟んで東西交通の安全性と利便性が向上することで、駅周辺がより魅力ある地域となり、人の交流や人口の増加も予想されます。また、市民の交流や健康づくり拠点として松山市総合コミュニティセンターがあり、憩いの場である総合公園にも隣接している地域です。地区社協としては、「新玉に 笑顔の福祉 広げよう」の理念のもと、心豊かな地域を目指します。

<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	25名 2名	■町内会・自治会・区長会等	24団体
	■まち協の設立	平成27年度	■高齢クラブ ■子ども会 ■自主防災組織	6クラブ 10団体 4組織

松山の玄関口となるJR松山駅があり、そこを拠点とし市内各地へと移動できる利便性が特色です。高齢者の単身世帯増加や子どもの見守り、空き家問題などを抱える一方で、各団体の組織力と地域住民相互の連携によって地区の暮らしが展開されています。新玉地区社協では、小・中学校と連携して子どもたちの年長者に対する尊敬とやさしさを育むことを目的に作文や標語を募集し、冊子にして地域の高齢者に届ける活動を長年継続しており、伝統的な活動の一つとなっています。また、松山市総合コミュニティセンターや新玉児童館、南江戸公園などの社会資源の充実は、高齢者世帯や多様なライフスタイルを持つ子育て世代にとっても「子どもの健やかな成長を育む」暮らしやすい環境であるといえるでしょう。





# しみず 清水地区

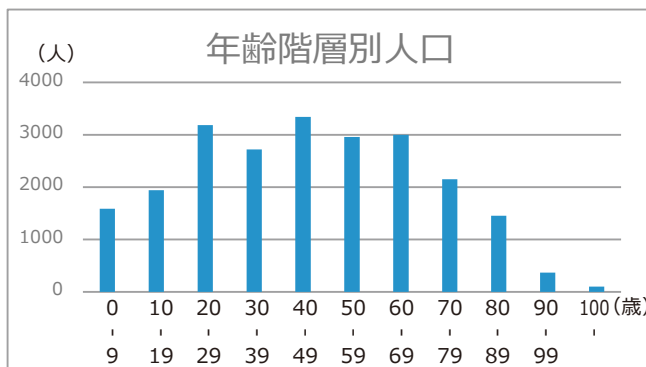
面積：3.65km<sup>2</sup>  
人口：23,015人（高齢化率 24.5%）  
世帯数：12,947世帯

## 【地区の特色】

清水地区は、六つの小・中・高・大学がバランス良く配置された文教地区であり、加えて松山城の築城最高責任者であった足立重信の墓所、そして日露戦争で捕虜となったロシア兵を温かく迎えこの地で亡くなられた方を手厚く葬っているロシア兵墓地がある。放浪の俳人山頭火の終の住処となった一草庵を始め、由緒ある神社仏閣等の文化遺産も数多くあり、まさに躍動する新しい町と歴史の町がうまく融和し発展している地区である。



一草庵



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>いきがい交流センターしみずに拠点があるため民生委員・児童委員や地域包括支援センターとのつながりが強い</li> <li>清水公民館や清水ふれあいセンターの催し物が多く地域の人に参加しやすい</li> <li>小、中学生の登下校の見守りができている</li> <li>各組織の協力体制ができている</li> <li>自主防災意識が高い ・水がきれい ・災害が少ない ・ボランティア活動が活発</li> <li>地域福祉サービス事業などの助け合い活動が盛ん ・大学生の地域行事への参加</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学生が多いため地域住民とのつながりが少ない</li> <li>マンションも多く隣人との付き合いが少なくなっている</li> <li>組織役員（町内会長等）の担い手不足 ・町内会の行事が少ない</li> <li>空き家が多くなっている</li> <li>ゴミ出しルールが守られてない</li> <li>坂が多い区域がある</li> <li>交通の不便な区域がある ・東部、南部にはスーパーがない</li> </ul>
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者、独居高齢者の増加 → 住民の高齢化</li> <li>短期居住者（大学生）との関係性が希薄</li> <li>交通の不便な区域がある ・空き家問題 ・買い物に不便な地域がある</li> <li>民生委員区域割りの検討</li> <li>認知症高齢者の対応 ・見守りが必要な世帯の増加</li> <li>子どもの減少 ・保育所の減少 ・移動スーパーの必要性が高まる</li> <li>組織役員の担い手不足 ・ゴミ出しが難しくなる ・働く場所が少なくなる</li> </ul>



## 清水地区社会福祉協議会

ささえ合う 福祉のまちや 清水の輪

〈拠点〉 松山市清水町 3 丁目 15 番地 清水小学校北校舎 2 階 TEL / FAX : 089-916-9179

<b>構成団体</b>	地区民協・町内会連合会・公民館・高齢クラブ連合会・女性防火クラブ P T A	
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>	
ふれあい教室（9 教室）	60 歳以上の方を対象とした趣味活動の場であり、交流を通じて住民同士の助け合い活動に繋がっています。（コーラス、絵手紙、民踊、書道、太極拳、茶道、フラダンス、カラオケ、英会話）	
地域住民と小学生との交流	一緒に給食を食べたり、もちつきや昔の遊びを“地域の名人”の高齢者に学んだりして小学校の各学年との交流を促しています。	
福祉講座の開催	頭や身体を使った体操やワークショップを取り入れるなど、年 2 回テーマを話し合っって開催しており、福祉だよりにて周知啓発しています。	

### しみず祭（4 月）

毎年 4 月の第 3 日曜日に清水小学校を会場として「しみず祭」が開催されています。ふれあい教室の発表やうどん、おはぎ、コーヒーなどの提供、高齢者と子どもたちによるステージ発表など関係団体・地域の皆さんのご協力もあり、毎年 500 名を超える来場者が交流を深めています。



### 〈地区社協が目指すもの〉

清水地区としては今後、少子高齢化・人口減少が進む中、「待ったなし」ととらえ、各種団体とも連携をとりながら、特に地区の弱みでもある町内会役員の高齢化や大学生・マンション住民との連携などを地域全体で真剣に考え、「歴史と文化と自然のまち清水」に住んでよかったと言える地域づくりを目指し、いきがい交流センターしみずに拠点を置く清水地区社会福祉協議会が地域のコミュニティの場となることを願います。

<b>地区の状況</b>	■ 地区民協 民生委員 主任児童委員	48 名 3 名	■ 町内会・自治会・区長会等	87 団体
	■ まち協の設立	平成 27 年度	■ 高齢クラブ ■ 子ども会 ■ 自主防災組織	5 クラブ 7 団体 36 組織

小学校の余裕教室を活用した「いきがい交流センターしみず」を拠点とする清水地区社協では、学校との連携により各学年の授業に高齢者や地域住民等との交流を組み込みながら事業を展開し、地域で子どもを見守り育て、それに関わる高齢者のいきがいづくりの活動が実践されています。また、今後、人口減少や高齢者の単身世帯増加といった社会的背景を受け活動の停滞や縮小が見込まれる自治活動、特に防災・減災活動のあり方を考えるとき「大学生の住民層が多い」という現状は強力なマンパワー確保へと繋がる可能性を持つ地区といえるでしょう。文教地区である特徴を活かし小学生から大学まで途切れることがない「シームレス」な地域活動や文化活動を展開することにより、地域固有の知を活かして、地域住民が生活課題に一体となって取り組むことが期待できます。



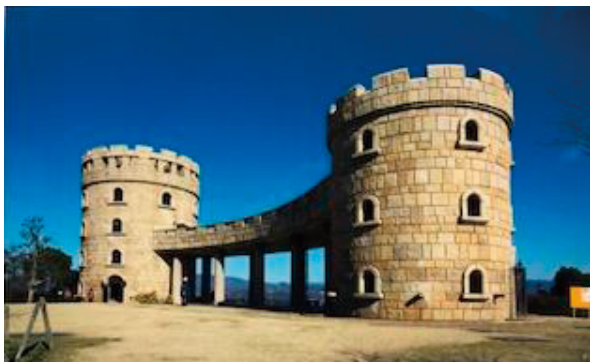


# みさけ 味酒地区

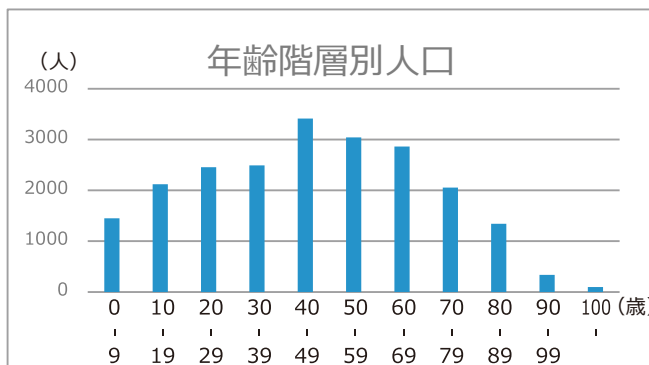
面積：2.92 km<sup>2</sup>  
人口：21,235人（高齢化率 24.3%）  
世帯数：11,826世帯

## 【地区の特色】

味酒地区は、十五万石の城下松山の西部にあって城下町として栄えた地区であり、数多くの文化財や史跡が残っている。代表的なものとしては、全国に名の知れた俳人 栗田樗堂（くりた ちよど）が寛政十二年に建てた庚申庵がある。ここで樗堂は松山の俳人と句作を楽しんだとされている。なお、この庵は平成十五年五月に改修整備を終え、史跡庭園として現在開園している。



大峰ヶ台（西山）



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院、福祉施設、生活関連施設が充分あり自然豊かで生活しやすい地域</li> <li>・陸海空交通の便が良い ・水がよい ・災害が少ない</li> <li>・教育機関(小、中)の活動が活発で、遊び場や子どもの数も多く地域に元気がある</li> <li>・児童の見守りができている（校庭にある児童クラブが大きい）</li> <li>・青パト活動等地域の団結力が強い</li> <li>・寺などの地域資源や物知りが多く、人の繋がりのある地区</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力会員数が少ない→ゴミ出しについて善意の協力をしてくれる人がほしい</li> <li>・交通量が多い、道が狭い、坂が多い、バスの廃止、電車の本数が少ない等の問題がある</li> <li>・マンションが多く建ち、近隣者のお付き合いが希薄</li> <li>・町内会に入る人が少ない</li> <li>・独居高齢者の存在が明確でない</li> </ul>
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マンションが増え子供たちが増加している</li> <li>・独居高齢者増 ・転入者が多い ・経済的な支援を必要とする人が増えてきた</li> <li>・空き家が多い ・防災防犯に課題がある</li> <li>・地域の団結を強めていくためのリーダー育成が必要</li> <li>・避難所が少ない（見直しが必要）</li> <li>・経済的に厳しい家庭が増える</li> <li>・道がせまい ・味酒小学校を中心に東方面に集会所があればよい</li> </ul>

# 味酒地区社会福祉協議会

ささえ合い 心をつなぐ

うまざけ  
味酒の

和・話・輪

<拠点> 松山市若草町 8 番地 2 松山市総合福祉センター内 3F

<b>構成団体</b>	地区民協・公民館・高齢クラブ連合会・町内会連合会
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>
福祉だよりの発行	年 2 回 14,000 部を作成し、地域福祉に関する情報や地区の貴重な人材についての紹介などを掲載し、回覧板にて全戸配布しています。
味酒小学校で敬老会	75 歳以上の高齢者を対象に 5 月に開催し、お弁当を食べながら演芸発表などを楽しみ交流を深めています。
福祉講座の開催	認知症に関することや健康体操など、地域住民の生活に関するテーマを設定し、年 3 回実施しています。

## サロン交流運動会 (11 月頃)

地区内のふれあい・いきいきサロン、地域交流サロンの 6 サロン合同で玉入れやパン食い競争、チーム対抗で行うボール運びなど室内で出来る運動会を開催しています。終わった後は皆でお弁当を食べるなどして交流を深め、競技も食事も笑いの絶えない楽しい会となり、参加者の毎年の楽しみとなっています。



### <地区社協が目指すもの>

味酒地区社協は、今までの実践を大切にしながら、新しく天災地変時に生じやすい大峰ヶ台山麓、宮前川両所の再度点検と避難所への誘導方法について検討し今後盛り込んでいく予定です。また、地域での福祉活動が絵に描いたもちにならないよう、一緒にスクラムを組み取り組んでくれる人材の確保に努めなければならないと考えます。そのためにも福祉だよりや福祉講座等を利用し、公民館、まちづくり協議会、町内会連合会、高齢クラブ、学校、その他地区内の関係団体との協力関係を築き、人間同志の心と心を密にする事こそを活動の最大の目標とします。

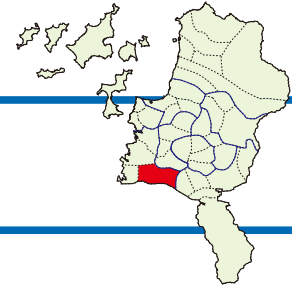
地区の状況	■地区民協 民生委員 主任児童委員	40 名 3 名	■町内会・自治会・区長会等	62 団体
	■まち協の設立	平成 28 年度	■高齢クラブ ■子ども会 ■自主防災組織	8 クラブ 3 団体 24 組織

マンションや住宅地など「かやまち商店街」をはじめとした商業施設が共存する地区で市内中心部に近いことから、地域住民の多様な生活パターンが考えられます。したがって支え合いのかたちも多様な活動が求められる地区です。そうした中で、地区社協が実施する福祉講座では、地区内の関係機関と連携しながら生活課題を選定し、地域福祉活動の理解者の拡大に努め、地域住民からのニーズに応える体制を整備しています。また、地域課題の一つとして「空き家が多い」とありますが地域住民みんなの共有資源となる潜在的空間の可能性を持った地区ともいえるでしょう。転入者層も多く子どもの数も増加傾向にあるため今後は、多世代交流の機会と場を創造することで防災だけでなく防犯の強化も併せて期待できるでしょう。



# よ ども 余土地区

面積：5.12km<sup>2</sup>  
人口：23,767人（高齢化率 24.2%）  
世帯数：10,414世帯

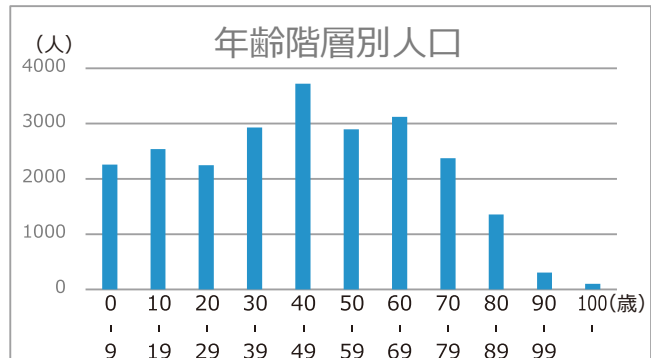


## 【地区の特色】

余土地区は、余戸・保免・市坪の3つの町からなり、石手川と重信川が合流する地域に位置している。昔から農業の大変盛んな農村地であったが、近年は国道56号線を中心に住宅や店舗が建ち、他の地域からの転居者も増え、人口は松山市の上位にランクされるようになった。また、松山中央公園には「坊っちゃんスタジアム」や「県武道館」など大型公共施設が集中しており、今後の町の活性化がますます期待されている。



松山中央公園と眼下に流れる石手川



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害が小さい（地理的） ・交通の利便性が高い（電車、バス、空港、高速道路近く）</li> <li>・地区社協拠点がある ・高齢者、障がい者の施設が充実 ・移動スーパーが来る</li> <li>・まちづくり協議会が充実（人づくり） ・街灯が多く夜明るい</li> <li>・公民館のスポーツ大会の充実（ソフトボール、グラウンドゴルフ、ペタンクなど）</li> <li>・中央公園ができてスポーツ関係が充実し、町が明るくなってきた</li> <li>・中央公園地域の散歩、ジョギングの利用増大 ・地区の見守りがあり、繋がりが強い</li> <li>・地域活動に中心になる人が多い ・新しい宅地に若い人が多い</li> <li>・ゴミ出しのルールがよい（地区で話し合いができています） ・犬の散歩のルールがよい</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マンション、コーポの増加で人間関係が希薄になっている</li> <li>・道路建設により地域が分断されている（余戸南）</li> <li>・空き家が多い ・役員の担い手が少ない ・各団体は利用者が限定される</li> <li>・転勤族が多い ・水害時の心配（避難場所が少ないうえに遠い、道が狭い）</li> <li>・市営団地やマンション等の個人情報分からない ・屋外で運動する場所が少ない</li> <li>・歩道が整備されていないので車いすが押しにくい（高齢者が不便）</li> <li>・買い物に不便な地域がある ・地区内の愛護班の繋がりが薄くなった</li> <li>・人口は増えているが新しい住民との交流が少ない</li> </ul>
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団地、分譲住宅が高齢化により活動が難しい</li> <li>・子ども会活動の停滞</li> <li>・住宅化が進み近所付き合いが希薄になっている</li> <li>・高齢者世帯が増加し空き家も増加</li> <li>・近所のコミュニケーションがとりにくい</li> <li>・歩道の整備 ・郵便ポストが少ない</li> <li>・分譲住宅は同年代が多く一気に高齢化する恐れがある</li> <li>・災害時の高齢者の避難（防災士との連携）</li> </ul>



## 余土地区社会福祉協議会

助け合い 笑顔が輪になる 余土のまち

<拠点> 松山市余戸東 4-4-34 (余土公民館内)

<b>構成団体</b>	地区民協・議員・公民館・中学校・小学校・消防分団・交通安全協会 交番・農協・町内会長・高齢クラブ・保育園・母子福祉会・地域包括支援センター
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>
災害マップの作成	平成 23 年度から独居・寝たきり・障がい者の支援を目的に地区民協と連携して作成し各町単位で更新しながら活用しています。
福祉学習の推進	公民館と共催し、地域にある公民館・分館にてテーマ性に富んだ福祉学習事業を行っています。
福祉用具の貸し出し	短期の旅行や病院受診などの際に介助が必要な方を対象に、車いすの貸し出しを行っています。

### 拠点を活かした取り組み

余土公民館、まちづくり協議会、地区社協が入る拠点の機能を活かして、様々な連携・協働事業を行っています。

平成 30 年度には松山市が定めた「まつやま子どもの日」にちなみ、マジックショーや子ども服の交換会など親子が楽しめる参加型イベントを開催しました。



### <地区社協が目指すもの>

余土地区社協では平成 29 年にかねてから念願であった活動拠点を余土公民館の中に設けることができました。また隣接には子育て関連の施設も入り分野を超えた連携が期待されています。

今後、地域内の問題がますます複雑になっていくこととは思いますが、関係する様々な団体が互いに連携し、それぞれの特徴を活かした地域福祉活動を展開することが重要であると考えます。拠点を活かした取り組みを重ねながら、少しでも地域の活性化に貢献したいと考えております。

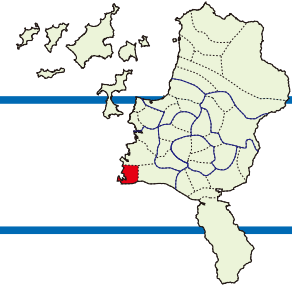
<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	34 名 2 名	■町内会・自治会・区長会等	46 団体
	■まち協の設立	平成 21 年度	■高齢クラブ	10 クラブ
			■子ども会	14 団体
			■自主防災組織	8 組織

余土地区の活動の魅力は、「多団体との連携・協働」です。公民館内に地区社協の活動拠点を設けることができたことにより、地域の関係団体との連携がさらに強化され、活動の幅が広がっています。特に子育てサロンについては、こども服の交換会など新たな取り組みや高齢者施設などとの交流を取り入れ、世代や分野を超えた交流の中で子育ての支援を行っています。「連携・協働」により、情報発信力も高まっています。また、地理的に災害が少ないながらも、災害マップの作成を含め入念に防災対策をし「助け合い」ができるように備えています。福祉的ニーズを持つ住民はもちろん、広く住民が恩恵を受けられる試みがされている地区だといえるでしょう。



# は ぶ 垣生地区

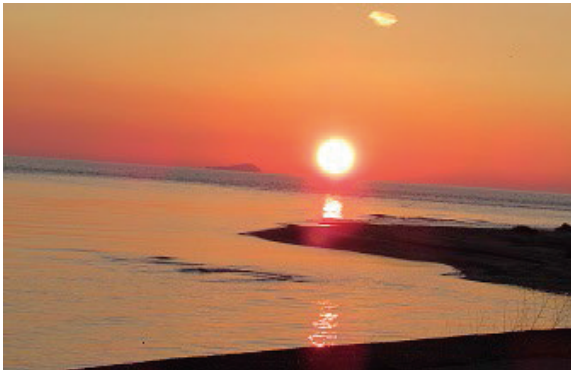
面 積：4.24km<sup>2</sup>  
人 口：12,030 人（高齢化率 22.7%）  
世帯数：4,977 世帯



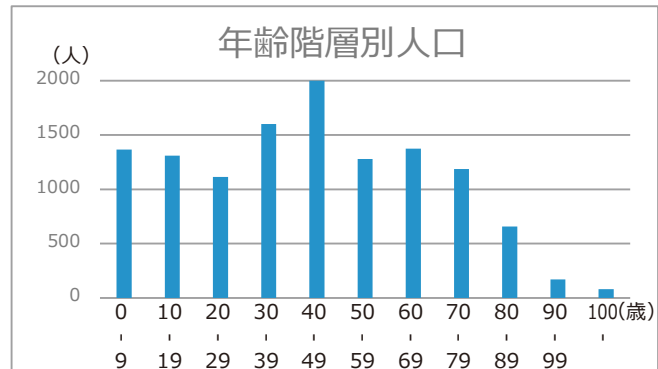
## 【地区の特色】

松山市の西南端に位置する垣生地区は、南に重信川河口、美しい夕日の落ちる風光明媚な所、年間を通して 3,000 羽の渡り鳥が羽根を休める。半農半漁のこの町も時代の流れと共に企業や会社人口も増しているが、新旧住民の意志疎通は図られている。

また、地区住民の幸せを願って西国 33 霊場のお地藏様が町の角々に建てられているのもこの地域ならではの特色であり、伊予絃の発案者で有名な鍵谷カナの生誕の地でもある。



重信川河口から見る夕日



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災関連の活動が活発（防災士、自主防災会、女性防火クラブなど）</li> <li>・俳句の里としての歴史が残っている ・サロン活動が活発 ・子どもの見守り</li> <li>・夏祭り盆踊り大会 ・医療機関が多い ・生活関連施設に恵まれ生活しやすい</li> <li>・公園、グラウンドが多い ・保育園、幼稚園、小中学校が地域に溶け込んでいる</li> <li>・町内会行事の参加者が多い ・ループバス便が 15 分～20 分毎にある</li> <li>・自然が残っている ・公共機関が地区の中央にある ・歴史が豊か</li> <li>・人口が増加している ・児童が増えている ・道路が広い（東垣生）</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合住宅が多いので連絡が取りにくくなった</li> <li>・ごみステーションの問題（ルールを守らない人がいる）</li> <li>・人口の増加により、新旧住民との関係がうまくいかない</li> <li>・交通の便が悪い（高齢者は特に不便） ・ボール遊びする公園が少ない</li> <li>・地域住民が集まれる複合型コミュニティ施設がない ・古い住民と新しい住民が疎遠</li> <li>・公民館が古くなっている（駐車場がない、エレベーターがない、トイレ等の設備が古い）</li> <li>・高齢者が買い物できる場が少ない ・西垣生は生活道路が狭く空き家が多い</li> <li>・若者が町内会に加入しない ・中心部の道路が狭い ・ループバスに南北コースが必要</li> <li>・団体数が多く連携が難しい ・地域色が強すぎる</li> </ul>
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報が入ってこない ・避難行動要支援者は個人からの申請がないので把握できない</li> <li>・老々介護の方が増えている ・道が狭く救急車が入りづらい（西垣生町内）</li> <li>・ループバスが南北にも必要</li> <li>・高齢者と若者で地域への関わり方の意識に差がある</li> <li>・独居の認知症高齢者を地域で支える方法</li> <li>・空港整備で町のつながりが変化してきた ・住所標記ができていない</li> <li>・地域の繋がりが希薄 ・災害時の高齢者のための避難施設の整備が必要</li> </ul>

## 垣生地区社会福祉協議会

<b>構成団体</b>	共同募金会・地区民協・公民館・分館・PTA・更生保護女性会・町内会連盟 女性防火クラブ・高齢クラブ連合会・協議会・防犯協会・レディースネットワーク
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>
特別支援学級児童との交流行事	小学校の特別支援学級に通う児童との交流行事を開催し、りんご狩りなどの学外活動を中心に社会体験の提供に努めています。
高齢者・児童の見守り	小・中学校と連携し夏休み・冬休みにあわせ、夜間パトロールを行っています。
福祉講座の開催	福祉への理解を深めてもらうための研修会を開催しています。

### かぎやさい 鍵谷祭

伊予かすりを考案した鍵谷カナの命日である5月28日にあわせ垣生地区で行われている「鍵谷祭」において、公民館と連携してもちつきや販売、サロン作品の展示などを行っています。伝統文化を次世代に伝えるため、地区社協として支援しています。



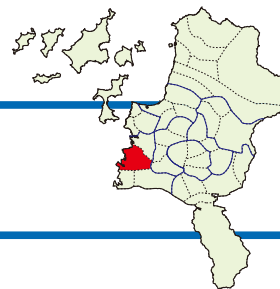
### <地区社協が目指すもの>

垣生地区は、伊予絋の考案者である鍵谷カナ生誕の地であり、また村上<sup>せいげつ</sup>霽月や石田波<sup>はきょう</sup>郷、霽月の友人の正岡子規が今出を散策した際の句碑が数多くある伝統と歴史溢れる地区であるとともに、現在は外環状線の整備が進み、それに伴って人口もやや増加傾向にあります。そういった状況を踏まえ、今後は地域がより一体となった活動が展開される必要があると考え、現在、まちづくり協議会が中心となって検討している地区内の複合型コミュニティ施設の整備についても、地区社協として協力しております。今後も地域の関係団体と連携し地域の実情に応じた福祉活動を展開します。

<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	15名 2名	■町内会・自治会・区長会等	51団体
	■まち協の設立	平成26年度	■高齢クラブ ■子ども会 ■自主防災組織	0クラブ 16団体 34組織

人口が増加傾向にあり、Uターンで親や親戚等の元に戻ってくる若い世代が多く、地域になじみやすい環境であることから地域行事への参加も多く、協力的な人が多いです。新旧住民の歩み寄りも地区の弱みとして挙げられていますが、本地区は互いが幸せに暮らせるように、心を砕いている地区です。また、地区社協と地区民協、小中学校と連携した活動を継続的に行っています。垣生地区は、長い歴史と文化のある地区です。今後も、地区社協の構成団体の強みを持ち寄った活動と、地域にある各種団体との協働を深めることで、「みんなでつくろう！！笑顔でつなぐ垣生のまち」へと歴史を紡いでいくことが期待できます。





しょうせき

# 生石地区

面積：7.48km<sup>2</sup>

人口：19,294人（高齢化率 25.5%）

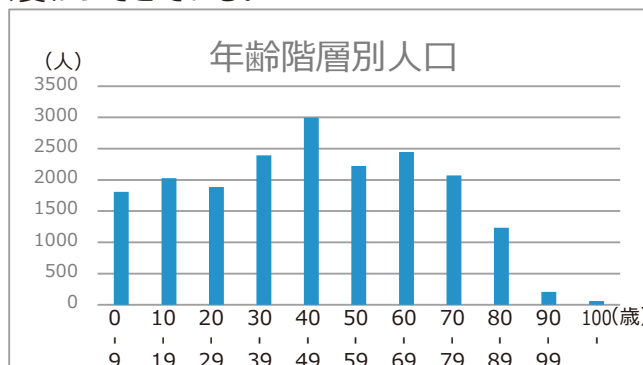
世帯数：8,521世帯

## 【地区の特色】

生石地区は、松山市の西部、瀬戸内海に面した位置にあり、自然と緑豊かな垣生山を中心に、伊予節で有名な吉田挿桃（さしもも）をはじめ、生石八幡神社・金刀比羅神社等、数多くの史跡が残っている。かつては、大根・ラッキョ・さつまいも等の野菜栽培が主な産業の田舎であった。戦後は、(株)帝人をはじめ次々と企業が進出し、旧軍滑走路は松山空港となり、周辺の整備事業も進み、国際化へ向って愛媛の空の玄関として大きく変わってきている。



愛媛の空の玄関、松山空港



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり協議会と連携して、福祉マップ作り ・防災訓練に熱心</li> <li>・陸海空の交通が至便 空港があり県外へのアクセスが良好</li> <li>・買い物などスーパーが多く便利 ・避難所が多い</li> <li>・公園で子どもたちがよく遊んでいる ・住民によって垣生山の整備活動が行われている</li> <li>・公民館活動が盛んでコミュニケーションが取れている</li> <li>・子どもたちがよく挨拶する 児童数市内No.1 ・企業OBが協力的</li> <li>・自然に恵まれている ・山側を歩くと空気がキレイ</li> <li>・保育園と地域住民の交流がある ・子ども見守り隊の見守り員が多い</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーポなど自治会にも入らない人達とのコミュニケーションが取りにくい</li> <li>・若い人の地域行事参加が少ない ・山火事が心配</li> <li>・空港までの交通が不便（バス、電車がほしい）</li> <li>・脇道の車の量が多い ・地域によるゴミ出しの分別が守られていない</li> <li>・デコボコ道が多くシルバーカーが押しにくい</li> <li>・信号の時間が短いところがある ・公園の利用マナーが悪い</li> <li>・通学路に水溜りが多い ・待機児童が多い ・病時保育のできる病院がない</li> <li>・時間によって交通混雑、渋滞がある ・土石流の心配がある</li> </ul>
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報保護法により、個人情報が出ないので把握できない事が多い</li> <li>・独居世帯が増加（食事などの日常生活への支援が必要）</li> <li>・高齢者が話し相手をほしがっている ・高齢者のゴミ出し</li> <li>・独居世帯の食事の偏り ・賃貸マンションの住民との交流</li> <li>・スーパーが多くなり、小売店が少なくなる（高齢者の買い物が不便）</li> <li>・役員の担い手 ・行事を行うにも他人事</li> <li>・共働き世帯の育児支援体制</li> <li>・住民同士の関わりが希薄になる ・共同募金への協力</li> </ul>



# 生石地区社会福祉協議会

つないだ手 温もり伝わる 生石の輪

<b>構成団体</b>	地区民協・町内会長・区長・自治会長	
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>	
地域住民の生活支援 (地域福祉サービス事業)	ゴミ出し等、高齢者の生活を地域住民の手で支えようと、協力会員、民生委員・児童委員、みまもり員が簡易な生活援助を行っています。	
生石小学校における 福祉学習	福祉学習の一環として、障がいのある人や高齢者の生活への理解促進を目的に車いすや点字、高齢者疑似体験の活動を支援しています。	
高齢者福祉講座	まちづくり協議会と連携し、主に高齢者を対象とした福祉講座を開催しています。高齢者が身近に感じる事をテーマに取り上げています。	

## お一人住いの皆様と共に

独居高齢者を対象に、交流と慰労を目的とした催しを行っています。保育園児による劇や中学生によるコーラスなど、様々な関係機関と連携して絆と思いやりの種まきを行っています。  
平成元年から続く活動で平成 30 年に 30 回を迎えました。



## <地区社協が目指すもの>

地域社会の変化と多様化、例えば新旧住民の関係、地域への愛着度、少子高齢化、防災など課題山積のなか、これまでの行事・活動を漫然と続けていては活性化は望めません。まずは地区まちづくり協議会、その構成組織・団体との連携強化と交流に努めます。すでに高齢者健康福祉講座、認知症サポーター養成講座、防災訓練、災害時要援護者対策で実績を積み、意見交換を始めている分野もあるため、この流れを地道に継続し、拡大・普遍化する先に「助け合う社会」「安全安心の暮らし」「地域文化の継承」などの展望が開けてくると考えています。

<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	25名 2名	■町内会・自治会・区長会等	9団体
	■まち協の設立	平成 26 年度	■高齢クラブ	8クラブ
			■子ども会	7団体
			■自主防災組織	16組織

生石地区の活動の魅力は、ひとつには福祉学習など子どもにアプローチする地道な「絆と思いやりの種まき」があります。成長には時間がかかるため、地区の弱みに行事参加率の低さが挙げられていますが、美しい自然と史跡が残りインスタ映えする本地区は、若い人の興味を引き、行事参加へとつなげられる可能性があります。魅力の 2 つ目は「持続可能性への視点」です。地域福祉サービス事業において、地区社協と地区民協が一体となって、利用者のニーズに合った新たな協力会員を広く地区の住民の中から発掘し、ゴミ出しなどの生活援助が支援者にも負担のないような、体制づくりを積極的に行っています。「種」の成長が楽しみな地区です。





# みぶ 味生地区

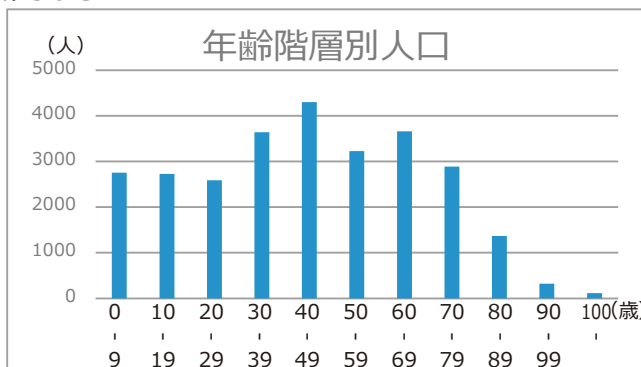
面積：7.23 km<sup>2</sup>  
 人口：27,509人（高齢化率 24.2%）  
 世帯数：12,284 世帯

## 【地区の特色】

味生地区は、松山市の南西部に位置し、南斎院・空港通・北斎院・別府・清住・大可賀・山西の各町から成る静かな住宅地域である。松山市の空の玄関口である「松山空港」に隣接するとともに、貿易促進地区（FAZ 愛媛）の指定に伴い、西部の海岸地帯は近代化学工業が立地する臨海工業地帯である。また、古くから神社・寺院も多く、味生地区の史跡（古照遺跡）を展示する考古館や小・中・高校を地区内に有する文化と教育の地域である。



南斎院町の長屋門



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり協議会がある</li> <li>・自主防災が各地区で整備されている</li> <li>・人が穏やか ・面倒見が良い人が多い</li> <li>・生活がしやすい ・病院が多い</li> <li>・バスの便が良い（南斎院） ・電車（山西）が通っている</li> <li>・文化財が多い ・子ども見守り隊の活動が活発</li> <li>・社会福祉法人（施設等）との交流が盛ん ・若い人たちの居住が増えた</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉活動のPR 不足 ・福祉学習へ新たな参加者を増やすための呼びかけ方法</li> <li>・坂道が危険（軽井沢団地、津田団地） ・ふれあいセンター前の道がせまい</li> <li>・真情橋（まごころばし）の道路に歩道が必要</li> <li>・山西地区は大雨台風時に浸水の恐れあり</li> <li>・自由に使用できる集会所が少ない ・マナーが悪い（ゴミ、犬のフン）</li> <li>・川が危ないところがある ・休耕地、耕作放棄地がある</li> <li>・空き家問題がある ・共同募金を集めるのが難しい</li> </ul>
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が多くなり地域の役員の担い手がなくなる（仕掛け人が不足）</li> <li>・高齢者の増加による支援（ゴミ出しなどの生活関連）</li> <li>・障がい者の把握がよくできていない</li> <li>・独居高齢者の居場所→安心して本音を話せる場所が必要</li> <li>・休耕地や耕作放棄地、空き家問題</li> <li>・近隣付き合いの希薄化 ・高齢者と若い世代とのコミュニケーションが少ない</li> <li>・公共の行事（市民大清掃など）の参加者が少ない</li> <li>・ゴミ出しのマナーが徹底されていない ・高齢者に対する理解不足</li> </ul>

## 味生地区社会福祉協議会

まごころ  
真情で 福祉を支える 味生の里

<b>構成団体</b>	地区民協・広報委員・町内会長連絡協議会・公民館・自主防災連合会・支所・PTA 食生活推進協議会・高齢クラブ連合会・小学校・中学校・保健推進協力会・保育園 地域包括支援センター・少年警察ボランティア協会・更生保護婦人会
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>
津田中学校1年生とサロンの交流会	津田中学校の生徒と地域のサロンの利用者による交流会を開催しています。レクリエーションなどは中学生が考えたものを取り入れ、地域と学校をつなぐ取り組みとして行っています。
小学生から高齢者へのメッセージカード	一人暮らしの高齢者を対象に、小学生がつくったメッセージカードを持って民生委員・児童委員が訪問しています。
ふれあい料理教室	地域内の料理講師を迎え、定期的な料理教室を開催しています。

### 味生福祉のつどい

地域のサロンや学校、障がい者施設、包括支援センターなど様々な関係機関や団体が協働し、福祉啓発を目的としたお祭りを開催しています。サロンによる発表会や販売、健康相談などを実施しており毎回700名近い方が来場されます。



#### <地区社協が目指すもの>

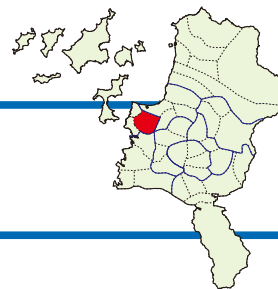
「みんなは地域のために、地域はみんなのために」を合言葉に、地域の皆さんが明るく楽しく元気づく生活できるよう支援活動の輪を広げ地域福祉の向上をめざします。

1、まちづくり協議会など関係組織との連携を強化し、多くの課題をより効果的に解決するよう取り組みます。2、地域のニーズを的確に把握し事業内容や予算に反映させます。3、高齢者や障がい者の方々の日常生活での困りごとのお手伝いを支援する地域福祉サービス事業の充実・強化に取り組みます。

<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	38名 2名	■町内会・自治会・区長会等	33団体
	■まち協の設立	平成30年度	■高齢クラブ ■子ども会 ■自主防災組織	5クラブ 29団体 37組織

子ども会の数が40地区の中でNo.1である味生地区。地区社協や関係団体の取り組みは子どもに焦点をあてたもの、もしくは子どもと協働しながらの活動も多いことから、新旧の子育て世代の住民が地域に馴染みやすいことが特徴と言えるでしょう。味生地区社協は、バラエティーに富んだ構成団体を有しています。<地区社協が目指すもの>からも、地域住民の生活課題の解決に向けた地区社協の意欲が感じられます。地区内関係団体との連携や地域住民の福祉活動への理解拡大のための啓発活動、年齢に関係なく新たな活動者の発掘を図りながら、地域福祉サービス事業を柱とした今後のさらなる活動の強化が期待されます。





みやまえ  
**宮前地区**

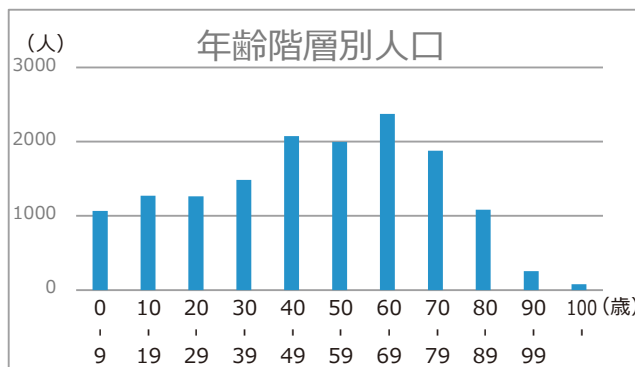
面積：2.95 km<sup>2</sup>  
人口：14,767人（高齢化率 30.8%）  
世帯数：7,022 世帯

**【地区の特色】**

宮前地区は、松山市の北西部に位置し、松山の海の玄関である三津浜・高浜地区に隣接している。以前は農業を中心とした地区であったが、近年は宅地造成等が進んでいる。また、文楽「伊予源之丞」や虎舞といった郷土芸能、文化財史跡の保存にも力を入れ、あらゆる活動を通して明るく住みよいまちづくりを推進している。



虎舞



**【地域住民からみた地域の状況】**

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校のグラウンドにて防災訓練を行い、避難経路の確認や炊き出し訓練を行っている</li> <li>・ 新しい家、若い世代も増えて、一部では子ども会も復活し、三世交流が行われている</li> <li>・ 高齢クラブやグラウンドゴルフ愛好者などが、利用する公園や地域の美化に努めている</li> <li>・ 公民館が中心となって、伝統芸能の伝承活動の支援、サークル活動の発表や個人の作品の展示会など、各種の文化活動が盛んである</li> <li>・ 交通機関、医療福祉施設、生活関連施設、教育施設等も充実しており、住みやすい</li> <li>・ 様々な団体との連携、協力体制がよく、役員 OB との連携も継続している</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地盤の低い一部の地区や道路の狭い地区では、災害など緊急時の避難体制に不安がある</li> <li>・ 要援護者の把握と支援体制が不十分で、地域防災との連携強化が必要である</li> <li>・ 町内会加入世帯の減少に伴い、近隣との関係が希薄な地域もある</li> <li>・ 各団体のリーダーの高齢化が進み、次世代リーダーの育成が遅れている</li> </ul>
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年々高齢者が増加し、独居高齢者・高齢者世帯の対策が必要</li> <li>・ 増加する高齢者、要支援者の把握</li> <li>・ 介護が必要にならないようするための対策（健康寿命の促進方策）</li> <li>・ 近所づきあいの希薄化、地域コミュニティ不足への対応</li> <li>・ ひとり親世帯や障がい者の実態把握と支援体制</li> </ul>



## 宮前地区社会福祉協議会

次世代へ つなぐ福祉のバトン 温かく

<b>構成団体</b>	地区民協・公民館・PTA・母子会・保護司会・婦人会・高齢クラブ連合会 支所・中学校・小学校・広報連絡協議会・サロン代表者
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>
3 地区合同施設訪問	毎年、三津浜・高浜・宮前地区が合同で、地区外の福祉施設に入所された地元出身の方々を訪問・激励しています。
高齢者の見守り活動	民協会と協働して 75 歳以上の高齢者や寝たきり・独居高齢者を訪問して品物を贈り、現況を確認するなど見守り活動を行っています。
地域団体との連携	地域で活動している様々な団体に助成を行うとともに、情報共有して連携した活動が強化されるよう取り組んでいます。

### 世代間交流の推進

福祉学習事業の一環として、小・中学校の子どもたちが地域の高齢者や障がい者施設を訪問したり独居高齢者に年賀状を送るなど、世代間交流を推進しています。



#### <地区社協が目指すもの>

宮前地区社協は、基本理念を「次世代へ つなぐ福祉のバトン 温かく」とし、人々の心のふれあいを大切にしたい相互支援の輪を広げる活動を推進しています。

当面の課題は、高齢者の寝たきりを防ぐ方策や健康寿命を延ばす活動、また、恵まれない人達への支援など地域福祉の要望に対応できる仕組みづくりを行うことです。そのため、地区内の各組織・団体と福祉課題を共有し、相互に連携した活動の推進に努めること、及び組織の交流によって次世代へつながる人材を育成していけるよう取り組んでいきたいです。

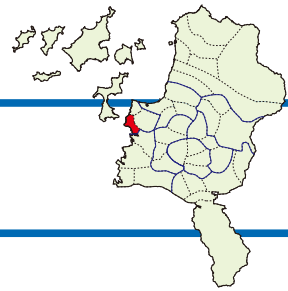
<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	23名 2名	■町内会・自治会・区長会等	31 団体
	■まち協の設立	—	■高齢クラブ ■子ども会 ■自主防災組織	4 クラブ 23 団体 31 組織

JRと私鉄の駅があり、市内郊外へ出かけるのに便利であると同時に、地区近隣の高等学校へ通う生徒の玄関口となり、朝夕は若者の往来で賑わいます。教育のほか医療、福祉、交通機関等が整備されており住みやすいため、転入者も多くみられる地区です。新たに住民が増えると地区内での関係づくりが問題となりますが、地区内団体間での連携や多世代交流などにより地域力を保っています。地区社協が取り組む世代間交流活動は、保護者が地区外出身者の子どもたちも、地区の一員として生活をしている実感を得る貴重な取り組みとなっています。地域を支える人材育成が世代交代をスムーズにすることが期待されています。



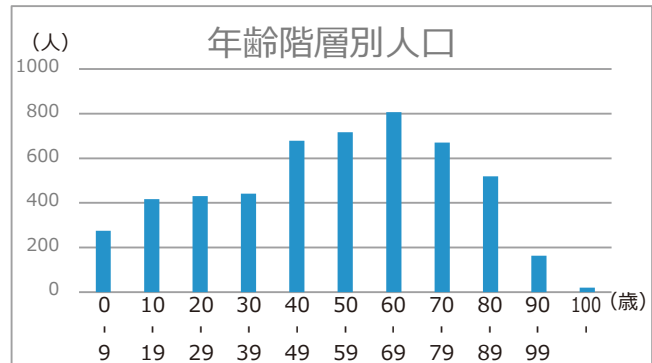
み つ は ま  
**三津浜地区**

面積：0.96km<sup>2</sup>  
人口：5,126人（高齢化率 35.6%）  
世帯数：2,661世帯



**【地区の特色】**

三津浜地区は、松山市の西部に位置し、南には松山空港、北端には松山市の海の玄関にあたる松山観光港を控えており、その中間部に位置する。また、朝市や海運と商業の町として栄え、地理的には海岸沿いで広い土地がないため昔から居住している人が多い。風物として、三津と港山を結ぶ「渡し船」があるなど古い情緒が残っており、最近では夏の花火大会として有名な地域である。



瀬戸内海と宮前川に挟まれた三津浜の町並

**【地域住民からみた地域の状況】**

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活に便利 ・資金がある（各種団体に助成）特に青少年健全育成に力を入れている</li> <li>・社会資源が豊富(支所、警察署、消防署、図書館、教育機関、交通機関、スーパー、神社、お寺等) ・昔から海運と商業で栄えた町で豊富な経験 ・狭いエリアの中に生活の拠点</li> <li>・知識を有する多能な人材を輩出した地区である</li> <li>・陸、海、空、公共交通機関のアクセスがよい</li> <li>・旧 38 町毎に町内会があり各種活動を行っている</li> <li>・下町の間人関係が町に残り、住民同士の顔が分かる地域</li> <li>・各種団体の役員がリーダーとなって地区の活性化に努めている</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化と若い人の転入が少なく過疎化が深刻な問題</li> <li>・少子化で伝統行事が受け継がれていくか心配 ・気軽に利用できるスポーツ施設が少ない</li> <li>・小学校の児童数の減少で（1～2クラス）クラス対抗の競技ができなくなった</li> <li>・地域のリーダーとして活動している人は高齢者が多く、一人が多くの役を引き受けて活動している ・新しいもの、よそ者を受け入れにくい土壌がある</li> <li>・人心一新、若い人が力を発揮できる環境整備に取り組みないと組織の風通しが悪くなる</li> </ul>
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少（過疎化の進行が松山市の市街地域では一番） ・少子高齢化が進行している</li> <li>・高齢化に伴う人材不足</li> <li>・若きリーダーが育っておらず次世代へのバトンタッチが進んでいない</li> <li>・空き家、空き店舗が増加している ・他団体との連携が十分ではない</li> <li>・住民間のコミュニケーションの希薄化が進行している</li> <li>・法律が壁となり、キメ細やかな福祉活動がその先へ進めない</li> <li>・三津浜にあった古来伝統文化が伝承されず一部途絶え消滅状態にある</li> </ul>

## 三津浜地区社会福祉協議会

ふれ合いで、笑顔あふれる、三津の街

〈拠点〉 松山市住吉2丁目5番25号（ふれあいサロン三津浜内）

<b>構成団体</b>	地区民協・公民館・子ども会育成者連絡協議会・高齢クラブ連合会・広報部会 自主防災組織連合会・松山西交通安全協会三津浜支部・母子会・保護司会第9分区 中学校・小学校・PTA・婦人会・西地区少年警察ボランティア協会・まちづくり協議会
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>
3地区合同施設訪問	毎年、宮前・高浜・三津浜地区が合同で、地区外の福祉施設に入所された地元出身の方々を訪問・激励しています。
三津浜地区敬老会	79歳以上の在宅高齢者約570名のうち、100名を超える方が一堂に会して、式典や小学生による催し物など楽しんでおられます。
基金の有効利用	高齢者福祉、青少年の健全育成、地域交流促進を目的とし、各種事業に善意の福祉基金を有効利用することに努めています。

### 伊予鉄三津駅前花壇整備

地域福祉サービス事業の一環として、年間を通じ毎週月曜日と木曜日、三津浜地区の協力会員が駅前一帯の環境美化のために、水やりと花壇の清掃に取り組んでいます。



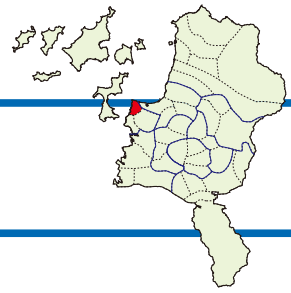
### 〈地区社協が目指すもの〉

三津浜地区もご多分にもれず少子高齢化が進み、現在、高齢化率は約36%と松山市街地でも高い比率となっており、今後も急速に上昇すると見込まれています。このような状況下において地域の各種団体が連携して誰もが参加できるコミュニケーションの機会やふれあいの場をつくり、老いても若きも笑顔でふれあう機会を増やすことが、現役世代を巻き込み、高齢者の健康寿命を延ばし、若年層の情操教育に有効であると考えています。地域の福祉向上に向け、これからは子どもから高齢者までの全世代を対象とした施策を積極的に講じていくこととしています。

<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	19名 2名	■町内会・自治会・区長会等	38団体
			■高齢クラブ	2クラブ
			■子ども会	24団体
	■まち協の設立	平成22年度	■自主防災組織	29組織

松山市内最大の花火大会の開催地で、地域住民と中学生ボランティアが協力して祭りを盛り上げています。地区社協では施設訪問等で地区内の福祉施設と日頃から連携を図っているほか、地区内各種団体の連携をいかした敬老会や駅前花壇整備などの地域活性化活動にも取り組んでいます。また、地区社協発行の「福祉だより」は企業広告として施設の紹介を行うなど内容を充実化させるほか、全面カラー印刷にするなどの工夫を常に行うことにより住民に見やすく福祉を身近に感じることのできる発行物となっています。





たかはま  
**高浜地区**

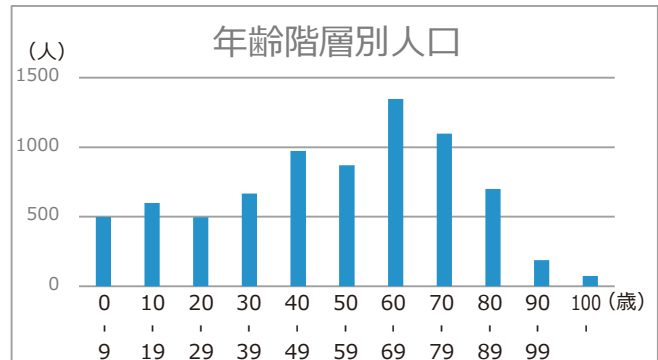
面積：4.57km<sup>2</sup>  
人口：7,432人（高齢化率 36.8%）  
世帯数：3,553世帯

**【地区の特色】**

松山市の北に位置する高浜地区は、緑濃い山を背景に目の前には穏やかで美しい瀬戸の海を望む自然豊かな地区である。松山の海の玄関としても栄えており、文化財にも恵まれている。また、高浜は帯状に長く、北から南まで5kmほどある。以前は農業と漁業のまちであったが、市内中心部にほど近いこともあり、最近では会社勤めの人が多くなってきている。



ターナー島



**【地域住民からみた地域の状況】**

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者、子どもたちへの挨拶や声かけがとても良くできている</li> <li>・地域行事への参加が多い</li> <li>・近隣住民の支援体制ができている</li> <li>・隣近所の情報がよく分かっている</li> <li>・タクシーを乗り合わせて買い物に行く近所づきあいがある</li> <li>・Uターンして住む人や移住してくる若い世代もあり、住みやすく人気の地区である</li> <li>・中学校の新入生が増加している</li> <li>・地区内に別荘地がある</li> <li>・災害時の要援護者の把握ができている</li> <li>・高浜地区の各種団体の連携がとれている</li> <li>・食べ物（特に魚）がおいしい</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敬老会などへの参加者が少ない</li> <li>・分館、集会所に駐車場がなく、行事への参加がしにくい</li> <li>・スーパー、病院が少ない</li> <li>・ループバスが通っているがバス停が少ないため、駅から離れた地域は交通手段に困る</li> <li>・漁師の跡継ぎが少ない</li> </ul>
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南北に長いので生活状態が異なる</li> <li>・地区内にスーパーがないため、買い物に不便</li> <li>・総合病院が遠いので不便</li> <li>・交通手段がないため、タクシーの利用頻度が高い（病院、買い物など）</li> </ul>



# 高浜地区社会福祉協議会

海の高浜 福祉はひとつ

<b>構成団体</b>	地区民協・公民館・町内会連合会・高齢クラブ連合会・保護司会・自主防災連合会 交通安全協会高浜支部・警察協助手高浜支部・青少年健全育成連絡協議会・PTA
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>
3 地区合同施設訪問	毎年、宮前・三津浜・高浜地区が合同で、地区外の福祉施設に入所された地元出身の方々を訪問・激励しています。
福祉学習事業への支援	毎年、小・中学生とその親を対象とした地引網や学校へ泊ろう大作戦、親子スポーツデーに助成し、活動を支援しています。
資源ごみの回収	アルミ缶を回収、換金し、和室で使える低めのいすを購入して各町に配布したり、ペットボトルのフタを集めて小学校の活動に協力しています。

## 友愛訪問 (毎年 3 月 1 日)

福祉学習事業の一環として、高浜中学校の一年生と民生委員・児童委員が独居高齢者のお宅を訪問したり集会所に集まったりして、ゲームや話をするなど交流を深める活動を支援しています。



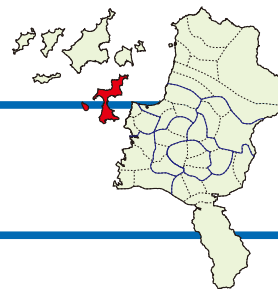
### <地区社協が目指すもの>

高浜地区は、松山観光港がある松山市の海の玄関口であり、また、夏目漱石の小説「坊っちゃん」に出てくる四十島（ターナー島）のある魅力あふれる地区です。しかし、最近では少子高齢化が進み、安心して住みよい高浜地区を目指すには新たな基盤整備を行う必要があります。高浜地区社協としても公民館・地区民協等の既存の諸団体、また、平成31年度から発足する「まちづくり協議会」との連携強化を図り、誰もが住みやすい地域を目指していきます。また、海の玄関口である地域として観光客にもいい印象をもってもらえる地域でありたいと思っています。

<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	16名 2名	■町内会・自治会・区長会等	16 団体
	■まち協の設立	平成 30 年度 (準)	■高齢クラブ	5 クラブ
			■子ども会	14 団体
			■自主防災組織	16 組織

平成 30 年 7 月の豪雨による被災の大きかった地区ですが、日頃の近所付き合い（声掛け）が人命を守り、減災につながりました。今後、災害時要援護者の把握等について、今回の災害を教訓とした、地区社協・民協と自主防災組織等との連携のあり方や仕組みづくりに取り組むことになっています。それを可能にするのが世代をこえた地区内のつながりの強さです。例えば福祉学習事業への支援では子どもたちが地域を身近に感じることができ、また、小学校のエコキャップ運動への協力では地域の支えを感じることができる体制を地区社協が整備していると考えられます。これらの活動が地区内における日常的な側面も含めたつながりの維持を支えているといえるでしょう。





ご ご し ま  
**興居島地区**

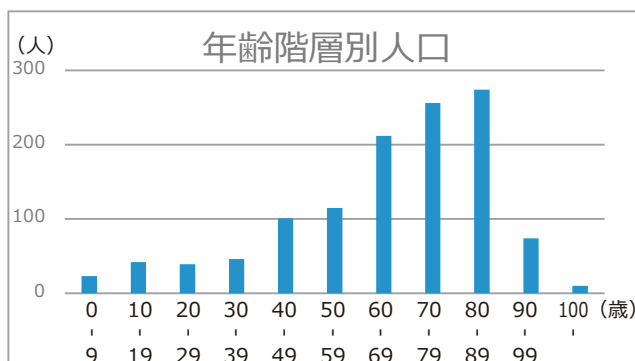
面 積 : 8.74km<sup>2</sup>  
人 口 : 1,187 人 (高齢化率 62.3%)  
世帯数 : 668 世帯

**【地区の特色】**

瀬戸内特有の温暖な気候、人情味溢れる住民、おいしい果物・魚介類など自然にめぐまれた地域である。最近は特に高齢化・少子化が進んでいる。大変歴史が古い地域で縄文式土器も出土されており、平安時代には無形文化財に指定されている「船踊り」も活発であったと記されている。また、神社、仏閣等、非常に古い時代に建立されており歴史の古さを物語っている。



無形文化財「船踊り」



**【地域住民からみた地域の状況】**

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の団結が強い</li> <li>・住民間でのつきあいがある</li> <li>・治安がいい ・人が優しい、温かい</li> <li>・子ども達からのあいさつが活発</li> <li>・海の幸、山の幸がある ・みかんがおいしい</li> <li>・自然が多い ・釣り人が来る</li> <li>・お試し移住施設（ハイムインゼルごごしま）がある</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通の便が悪い ・食堂がない</li> <li>・コミュニティの場がない</li> <li>・獣害（いのしし）</li> <li>・空き家が多い</li> <li>・農業をする若い世帯は通いで来ている（親と同居せずに住める住居があれば移住したい）</li> <li>・ふれあいタクシーの運転手が少ない（現在、車7台・運転手9名）</li> </ul>
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者のみの世帯、高齢者の独居世帯が多い</li> <li>・身寄りが無い人が多くなった</li> <li>・足腰が弱るとゴミ捨てや畑のある山に行けない</li> <li>・子ども、若者が少ない</li> <li>・公共の交通機関がない ・買い物や通院が不便</li> <li>・島外への病院（専門科）へ行きづらい</li> <li>・コミュニティの場がない</li> <li>・災害発生時の避難補助が必要</li> <li>・介護保険で利用できる事業所が少ない</li> </ul>

構成団体	地区民協・公民館・町内会・各町連絡会		
主な取り組み	活動内容		
福祉学習の推進	小・中学校と連携し、高齢者サロンと子どもの交流や清掃活動など福祉学習の推進をしています。		
各種団体への支援	島内で活動している様々な団体へ助成し、活動の支援を行っています。		
心配ごと相談	地区民協と連携して島内の高齢者宅を訪問し、生活上の心配ごとを聞いて、必要であれば地域包括支援センターに繋ぐなどの活動を行っています。		

**ふれあいタクシー（過疎地有償運送事業）**

島内には公共の交通機関がなく、移動手段のない住民を地域住民の手で支えるため福祉施設と連携して平成 27 年から「ふれあいタクシー」の運行を開始しました。現在、車 7 台、運転手 9 名で運行しており、買い物や通院などに年間延べ約 1,240 名の利用があります。



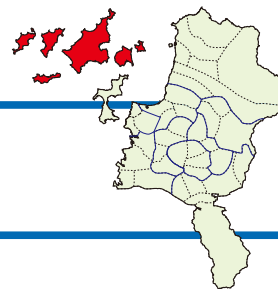
**<地区社協が目指すもの>**

現在、島内で運行する「ふれあいタクシー」について、5 年先を考えるとボランティア運転手の確保や利用会員の減少など課題があります。興居島地区にもまちづくり協議会が発足し、地区社協も役員として参画しているため、部会や他団体と連携し、興居島の島民のためにどうすればよいか話し合い、島民同士助け合いながら安心して暮らせる町づくりを目指していきたくて考えています。

地区の状況	■地区民協 民生委員 主任児童委員	12 名 2 名	■町内会・自治会・区長会等	9 団体
			■高齢クラブ	7 クラブ
			■子ども会	1 団体
	■まち協の設立	平成 29 年度	■自主防災組織	9 組織

離島により人口の減少が進むなかで、市街地では難しい日常的なつながりが世代間等関係なく形成されているお互いに顔のみえる関係が特徴です。島で暮らしていくためには住民同士助け合っていかなければならないという思いから、地区社協・地区民協が発起人となり、島内の福祉施設が主体となった「ふれあいタクシー（過疎地有償運送事業）」の運行を始め、地区社協として継続的な運営支援を行っています。高齢者サロンを高齢者のみの場とするのではなく、学校との連携による世代間交流や福祉教育の場としていたり、高齢者宅訪問も実際に福祉サービスにつなげているなど、一事業に複数の効果を持たせている活動は他地区の参考にもなっています。





なかしま

# 中島地区

面積：37.35 km<sup>2</sup>

人口：3,785人（高齢化率 65.4%）

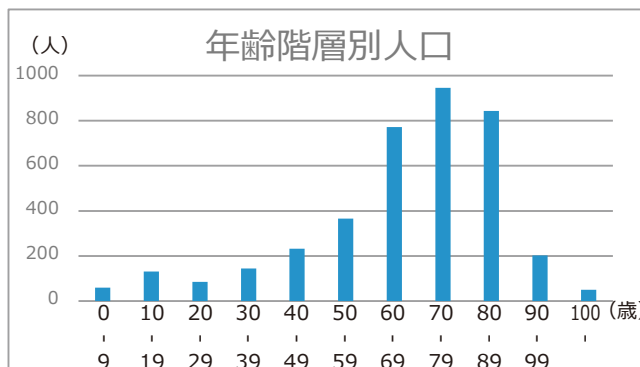
世帯数：2,150世帯

## 【地区の特色】

瀬戸内海の沖合いに浮かぶ中島は、6つの有人島と22の無人島から成っており、古くから忽那諸島と呼ばれ、豪族の忽那氏が瀬戸内海を舞台に活躍した栄華の名残りが今もなお跡をとどめている。温暖な気候と恵まれた自然があふれ、年間を通じて釣りが楽しめるほか、春にはみかんの花が咲き、夏にはトライアスロン大会や海水浴、秋には黄金色の実が甘い香りが島全体を包んでいる。



夏の風物詩 トライアスロン



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民が少数のため、災害時等の場合には協力体制は強い</li> <li>・住民がみんな顔見知り</li> <li>・隣組制度がある ・強い自治組織が確立されている</li> <li>・地区消防団員の活動が盛ん</li> <li>・グラウンドゴルフ、クロッカー、ゲートボールの活動が盛ん</li> <li>・伝統行事を守ろうとする意識が強い ・みかん、魚がおいしい</li> <li>・畑が借りやすい（移住者を呼び込みやすい） ・移住者が多い</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者が少ないため新しい行事、活動に取り組む意欲がない</li> <li>・島を盛り上げたいという一体感がない ・働く場所が無い</li> <li>・様々な組織の会長、リーダーの高齢化、後継者不足</li> <li>・民生委員・児童委員、見守り員による活動範囲の制限</li> <li>・高齢化率が高く、災害時の避難行動が不安 ・休耕地、耕作放棄地が多い</li> <li>・若者の結婚が少ない</li> <li>・隣組制度が崩れてきている</li> </ul>
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の数が多い ・女性の高齢者、一人暮らしをする人が増加</li> <li>・会長、リーダーの高齢化・後継者不足</li> <li>・跡取り、介護者不足</li> <li>・若者が住めるための産業がない</li> <li>・民生委員・児童委員、見守り員の高齢化により活動に制限がある</li> <li>・海のため、交通が不便</li> <li>・高齢者の行く場所がない ・島で最期を迎えられない</li> <li>・高齢者もしてもらっただけではなくできることをするという意識</li> </ul>



## 中島地区社会福祉協議会

広げよう 6つの島の 福祉の輪

<拠点> 松山市役所中島支所 2階 TEL: 089-997-1822 / FAX: 089-997-1833

<b>構成団体</b>	地区民協・公民館・総代会・支所・サロン代表・福祉施設・学識経験者 高齢クラブ連合会・食生活改善推進協議会・ボランティア代表・定住促進会・議員 PTA
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>
給食サービス	70歳以上の1人暮らしの高齢者・要援護世帯の方を対象に、春・秋・歳末に各地区民生委員が訪問しお弁当を配っています。
健康体操	1日でも長く自立した生活を送ることを目的とし、ストレッチと筋トレを行っています。毎週水曜日、参加費は無料です。
サロン事業	いきいきサロン3ヶ所、地域交流4ヶ所、地区社協独自6ヶ所の支援を継続して実施し、住民の交流の場の促進に努めています。

### 中島地区社会福祉大会

関係団体との連携を図りながら住み慣れた地域で誰もが安心して福祉サービスを利用し、個々の尊厳の保持と自分らしい生活を送ることができる地域社会づくりを推進することを目的として毎年開催しています。参加者の皆様の協力による「伊予柑1個運動」では、東日本大震災の復興支援をきっかけにつながりが続いている福島県郡山市へ毎年、伊予柑を送っています。



#### <地区社協が目指すもの>

中島地区では急速な少子高齢化や人口減少社会の到来、情報化社会の進展など私たちを取り巻く社会情勢が大きく変化し、地域コミュニティにおける人間関係が希薄となる中で、児童虐待、引きこもりや孤独死、さらには高齢者を狙った振り込め詐欺など大きな社会問題が顕在化しています。

そのため、「誰もが笑顔で安心して暮らすことが出来る福祉のまちづくり」を推進していくためには、色々な社会問題に対し私たち住民自らが主体的に支えあい「自分たちの住む地域は自分たちで守り創る」という住民意識の醸成と実践が何よりも重要と考えています。

<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	27名 2名	■町内会・自治会・区長会等	17団体
			■高齢クラブ	14クラブ
			■子ども会	0団体
	■まち協の設立	平成20年度	■自主防災組織	17組織

夏の風物詩となっている中島トライアスロンでは全国からのアスリートを受け入れ、島全体で盛り上げています。少子高齢化が進む中でこのようなイベントに限らず住民間による災害時の協力体制や地区消防団員の活発な活動など、皆が顔見知りだという点をいかした活動が特徴としてあげられます。特に地区社協による給食サービスやサロン事業は高齢者の孤立化を予防するとともに、人のつながりを維持する基盤になっているといえます。住民間のつながりをいかして、これからの福祉課題に対処する独自の取り組みへの転換が期待されています。

ココがポイント





し お み  
**潮見地区**

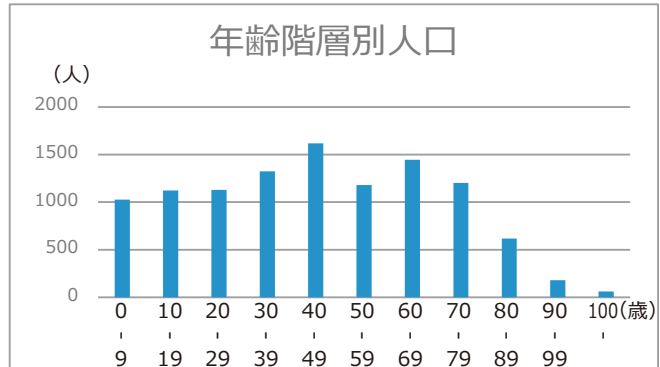
面積：6.73 km<sup>2</sup>  
人口：10,633人（高齢化率 25.6%）  
世帯数：4,772 世帯

**【地区の特色】**

「潮見」という地名は、その昔、この地方が台風かあるいは大地震のような天災に見舞われ、大津波がこの辺りまで押し寄せ、村人たちは山に駆け登って難を逃れ、日夜潮の動静を窺ったことに由来しているといわれており、地域には神社・仏閣・史跡など多く伝説や民話も数多く残っている。また「宮内伊予柑」の原産地であり、柑橘栽培の立地条件にも大変恵まれていて、昭和40年頃より全国に誇れる特産品の地場産業として大きな役割を果たしている。



世代間交流会の様子



**【地域住民からみた地域の状況】**

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古い地域への新しい世代の参加がスムーズ ・自然が豊か、大川沿いには野鳥が多い</li> <li>・高齢者の年齢が松山市平均と同じくらいである</li> <li>・伝統文化の継承ができています</li> <li>・生活関連施設に恵まれている ・学区区の人気が高く他地域からの転入も多い。</li> <li>・農家も多いが今後の継承もできている ・自転車で移動可能な範囲が広い</li> <li>・県営、市営住宅がある ・学社融合（小、中、公民館）</li> <li>・もちつきなど三世代交流の行事がある</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアへの参加が積極的でない（決して人情的に希薄という訳ではない）</li> <li>・地域活動に若者の参加が少ない</li> <li>・地域組織の役員になり手が少ない</li> <li>・勤労世代間の交流が少ない</li> <li>・一部交通の不便な地域、街灯の少ない危険な地域がある</li> <li>・下水道不整備なところがある</li> <li>・川の近くに災害時避難所がある</li> <li>・大雨時に浸水や、土砂崩れの恐れがある危険地域がある</li> </ul>
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各行事への参加が限られた人になりがちである</li> <li>・県営、市営団地内の情報把握が難しいことがある</li> <li>・独居高齢者の増加</li> <li>・高齢者の見守りや在宅医療の支援が困難</li> <li>・入居施設の不足</li> <li>・空き家問題</li> </ul>

## 潮見地区社会福祉協議会

しんせつでおもいやりあるみんなの潮見

<b>構成団体</b>	地区民協・公民館・支所・議会・高齢クラブ連合会・中学校・小学校 町内会・交通安全協会・日赤奉仕団・母子会・PTA・自主防災連合会	
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>	
高齢者が楽しめる 場づくり（各種大会）	地域の高齢者の方の楽しみ場の場づくりを目的に、各年1回ずつ潮見小学校グラウンドなどを活用し、グラウンドゴルフ・ペタンク・ゲートボール大会を主催しています。	
世代間交流会	親子三世代にわたっての交流を促進することを目的に、もちつきなどのイベントを開催しています。	
配食サービス	一人暮らし高齢者、高齢者世帯を対象に日赤奉仕団の方々と連携して、お弁当の配布を行っています。	

### 福祉のつどい

地区内に暮らしている独居高齢者を対象とした「福祉のつどい」を公民館で開催しています。大学の落語研究会による落語やゲームなど会場全体が楽しめる内容となっております。



### <地区社協が目指すもの>

潮見地区では平成 27 年 3 月に地域福祉活動計画を作成し、①地区社協の基盤整備 ②福祉学習とボランティア ③在宅福祉 ④関係団体との協働を基本に、住民の方々の主体的参加による活動を進めております。

目標テーマの「しんせつで、おもいやりある、みんなの潮見」を目指し、地域における人と人とのつながりを大切にして、互いに笑顔で声かけあい、助け合いの心にあふれる、住みよい潮見地区となるよう、より一層の協力・支え合いに取り組んでまいります。

<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	20 名 2 名	■町内会・自治会・区長会等	8 団体
	■まち協の設立	平成 24 年度	■高齢クラブ ■子ども会 ■自主防災組織	5 クラブ 15 団体 20 組織

本地区は、自然豊かな地理的条件に囲まれ、伝統文化・歴史的な史跡・神社等を守り続ける風土がある一方、転入者及び新しい世代が地域にとけ込みやすい受容的な地域性と複数世代が暮らしやすい風土を有しています。地区社協が積極的に取り組んでいるスポーツ競技での住民交流をはじめ、地区社協が地域の団体とともに進めている「様々な世代が地域活動に参加しやすい環境づくり」のさらなる進展が望まれます。また、豊かな自然は様々な恩恵を与えてくれる一方、災害時のリスクも懸念されるため、地域全体でその対応（組織づくりや社会資源の活用）が必要となるでしょう。





ひさえだ

# 久枝地区

面積：4.89 km<sup>2</sup>

人口：20,354 人（高齢化率 24.0%）

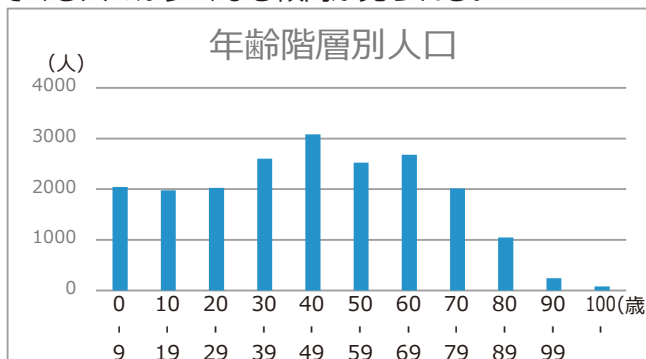
世帯数：9,189 世帯

## 【地区の特色】

久枝地区は、松山城の北西の方向にあり東西約 2km、南北約 4km の長方形のような形をしている。かつてはのどかな田園地帯であったが、市街化区域に指定されてからは南は住宅地域、北は農業地域、中央付近には工場が建ち並ぶように変貌してきた。バイパスや県道が縦横に走り、多くの企業をはじめ、学校・病院・マンションや住宅等が建ち並ぶ町となった。近年、人口が増え、交通の便も良くなってきたこともあって、居を求めてくる人々が多くなる傾向が見られる。



眼下の中央卸売市場



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校の登下校の見守りを地域の人が行っている</li> <li>・ 地区の行事が多い</li> <li>・ 良い意味で田舎であるが交通のアクセスは良い</li> <li>・ 良い人が多い ・ 子どもがよく挨拶をしてくれる</li> <li>・ 生活がしやすい</li> <li>・ 伝統文化を大切にしている</li> <li>・ 中央卸売市場がある</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新しい住民が地域の行事になかなか参加してくれない</li> <li>・ 久枝公民館がせまく、集会所には駐車場が少ない</li> <li>・ バスの本数が少ない</li> <li>・ 交通量が多い</li> <li>・ 久万川の水害が不安</li> <li>・ 空き家、休耕地や耕作放棄地が多い</li> <li>・ 街灯が少ない</li> </ul>
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 敬老会の時に高齢者の年齢制限があって参加できない</li> <li>・ 町内会に入る世帯が減っている ・ 子どもの減少</li> <li>・ 老々介護の増加</li> <li>・ 各団体の役員のなり手が少ない ・ 福祉を支える人が少なくなる</li> <li>・ 県道の交通量が多く危険 ・ ため池があり安全面の不安</li> <li>・ 空き家が増加している ・ 災害時の避難ルートの確保</li> <li>・ 久万川が汚れている</li> <li>・ イヌネコの糞害 ・ ゴミ置き場のカラス被害</li> </ul>



## 久枝地区社会福祉協議会

人いきいき 誰もが住みたい 久枝に

<b>構成団体</b>	地区民協・公民館・町内会連合会・まちづくり協議会・支所		
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>		
サロンの作品展示	公民館と連携し、地域の文化祭でふれあい・いきいきサロンで作られた手芸品等を展示しています。		
昔遊び集会 名人さんに学ぼう	地域住民が昔の遊びや名人芸などを伝え、小学生との交流の機会を図っています。また、児童館行事にも積極的に関わっています。		
独居高齢者訪問事業	地域内の一人暮らし高齢者を対象に日常生活の慰労を目的として地区民協と連携し、自宅を訪ねる活動を続けています。		

### 三世代交流もちつき

地域における福祉学習の一環として、毎年11月23日に地域内の多世代が交流できるイベントを実施しています。世代を超えたつながりを通じて、地元への愛着を高めてもらえればと継続した活動を行っております。



### <地区社協が目指すもの>

《城の西北 緑の丘に 名も久枝…》と小学校の校歌にも歌われてきた久枝地区です。都市化が進み、当時の田園風景を残しながらも住宅地区が増え、中央卸売市場を代表とする商業施設があり、小学校・中学校・高校・盲学校・児童館など教育施設も充実している街と自負しています。

そうした中、『人いきいき誰もが住みたい久枝に』を基本理念とし、何時でも気軽にお互いに声を掛け合い、おしゃべりをしたり助け合ったり、子ども達の成長を見守り、高齢者や弱者を気遣う、そのような久枝地区でありたいと願っています。

<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	28名 2名	■町内会・自治会・区長会等	14団体
	■まち協の設立	平成29年度	■高齢クラブ ■子ども会 ■自主防災組織	3クラブ 3団体 15組織

近年、交通条件の整備等に伴い企業の誘致や様々な公的・生活施設が増加し、人口の増加が認められる地域です。新たにこの地域で生活をはじめた人々と長年の生活の場にしてきた人々が一体となって子どもや地域全体を守っています。そうした中、地区社協では地域住民と子どもたちをつなぐ活動が積極的に進められており、今後は、複数世代間の連携の強化や、地域住民の力を活用できるような地域組織づくり、それを基盤とした地域の自然および環境の把握を進め、より安全・安心に暮らせるような地域をつくりあげることがさらに期待されます。





# わけ 和気地区

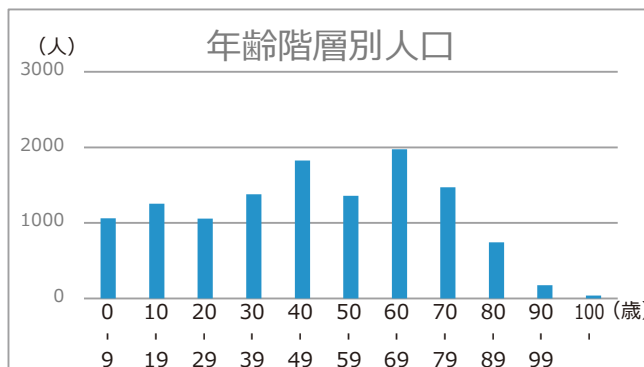
面積：7.09 km<sup>2</sup>  
人口：12,307人（高齢化率 28.7%）  
世帯数：5,512 世帯

## 【地区の特色】

和気地区は、松山市の北部に位置し、かつては農業と漁業を中心とした地域であったが、時代の都市化とともに、企業をはじめマンションや住宅等が凌ぎを削りあうように建ち並ぶ地域となった。また、他地域からの転居者も増加し、住民意識も変化しつつある。しかし、日頃から町内会や各種団体は相互の親睦や連携がとれており、地域一体となった様々な活動が展開されている。



独居老人安否確認パトロール出発式



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関（公民館、町内会連合会、地区民協、病院、警察等）との連携が取れている</li> <li>・和気公民館のリーダーシップ ・青パトによる安全パトロール（毎月 5,15,25 日）</li> <li>・小中学校、みなら特別支援学校城北分校の福祉活動への協力体制が整っている</li> <li>・お接待、グループホーム訪問、独居老人安否確認パトロール</li> <li>・地区社協と地区民協との協力（地区民協の会合に参加）</li> <li>・宿泊体験学習、ウォークラリー（三世代交流）</li> <li>・和気っ子安全パトロールによる安心安全のまちづくりが行われている</li> <li>・福祉施設が多くあり、秋祭りには神輿を迎え入れてくれる</li> <li>・海の日の大生大会（1200 人参加）による防災意識の強いまちづくり ・災害が少ない</li> <li>・地域の大きな行事が多く参加者も多い ・地域の団結力がある ・緑多き田園地域</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和気浜海岸が近いため、南海トラフ地震への不安が大きい</li> <li>・子ども会が減っている ・児童の親との親睦が少ない</li> <li>・仕事をしている世帯の地域行事への参加が少ない</li> <li>・福祉活動に携わる年齢が高い</li> <li>・地域のつながりの希薄化が現在進行中</li> <li>・田舎なので夜間の道が暗い</li> <li>・休耕地、耕作放棄地の増加</li> </ul>
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化により地域の負担が増大する</li> <li>・地区社協活動への理解</li> <li>・町内会で地域活動に温度差がある ・町内会の役員の引き受け手が少ない</li> <li>・現役世代の関わりが少ない ・興味のある行事にしか参加しない</li> <li>・一部、買い物や通院に不便な地域がある ・集いの場に行きたくても手段がない</li> <li>・隣近所の付き合いが希薄化しており、昔のような井戸端会議がなくなった</li> <li>・独居高齢者の把握が難しい ・公共交通の乗り物が少ない</li> </ul>

# 和気地区社会福祉協議会

安心・安全・笑顔<sup>わけ</sup>を和気よう！

<b>構成団体</b>	地区民協・町内会連合会・公民館・共同募金会・小学校・中学校・支所・農協
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>
独居老人安否確認 パトロール	一人暮らし高齢者を対象に、中学校の生徒が地域住民とともに高齢者宅を訪問し、高齢者の安否確認や地域での見守りの強化を図っています。
合同研修会	地区社協・地区民協、町内会連合会と連携を高めるため、毎年合同で研修会を実施しています。
放課後子ども教室への 協力・支援	地区社協の関係者が放課後子ども教室の支援を行っています。

## お接待

公民館と連携し、和気地区にある四国八十八ヶ所の札所「太山寺」から「圓明寺」に向かう道沿いに位置する和気公民館にて、毎月歩き遍路の人々をお接待でお迎えしています。

子どもたちによるお接待の日もあり、地区社協としても活動支援を行い地域での福祉学習を推進しています。



## <地区社協が目指すもの>

和気地区社協は、高齢者、子ども及び障がい者への福祉を3本柱とし、公民館・地区民協・町内会連合会との連携を密にして地域福祉の推進に取り組んでいます。

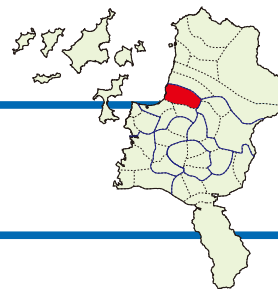
- |                       |                          |
|-----------------------|--------------------------|
| (1) 独居老人安否確認パトロール     | (2) お接待                  |
| (3) 放課後子ども教室への協力・支援   | (4) 合同研修会（社協・民児協・町内会連合会） |
| (5) みなら特別支援学校城北分校との交流 | (6) グループホーム訪問            |

以上の事業を中心に今後も地域住民の方が安心・安全に暮らせる和気地区を目指しています。

<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	21名 2名	■町内会・自治会・区長会等	22団体
	■まち協の設立	-	■高齢クラブ	7クラブ
			■子ども会	1団体
			■自主防災組織	26組織

本地区は、都市化など時代の波の影響を多く受けながらも、地区特有の「おせったい」の文化を生かし、地域住民と様々な機関が連携を取り合い、防災意識の向上や子どもたちへの福祉学習をはじめ、高齢・障がい・児童分野など活動が多岐に展開されており、現在、将来にわたり安全・安心に暮らせる地域づくりが進められています。今後は、その中で培われてきた「地域力」の維持または時代の変化に即した対応が望まれ、自然環境も含めたさらなる地域の社会資源把握、課題の抽出と対応が必要になると考えられますが、災害時にもその「地域力」が発揮できるような組織づくりがとても期待できます。





# ほりえ 堀江地区

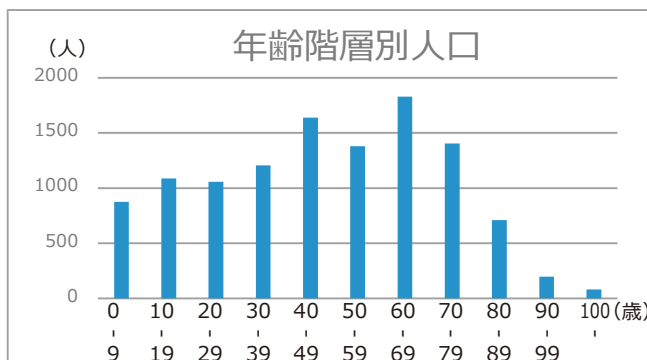
面積：12.91 km<sup>2</sup>  
 人口：11,391人（高齢化率 29.6%）  
 世帯数：5,274 世帯

## 【地区の特色】

堀江地区は、「おだやかな堀江湾に明美な瀬戸の風景、神霊と史跡の宿る山並や心もなごむ出で湯、ほのぼのとした人情とあつい血潮の流れる人里」である。北谷古墳からもうかがえるように、古代から村落的な社会共同体が形成され、生活が営まれていた。そして、海路の要所として海からの文化がいぶき、人々の心に刻まれていった。現在は、地域の自然や歴史、文化などを生かした個性のあるふるさとづくりが活発に行われている。



まつやま・ほりえ海の駅「うみてらす」



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区コミュニティ会議の充実</li> <li>・公民館と小学校の学社融合がしっかりしている（かかし作り、しめなわ作り、国道の清掃活動） ・サロン活動が充実している</li> <li>・愛媛マラソン時の事前清掃活動、小学生の希望者がカレー作りで応援</li> <li>・高齢者クラブの活動が熱心（男性料理教室）</li> <li>・医療機関の充実 ・スポーツの街 ・海、山があり、空気がきれい</li> <li>・自主防災活動の充実 ・中学校への地域の対応</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会の中には各行事の実施にあたり横の連携が不足しているところもある</li> <li>・各団体の役員のなり手がいない、新しい加入者も少ない （高齢クラブでは会長のなり手がいないため休会となるケースが出ている）</li> <li>・交通の便が悪く生活に不便な地域がある</li> <li>・坂が多い</li> <li>・海が近いので、災害に不安（海拔0メートルの所がある）</li> </ul>
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会がない集合住宅地ができた（約 150 世帯）</li> <li>・災害援助活動について、自主防災組織、地区民協、消防との連携が必要</li> <li>・各団体の役員のなり手が少ない ・消防団員の確保が難しい ・空き家が増えてきた</li> <li>・独居高齢者の増加、若い夫婦・子どもの減少</li> <li>・新しい住人を地区の行事に迎え入れる方法を検討する必要がある</li> <li>・大きな障がい者施設の現状が把握できない</li> <li>・元気な高齢者が活躍できる場が必要</li> <li>・海の近くに福祉施設があり災害時心配 ・昔の川の氾濫を忘れて防災の意識が低い</li> </ul>



## 堀江地区社会福祉協議会

<b>構成団体</b>	地区民協・公民館・高齢クラブ連合会・議会・中学校・小学校・PTA 郵便局・農協・消防分団・支所・交通安全協会・母子福祉会・教育会・遺族会 区長会・駐在所
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>
独居高齢者 権現温泉招待	一人暮らしの高齢者を権現温泉へ招待し親睦を図っています。
学校における 福祉学習の支援	地区内の小・中学校と連携し、地域の美化、海岸の清掃活動、共同募金の街頭募金への様々な社会体験を提供できるよう支援しています。
地区社協会費制度	堀江地区社協は地区社協会費制度を導入しており、貴重な福祉事業の財源となっています。町内会と連携することで福祉活動への理解の拡大に努めています。

### 手作り作品展

まちづくり協議会や公民館と連携し、サロンや介護施設・障がい者施設で作られた製作物の展示会を行っています。

地域の民生委員・児童委員さんによるお茶のおせったいもあり、展示作品を見ながらの交流の場になっています。



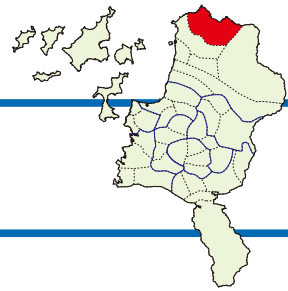
### <地区社協が目指すもの>

地区の高齢クラブとの交流、グラウンドゴルフや小・中学校との交流、美化活動、道路のゴミ集め、公民館やコミュニティ会議との連携活動、歩こう会、遺跡めぐり、うみてらすの活動のほか、自主防災会との訓練等に積極的に参加協力し、地区内の各団体や機関との連携強化を図るとともに、福祉活動を通じて住み慣れた地域で堀江地区の住民の皆さんが安心して生活できるようなまちづくりを目指します。

<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	17名 2名	■町内会・自治会・区長会等	20団体
	■まち協の設立	平成18年度	■高齢クラブ ■子ども会 ■自主防災組織	7クラブ 4団体 24組織

長い伝統と豊かな自然を有した本地区は、各構成団体と地区社協が連携し、地域に根ざした様々な活動を行ってきた経緯があり、その中で、本地区固有の「地域力」を高めてきました。一方、時代の流れと共に地域を構成する世帯の変動もあり、今後はこれまで培った「地域力」を基盤に、地区内の関係団体と連携し、複数の世代間の理解促進と、各世代の生活スタイルを考慮した地域活動を担える組織づくりが期待されるでしょう。また、高齢者・障がい者等の福祉施設も多い地区でもあることから、災害時においても全ての世代を守るための新たな組織づくりや既存の社会資源の活用についても期待します。





あさなみ  
**浅海地区**

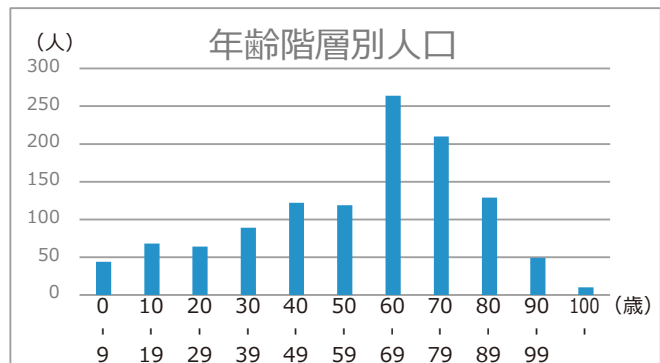
面積：9.04km<sup>2</sup>  
人口：1,162人（高齢化率 48.2%）  
世帯数：551世帯

**【地区の特色】**

松山市の最北端に位置し、国道 196 号線に沿っている。東南に恵良山、西に腰折山、新城山、北に名石山、千波ヶ嶽と三方を山に囲まれているが、しまなみ海道の開通でより交通量が増加した。最近の生活様式の多様化により兼業農家に移行しつつあり、かんきつ地帯として将来発展の道をたどる地区である。また、地区住民の協調的な意識は盛んであり、人情も細やかで各種社会教育的な行事に参加しようとする気風も高まりつつある。



ふるさと夏祭り



**【地域住民からみた地域の状況】**

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事（運動会、まつり等）に多数の人が参加する</li> <li>・知り合いが多い</li> <li>・自然がある（海、山） ・コスモス畑</li> <li>・遍路道、遍路宿がある ・神社 ・あさなみマルシェの実施</li> <li>・J A ・郵便局 ・国道 1 9 6 号線沿いに位置している</li> <li>・公民館、保育園、小学校教員など地域の各種団体との繋がりが強い</li> <li>・近隣住民間での共助の風習がある（見守り）</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関がない</li> <li>・スーパー、コンビニがない</li> <li>・交通の便が悪い（バスは通っているが停まらない）</li> <li>・空き家の増加 ・少子化 ・農業の後継者が少ない</li> <li>・地区外の人がゴミを捨てる ・ゴミ収集場所が遠い</li> </ul>
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパーやコンビニがなく買い物に不便</li> <li>・医療機関がない</li> <li>・高齢者のゴミ出し</li> <li>・交通の便が悪い</li> <li>・各種団体の後継者不足</li> <li>・高齢者の増加による災害時の援護等の不安</li> </ul>

## 浅海地区社会福祉協議会

思いやり・温もり・感動・笑顔の浅海

<b>構成団体</b>	地区民協・公民館・分館・日赤奉仕団・保護司会・小学校・保育園・PTA・消防団 高齢クラブ・区長・交通安全協会・みまもり員		
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>		
福祉だよりの発行	年1回作成し、地域福祉に関する情報を発信するために全戸配布しています。		
男性料理教室	男性高齢者の健康と生きがいのために毎年開催しています。		
独居高齢者給食サービス	地区内の独居高齢者を対象に、年間を通じて配布しています。		

### 三世代もちつき大会（公民館事業への協力）

毎年、公民館行事として開催されていますが、地区社協をはじめとする地区内の団体や小学校が連携協力しながら、子どもから高齢者までの多くの人に参加し、伝統文化の伝承と交流が図られています。



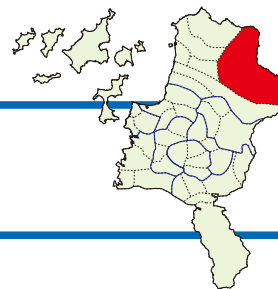
#### <地区社協が目指すもの>

高齢社会をむかえ、浅海地区でも住民の半数近くが65歳以上となり、高齢者のふれあいの場づくりのためのふれあい・いきいきサロンや各種団体会員の高齢化による会員数の減少に伴い、活動の弱体化が課題となっています。お年寄りや子どもにやさしい地域づくりを目指して、誰もが積極的に参加できる「ふれあいの場」づくりの拡充を推進し、男性料理教室や介護予防教室の開催、公民館や小学校行事など各種催し物に積極的な協力を通じて世代間の交流を進めます。

<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	5名 2名	■町内会・自治会・区長会等	9団体
	■まち協の設立	平成28年度	■高齢クラブ ■子ども会 ■自主防災組織	2クラブ 0団体 3組織

スーパーやコンビニがなく不便という地域の課題に対し「買い物をする場所を自分たちで作ろう」とまちづくり協議会を中心に「あさなみマルシェ」を開催するなど創意工夫する力とネットワークを築く力を持ち合わせた地区と言えるでしょう。また、古くから伝わる行事には家族全員が役割を担い参加する、子どもは地域みんなで見守るという体制づくりなど、自助・互助・共助の実践が地区住民の暮らしを支えています。最近では、国立社会保障・人口問題研究所（2017）の調査結果などから高齢者、特に男性の社会的孤立化が問題視されていますが、「男性料理教室」を開催するなど様々な交流の場と機会を設け子どもから高齢者まで安心した生活環境づくりに努めています。





たていわ

# 立岩地区

面積：34.22 km<sup>2</sup>

人口：867人（高齢化率 57.0%）

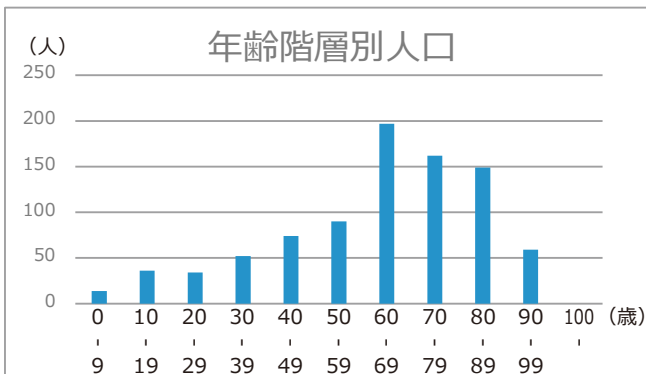
世帯数：461 世帯

## 【地区の特色】

高縄山の北側、立岩川流域の18地区からなる立岩地域は、豊かな自然に囲まれた山間ののどかな山村地域である。子どもから高齢者まで地域住民全員参加の運動会、文化祭、スポーツレクリエーション、交流活動等が多数開催され、毎年5月には山一面につつじの花が咲き誇る貫之山を地域のシンボルとして守り育てている。



立岩つつじまつり



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少人数のため、各家庭の状況を皆が把握している</li> <li>・ 区長会が機能している（町内行事参加率約 98%）</li> <li>・ 公民館の活動が活発→区長会が協力</li> <li>・ 地区内の関係団体等の連携がとりやすい</li> <li>・ 自然が豊か</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人口減少、高齢化傾向が顕著</li> <li>・ 高齢化率約 60% 若者が少なく諸行事が負担になる</li> <li>・ 子どもが減り後継者がなく、獅子舞をやめた</li> <li>・ 救急車が入りにくい道路がある</li> <li>・ 働く場所がない</li> <li>・ 自然が多く、災害の危険がある（地すべり、傾斜が多い）</li> </ul>
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気軽に集まれる場所がない</li> <li>・ バスの本数も少なく、バス停までも遠い</li> <li>・ 自然災害時の危険箇所の不安</li> <li>・ 車が運転できないと病院に行けない</li> <li>・ 道幅が狭く、緊急車両が通れない場所がある</li> <li>・ 子どもが少なく、行事ができない、若手不足で負担が大きい</li> <li>・ 集会所のトイレが和式で利用しづらい</li> </ul>



## 立岩地区社会福祉協議会

<b>構成団体</b>	地区民協・公民館運営審議会・公民館・福祉施設・高齢クラブ・日赤奉仕団・小学校 青少年健全育成会・PTA・スポーツ少年団・JA えひめ・交通安全協会・学識経験者	
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>	
福祉だよりの発行	年1回作成し、地域福祉に関する情報を発信するために全戸配布しています。	
給食サービス (花垣弁当)	独居・寝たきり高齢者の希望者に対し、安否確認をかねて弁当とおやつを配っています。※紀貫之来遊伝説より立岩地区を「花垣の里」といわれたことから「花垣弁当」と名づけられました。	
小学校との交流	小学生と地域住民が小学校の校舎や校庭の清掃活動を一緒に行っています。	

### いきいき健康教室

概ね3ヶ月毎に地域内の福祉施設等にご協力をいただき、健康に関する講座や調理から行う栄養教室、身体を実際に動かしての体操教室を開催しています。



### <地区社協が目指すもの>

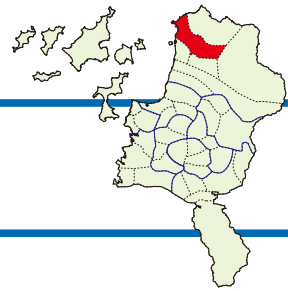
立岩地区は、松山市の中心地からもっとも遠い中山間地域です。今後は、ますます少子高齢化が進むことが予測されており不安な課題もありますが、ふるさとを大切にする住民の熱意と結束はとて強い地域です。

こうした地域性を活かして、住民参加の運動会、文化祭や5月のつつじ祭りなど交流活動の機会を通じて、助けあい精神を育む地域づくりを目指していきます。

<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	5名 2名	■町内会・自治会・区長会等	18団体
	■まち協の設立	平成30年度	■高齢クラブ ■子ども会 ■自主防災組織	3クラブ 0団体 12組織

中山間地域で人口が少なく住民の高齢化が顕著ではあるが、豊かな自然を活かして産官学連携による地域活動が盛んな地区でもあります。子どもたちの食育や農業体験学習を目指した「立岩ダッシュ村」をはじめ、夏祭りやつつじ祭りなど地域行事が多く最近では、このような恵まれた自然環境の中で子育てを望む子育て世代の住民も散見されます。地区住民が持つ助け合いの精神は、買い物、通院通学の手助け、高齢者世帯への声かけなど普段の暮らしから培われた地域力と、公的サービスや移動スーパー等の企業によるサービスをうまく組み合わせながら地域住民のより良い暮らしが継続されており、今後も社会資源を活用しながら地域力のさらなる強化を期待します。





# なんば 難波地区

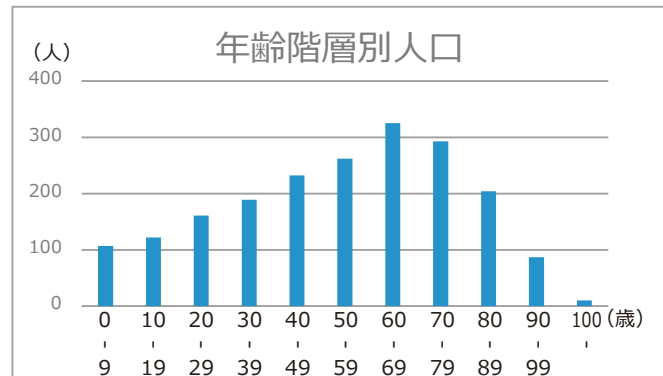
面積：9.44km<sup>2</sup>  
人口：1,986人（高齢化率 38.2%）  
世帯数：931世帯

## 【地区の特色】

難波地区は、高縄山系から北側に連なる恵良山や国の天然記念物えひめあやめの自生する腰折山の麓と瀬戸内に面した豊かな自然に包まれ、伝統ある歴史・文化が継承されてきたのどかな農山村地域である。難波に住んで良かったとお互いが思える街づくりを目指し、地域住民のコミュニケーションづくりを展開している。



風早火事祭り



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者に対する気遣いがある</li> <li>・ゲートボールやグラウンドゴルフを楽しみにしている</li> <li>・高齢者や障がい者施設がある ・障がい者施設のまつり（北条育成園）がある</li> <li>・自然に恵まれている</li> <li>・同居世帯が多い ・買い物バスがある</li> <li>・公民館活動が盛んで公民館、学校、地域が連携している</li> <li>・町内会行事への参加が多い ・難波子ども教室で子どもを見守っている</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが増えない ・スーパー、コンビニ、銀行がない</li> <li>・空き家が増えてきた ・交通の便が悪い</li> <li>・津波の心配がある ・土砂災害警戒区域が多い</li> <li>・独居高齢者が多い ・高齢者が遊ぶところ、機会が少ない</li> <li>・独居高齢者の見守りが大変（対象者が増加）</li> <li>・町内の役の担い手がない（人手不足） ・イノシシの被害がある</li> </ul>
福祉課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通の便が悪い</li> <li>・高齢者の集いの場が少ない</li> <li>・土砂災害警戒区域が多い</li> <li>・各種団体の後継者不足</li> <li>・独居高齢者の増加している</li> <li>・買い物困難者が多い</li> </ul>

## 難波地区社会福祉協議会

ささえあい 思いやりが育つさと 難波

<b>構成団体</b>	地区民協・公民館・区長会・公民館運営審議会・交通安全協会 青少年健全育成協議会・保育園・高齢クラブ・JA えひめ・小学校・サロン代表者 独居高齢者みまもり員・PTA・高齢者施設・包括支援センター
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>
いじめや差別のない地域の推進（人権啓発）	難波地区内でいじめや言われなき差別がなくなるよう、小学校・公民館と共に協力して推進しています。
独居並びに寝たきり高齢者及び高齢者介護施設等訪問	独居高齢者や寝たきり高齢者、難波地区に住んでいた方が入所している施設を訪問し、花束等を贈ると共に近況報告や交流を図っています。
福祉だよりの発行	年3回作成し、全戸配布。地域福祉に関する身近な情報を発信しています。

### 笑顔でいきいき健康教室

地域住民を対象にいきいきとした生活が送れるよう、日頃の食事の大切さや偏らない食事の方法等栄養について学んだり、レクリエーションを通じて運動の大切さ、認知症を予防するための脳トレ等の体験をする等皆で楽しく行っています。



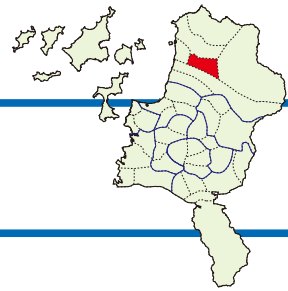
### <地区社協が目指すもの>

難波地区は、海・山・川・田畑に囲まれた環境の中、地域の公民館活動を基盤として地域内の交流が保たれ、少子高齢化が進む中においてもお互いに助け合う穏やかな地区である。また社会福祉関係の施設(保育園、知的障がい者施設、高齢者介護施設等)も充実しており、身近な場所で相談ができ、安心して暮らせる地区でもあります。地域内には道の駅「ふわり」があり高齢者が地元生鮮食料品を出荷する等、生きがいに励んでおり、今後は地元スポーツセンター等と連携したスポーツや健康教室等を通して元気でいきいきと安心して暮らせる地区を目指します。

<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	5名 2名	■町内会・自治会・区長会等	5団体
	■まち協の設立	—	■高齢クラブ ■子ども会 ■自主防災組織	4クラブ 0団体 6組織

高齢者世帯の中でも特に高齢者の単身世帯が増加している地区ですが、「道の駅ふわり」販売所やスポーツ施設の充実もあり幅広い年齢層が集まり、心と身体の健康づくり・生きがいに繋がる活動が盛んな地区でもあります。また、地区社協が中心となって地域の福祉施設職員を講師として招き住民向け健康講座を開催するなど地区の社会資源を有効活用しながら自分たちの快適な空間づくりに努めています。普段の暮らしの中にある地域住民の健康習慣や住民相互の助け合い、そして福祉関係施設や医療機関、行政機関との官民一体となった地域福祉活動はこれからも住民の暮らしの豊かさ、そして防災・減災活動の充実にも反映されることでしょう。





まさおか  
**正岡地区**

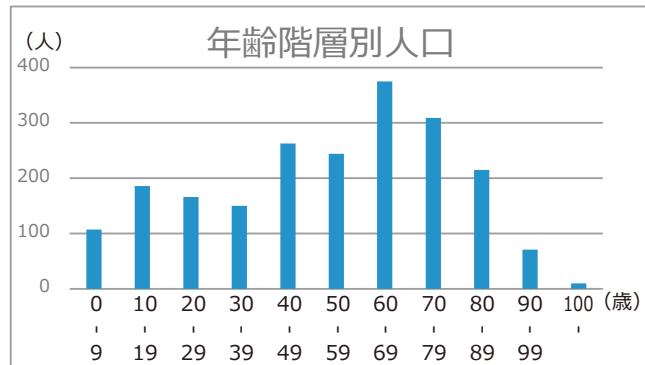
面積：6.52km<sup>2</sup>  
人口：2,093人（高齢化率 39.0%）  
世帯数：942世帯

**【地区の特色】**

正岡地区は、「風早の火事まつり」と異名をとる国津比古命神社の「みこし落とし」が開催される地域である。古くから自然環境にも恵まれ農業（現在は果樹産業）が盛んであり、各地区には農耕生活の心情を表した伝統芸能「獅子舞」や祭礼や、縁日の余興として盛況を極めた農村娯楽「伊予万歳」が盛んである。



国津比古命神社・櫛玉比売命神社



**【地域住民からみた地域の状況】**

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のつながりが強い</li> <li>・子育ての施設は多い</li> <li>・祭りが盛ん</li> <li>・地区内に大学がある</li> <li>・愛護班が6つあり熱心に活動している</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化が進んでいる</li> <li>・独居、高齢夫婦（現在 90 才でも 5 年後には 95 才）が多い</li> <li>・独居男性も多い</li> <li>・過疎化が進んでいる</li> <li>・スーパーが近くにない（歩いて行けるような）</li> <li>・バス、駅（JR）に遠い ・きょうだい、子どもが遠方にいる</li> <li>・病院に行く手段がない</li> </ul>
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・買物難民（高齢者が歩いて行ける距離にない）</li> <li>・独居高齢者、高齢者世帯の今後の不安</li> <li>・独身者男性が多く、今後独居高齢者増に繋がる不安</li> <li>・家族（きょうだい、子ども）が遠方にいる</li> <li>・若い世帯、子どもが増えない</li> <li>・病院に行く手段がない</li> <li>・各種団体の高齢化、後継者不足</li> </ul>



<b>構成団体</b>	地区民協・学識経験者・高齢クラブ・人権擁護委員・公民館・福祉施設・消防分団 交通安全協会・青少年健全育成協議会・小学校・PTA・日赤奉仕団・JA 女性部
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>
児童福祉事業	新入学児童へ通学安全対策資材（反射材）の配布をしています。
給食サービス	独居高齢者、寝たきり高齢者、ひとり親家庭等へお弁当等を配布しています。
高齢者講座	地域の高齢者を対象に健康等に関する講座を開催しています。

**地域交流サロン「くにつチャイルドクラブ」**

未就学児を対象に毎月1回程度、公民館でサロンを開催し、地域の子育て家庭の保護者や子どもたちの支援をしています。

年に数回は小学校の振替休日にあわせ、小学生と花壇づくりや七夕飾りの作成をする活動をおこなっています。



**<地区社協が目指すもの>**

福祉学習事業を推進し、誰もが幸せを感じ安心して暮らせるよう、ふれ合い支え合うまちづくりを目指します。

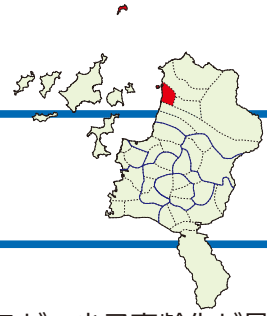
《特に充実させたい事業》

- ・健康、交通安全、防災など地域住民交流学习
- ・独居高齢者、在宅寝たきり高齢者訪問など高齢者見守り活動
- ・小学校を対象とした福祉体験学習と地域住民との交流

<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	5名 2名	■町内会・自治会・区長会等	6団体
	■まち協の設立	平成23年度	■高齢クラブ ■子ども会 ■自主防災組織	4クラブ 0団体 6組織

地区内に保育園をはじめ小中学校、大学があり日頃から地域行事への参加や子育て支援、福祉施設への訪問など各世代一貫して地域の福祉活動を体験し次の世代に繋げていく仕組みづくりを築いているのが特色の一つです。また、少子高齢化の影響を受け高齢者の単身世帯、特に男性の世帯数が増加傾向にある中、彼らの社会的孤立化が現在、社会問題となっています。正岡地区では年間通して祭りや地域行事が多く自宅や職場ではない第3の「くつろぎの場」として祭りに関わるコミュニティの形成が今後、彼らの社会的孤立化を防ぐとともにさらなる地域活性化への原動力となることが期待できるでしょう。





ほうじょう

# 北条地区

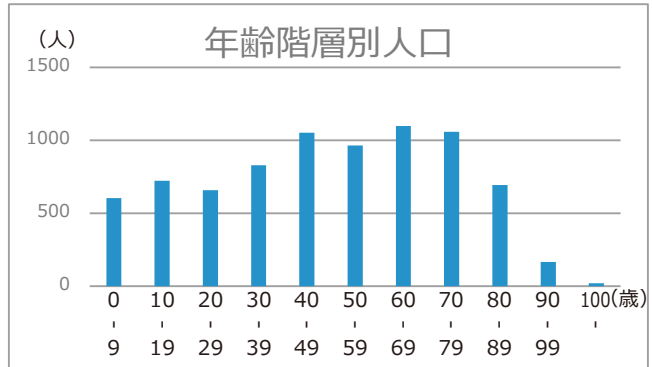
面積：2.64 km<sup>2</sup>  
 人口：7,853人（高齢化率 32.7%）  
 世帯数：3,686世帯

## 【地区の特色】

北条地区は、松山市の北部、旧北条市内の中心に位置し人口が密集しているが、少子高齢化が見られ人口減少傾向にある。町内会では住民の団結力が強く、伝統的行事には一致協力している。地区内には鹿島があり、北条の顔といえる周囲 1.5km の小島である。10月中旬には北条港で県無形文化財の櫓練り（かいねり）、明星川にみこしを投げ込む「みこしみそぎ」が有名である。



ふるさと夏祭り



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民のつながりが比較的強い</li> <li>・医者が親切（夜中・休日でも対応可）</li> <li>・支所や各種施設があり、日常生活で困ることはない</li> <li>・JRの駅がある（特急が停まる） ・教育文化が充実 ・災害が少ない ・物価が安い</li> <li>・お魚が美味しい ・農作物のお裾分けがある ・三世代の交流ができています</li> <li>・公民館活動が活発</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の増加 ・子どもが少ない ・特急（JR）が止まる便が減少</li> <li>・郵便局が遠い</li> <li>・空き家、空き店舗が多い</li> <li>・避難所が少ない</li> <li>・生活道路に緊急車両が入らない</li> <li>・公園が少ない ・就労場所が少ない ・工場がない</li> <li>・猫が多い</li> </ul>
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口の減少 ・人口の高齢化 ・世帯数の減少 ・高齢者世帯の増加</li> <li>・収入の増加が見られない</li> <li>・就労場所が近くにない</li> <li>・高齢者施設の定員数が少ない（将来いっぱいに入所できないかも）</li> <li>・産婦人科がない ・総合病院がない ・入院できる病院が少ない</li> </ul>

# 北条地区社会福祉協議会

瀬戸の風 心和らぐ風早の里 鹿島

<拠点> 松山市北条辻 810-2 TEL : 089-992-5080

<b>構成団体</b>	地区民協・日赤奉仕団・区長会・小学校・公民館・PTA・高齢クラブ サロン代表・交通安全協会・ボランティアグループ	
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>	
福祉だよりの発行	年2回作成し、地域福祉に関する情報を発信するために全戸配布しています。	
高齢単身者給食サービス	年4回、地区内の高齢単身者へお弁当を配達しています。	
地区内行事への出店	地区内で開催される行事において、うどんやいなり寿司などを販売しながら地域住民との交流を深めています。	

## 北条小学校児童との交流

毎年、地区社協メンバーが北条小学校4年生とグラウンドゴルフ、1年生と昔から伝わる遊びとして、こま回しや竹馬、おはじき、あやとりなどを通して交流を図っています。



### <地区社協が目指すもの>

当地区社協事務所は、平成19年5月に空き店舗を改装して基幹型サロン「おもてなし明星」と一体となって開設されました。当地区は市街化区域にあって高齢化率も32.7%となっていますが5年後には35%を超えることが予測され、超高齢社会への対応が課題である。住民の心にゆとりができ、社会参加が活性化できるようサロン活動の更なる充実を目指す。会員の増員やリーダーの育成に努め、人と人とのふれあいを通じ、生きがいきづくり、仲間づくりの輪を広げていきたいと考えています。

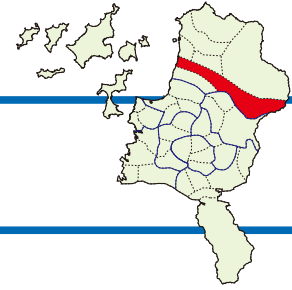
<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	17名 2名	■町内会・自治会・区長会等	28団体
	■まち協の設立	平成22年度	■高齢クラブ ■子ども会 ■自主防災組織	2クラブ 0団体 24組織

幼稚園から大学まで教育機関も整い医療機関、福祉施設、松山市役所支所など日々の暮らしに便利な地区です。旧北条市の中心街に位置する場所には、地区社協の拠点として「おもてなしサロン」があり、地域住民だれもが集える場として開放し、お遍路さんの休憩所にもなっています。最近では空き店舗や空き家に若い経営者や子育て世代が入り、若者が集う場所も散見されるようになりました。地域の文化・風土を守りつつ新旧の住民が協力して、地区の活性化のため話し合い創意工夫することが福祉ニーズの早期発見と解決に繋がる第一歩と言えるでしょう。



# この河野地区

面積：27.05km<sup>2</sup>  
 人口：5,690人（高齢化率 33.4%）  
 世帯数：2,475世帯



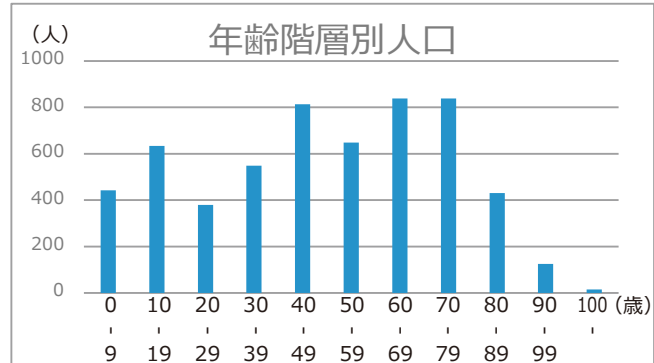
## 【地区の特色】

かつて風早郡の中心であった中世伊予の支配者河野氏発祥の地域。豊かな伝統文化と風土に恵まれ、住民は質実剛健の気質、公民館行事にも積極的で知られる。

地域の中で心のふれあいを大切に、潤いある明るく住みよいふるさと河野づくりをめざしている。



雄甲山・雌甲山



## 【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内の「文化の森」には図書館、児童センター、保健センター、市社協北条支所、包括支援センター北条、公園などがあり便利</li> <li>・公共の施設が充実 ・自然が豊か（虫） ・気候が温暖</li> <li>・住民同士の横のつながりが強い</li> <li>・おもしろい人が多い ・オオキトンボの生息地 ・病院の充実 ・穏やかな人間性</li> <li>・環境がよい ・住みやすい ・介護施設の充実 ・中江藤樹（ゆかりの地）</li> <li>・高浜虚子（俳人） ・仙波花叟（俳人） ・別府遺跡</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化率が高い ・空き家増加 ・独身者増加</li> <li>・老々介護の増加 ・高齢世帯の増加 ・役員の高齢化 ・後継者不足</li> <li>・人口減少で地域の格差大</li> <li>・高齢クラブ役員の担い手がなく、連合会の維持に苦慮している</li> <li>・動物による作物被害</li> </ul>
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種団体役員の高齢化、後継者不足</li> <li>・高齢者世帯、老々介護世帯の増加</li> <li>・空き家の増加</li> <li>・地域行事への参加者が限られている</li> <li>・独身者が多く、今後独居高齢者になる恐れがある</li> <li>・サロン活動の運営、継続が困難</li> </ul>



## 河野地区社会福祉協議会

ささえ合う雄甲・雌甲の愛の里

構成団体	地区民協・区長会・女性団体連合会・小学校・中学校・PTA・保育会・高齢クラブ JA えひめ・公民館・交通安全協会・議員
主な取り組み	活動内容
給食サービス	70 歳以上の独居高齢者、寝たきり高齢者宅へ年 3 回お弁当を届けています。
ふれあい グラウンドゴルフ大会	毎年 110 名を超える 60 歳以上の地区住民が参加し盛大に行われています。
サロン研修会	サロン活動の活性化に繋がるように毎年、講師を迎え開催しています。

### 敬老訪問（小学生の作文と一緒に）（9 月頃）

年 3 回ある給食サービスのうち、敬老の日にはお弁当にいりこやお菓子、河野小学校児童の手紙を添えて配っています。

毎年、児童へお礼の手紙をくださる方もおり、大変喜んでいただいています。



### <地区社協が目指すもの>

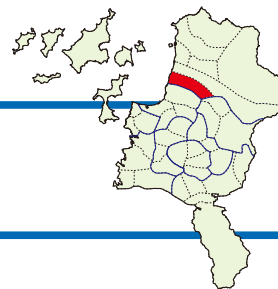
少子高齢化が進み地域コミュニティの希薄化が心配されていますが、誰もが住み慣れた地域で生きがいを持ち、安心して暮らせる温もりのある地域社会を作り上げていくためにも地域住民との連携により地域福祉向上に貢献する必要があります。啓発活動として各種サロン活動の充実及び支援や福祉サービスとしての給食サービス（年 3 回）を継続していきます。また、ボランティア団体等との連携、さらに今後はまちづくり協議会とも連携することで災害時の緊急支援にも取り組んでいきたいと思ひます。

地区の状況	■地区民協 民生委員 主任児童委員	9 名 2 名	■町内会・自治会・区長会等	15 団体
	■まち協の設立	—	■高齢クラブ ■子ども会 ■自主防災組織	4 クラブ 0 団体 14 組織

愛媛マラソンの折り返し地点となる地域でもあり、住民総出で応援する姿が印象的な地域です。地区内ある「文化の森公園」内には、市社協北条支所をはじめ、児童センター・保健センター・地域包括支援センター等の福祉・医療関係の機関が設置されており、地域の福祉課題解決に向けて関係機関が連携し迅速な対応を可能とする環境にあります。これらの充実した社会資源は、子どもから高齢者まで幅広い世代の暮らしを支えるとともに特に高齢者層には給食サービスやサロン活動等を通して社会参加の促進と生きがいづくりの機会を提供しています。

ココが  
ポイント





あわい  
**粟井地区**

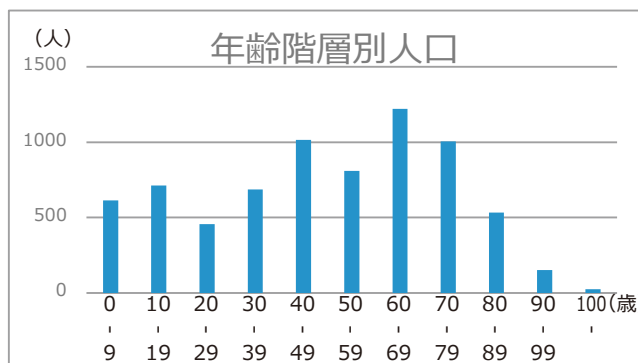
面積：13.22km<sup>2</sup>  
人口：7,210人（高齢化率 33.4%）  
世帯数：3,108世帯

**【地区の特色】**

粟井地区は、農村地域と団地新興住宅地域の存在する地区であり、主に東部南部を中心に農業が営まれており、新興地域は市内への通勤者が多くを占めている。地区内には23地区の集会所があり、互いの連帯が図られた活動を通し地域づくりを推進している。



粟井地区の風景



**【地域住民からみた地域の状況】**

地区の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て支援が充実 ・各種団体と地域の連携がうまくできている</li> <li>登下校の見守りがある（ボランティア） ・児童クラブと放課後子ども教室がある</li> <li>ふれあいマーケット&amp;スマイルタウン ・ゲートボールやグラウンドゴルフが盛ん</li> <li>地域のボランティアで山（宅並山）の管理をしている ・小中学生が挨拶をよくする</li> <li>公民館でのサークル活動や地区行事などの活動が盛ん ・災害が少ない</li> <li>サロン（ふれあいいいきサロン、地域交流サロン、子育てサロン）がある</li> <li>障がい者の働く場所がある（かなさんどう） ・自然（山、海）が豊かで静かな地域</li> </ul>
地区の弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害発生時、避難時の人手に不安あり</li> <li>役員の継続率が悪い</li> <li>近くにスーパーやコンビニがない所が多い</li> <li>地域活動に若年層の参加が少ない</li> </ul>
福祉課題 地域が抱える	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者世帯の増加</li> <li>ゴミ出しや買物困難者が増えている</li> <li>地域行事等の参加者が固定化しているため、地域の絆が希薄になっている</li> </ul>

## 粟井地区社会福祉協議会

やすらぎと 愛の泉の 粟井郷

<b>構成団体</b>	地区民協・自治会・健全育成推進協議会・PTA・日赤奉仕団・自主防災連合会 小学校・中学校・公民館・愛護班連絡協議会・高齢クラブ・ふれあいクラブ 消防分団・ボランティア団体
<b>主な取り組み</b>	<b>活動内容</b>
男性料理教室	地区内の男性を対象に講師の指導で料理を作り、一緒に食事をしながら交流を図っています。
いきいき健康教室	毎年、地域の人を対象に健康や福祉に関する身近な問題を取り上げ、講演会を開催しています。
囲碁将棋交流会	北部福祉交流の家において、囲碁将棋に興味を持つ人が集い、お互いに自由に打ち合っ楽しんでながら交流を図っています。

### 六年生を送る鯛めしづくり会（2月頃）

毎年、粟井小学校6年生の児童と地域の人と一緒に卒業祝いの鯛めしづくりをしています。鯛めしは北条の郷土料理で身近な料理ですが、「自分達で作ると時間もかかり、火加減が難しい。家で手伝いたい。」などと家族や地域の人に感謝をしながら調理を通して交流を図っています。



### <地区社協が目指すもの>

少子高齢化・核家族化が進み、高齢者だけの世帯や身近に親族のいない世帯が増加してきている中、粟井地区社協では実施事業の一つ一つはたとえささやかであったとしても、次のような願いを精一杯込めて活動したいと考えています。

- ①諸事業を通じて人と人の出逢いを増やし、人と人の繋がりや輪が広がってほしいです。
- ②全ての人が住み慣れたこの粟井地区で最期まで健康に幸せに過ごしてほしいです。

<b>地区の状況</b>	■地区民協 民生委員 主任児童委員	11名 2名	■町内会・自治会・区長会等	23団体
	■まち協の設立	—	■高齢クラブ ■子ども会 ■自主防災組織	1クラブ 0団体 21組織

地域住民等が出店するふれあいマーケットや子どもたちが企画から販売まで担って出店するスマイルタウンなど、世代を超えて地域住民の誰もが楽しめる活動を意欲的に行っている地区です。最近では、男性高齢者の社会的孤立化が社会問題となっていますが、地区社協の働きかけにより囲碁・将棋交流会の開催や男性を対象とした料理教室など工夫を凝らし男性が集う行事を積極的に実施しています。これらの活動は、人と人をつなげる仕組みづくりだけでなく地域の人的資源や物的資源を地域コミュニティの中で有機的に結び付け地区の価値を高める効果も併せて期待できるでしょう。



## 地域カルテ ～地区ごとにみる地域特性～

発行日 平成31年3月

発行 社会福祉法人 松山市社会福祉協議会  
松山市地区社会福祉協議会連絡会（通称：地区社連）

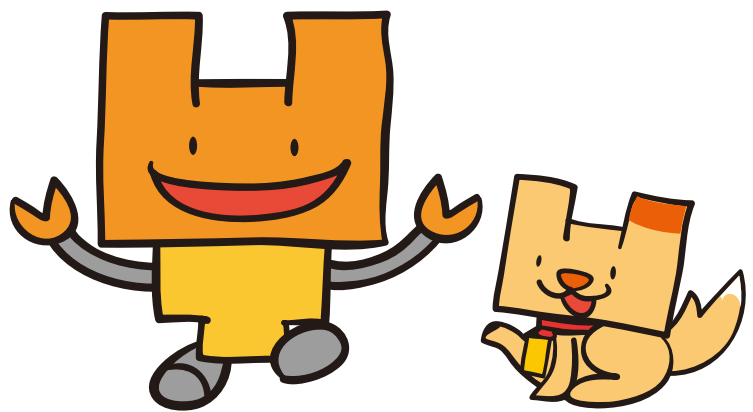
住所 〒790-0808 愛媛県松山市若草町8番地2  
松山市総合福祉センター

電話 (089) 941-3828 Fax (089) 941-4408

Webアドレス <http://www.matsuyama-wel.jp/>

作成 地区社会福祉協議会 / 松山市社会福祉協議会





松山市社協イメージキャラクター  
へごまんくん

へご太

はい!

社協

です。

社会福祉法人

## 松山市社会福祉協議会

■本所（松山市総合福祉センター）

松山市若草町8番地2

電話:089-941-4122 Fax:089-941-4408

■北条支所（松山市北条社会福祉センター）

松山市河野別府937-1番地

電話:089-993-1400 Fax:089-993-1419

■中島支所（松山市役所中島支所2階）

松山市中島大浦1626

電話:089-997-1822 Fax:089-997-1833

■余土支所（余戸中分館2階）

松山市余戸中2丁目8-22

電話:089-971-6790 Fax:089-971-6780

■桑原支所

松山市樽味1丁目4-3（JAえひめ中央桑原支所1階）

電話:089-941-4281 Fax:089-941-4283